

4275	研究者	文部科学省	感染症研究国際ネットワーク推進プログラム	上記施策の事業仕分けの評決結果に反対。	上記施策は多大な成果をあげており、将来の科学振興にも重要。短期的効率化は研究活動の萎縮をもたらす逆効果。
4276	研究者	文部科学省	特別研究員事業	削減するべきではないと考えます。	あるレベル以上の科学者をある一定量、育成することは、我が国が、国際社会で生き残るために必要な国策であると考えます。経済力、技術力だけでは世界における日本の優位性は危うくなりつつあります。科学においても、たとえば近年の超伝導研究においては中国の存在感は量、質ともに大いに高まりつつあります。食糧自給の問題とともに、科学力の維持を日本の安全保障に関する国家戦略として重視すべきであると思います。
4277	公務員	文部科学省	元素戦略	増額するべきである。	日本はいろんな元素を輸入に頼っている。国民生活を守るために確実に適切なものを手に入れるためには、今よりも知識を高める必要があるから、増額すべきである。
4278	公務員	経済産業省	希少金属代替材料開発プロジェクト	増額するべきである。	日本はいろんな元素を輸入に頼っている。国民生活を守るために、また安定した日本、世界の人々を良くするためにも、今よりも知識を高める必要があるから、増額すべきである。
4279	公務員	環境省	循環型社会形成推進科学研究補助金	世界的に見て、増額するべきである。	日本は、資源が少ない。人々が安定して生活するためには、循環型社会にするべきである。世界の人々についても資源が枯渇しては、如何することも出来なくなる。地球の維持自体も危ぶまれる。だから、日本がリードすべき題材である。日本だけ、地球外に出て行くことは出来ないのだから。 増額するべきである。
4280	研究者	文部科学省	継続施策－科学研究費補助金	研究、特に基礎研究分野は費用対効果が見えづらい分野であるが、人材の育成および知的財産の確保という視点（大学等の公的研究機関で学んだ知識、技術を民間の企業で応用する事も含めて）では、極めて重要であるため、可能な限り予算の確保に努めて欲しい。	文部科学省の調査にありますように、我が国の大学の研究費は、アメリカに次いで多いのですが、一方で公費負担の割合は、諸外国と比べかなり低く、研究費の対国民総生産(GNP)比率及び公費負担研究費の対GNP比率は、我が国が最も低くなっているという現状があります。 人材は我が国における最も重要な財産であるため、予算の確保は重要であると考えています。
4281	研究者	文部科学省	特別研究員事業	特別研究員事業は無駄ではない。	大学院博士コースの特別研究員制度(DC)は学生が大学院に進学する動機の一つになっています。もしこれがないと生活に不安を感じ、ただでさえ減っている博士課程進学者が減ってしまいます。 ポスドク向けの特別研究員制度(PD)は、倍率が高くなっており、優秀な研究者でも審査にパスができなくなっています。この制度がなくなると、将来ノーベル賞を受賞できるような若者の未来を閉ざすでしょう。 いずれにせよ、日本の基礎科学の将来を担う若者のために、特別研究員制度はぜひ維持をしていただきたいです。
4282	会社員	文部科学省	オーダーメイド医療の実現プログラム	バイオバンクは日本人特有遺伝子の研究に不可欠である	近年、ゲノム研究が進み、人種の違いにより遺伝子情報が大きく異なることが分かってきた。また、ゲノム情報と疾患や薬剤代謝等の関連性を証明するために数多くの症例が必要であることも事実である。この関連性の情報が無い限り、個別に適した治療が進まず、現在問題となっている無駄な治療の削減はできない。本プロジェクトは日本人特有の遺伝子と疾患の相関性に関するデータを得るための最大な組織であり、続行するべきである。
4283	会社員	文部科学省	ゲノム医科学研究事業（一部）	ゲノム研究はオーダーメイド医療を実現する上で不可欠	近年、ゲノム研究が進み、人種の違いにより遺伝子情報が大きく異なることが分かってきた。また、ゲノム情報と疾患や薬剤代謝等の関連性を証明するために数多くの症例が必要であることも事実である。この関連性の情報が無い限り、個別に適した治療が進まず、現在問題となっている無駄な治療の削減はできない。本事業はオーダーメイド医療を効率良く実現するために不可欠である。
4284	会社員	文部科学省	免疫・アレルギー	花粉症やアトピー性皮膚炎の治療に関する研	マスメディアを通じてこのような取組みを推進している

		学省	一科学総合研究事業	究に取り組んでいる理研免疫アレルギー科学総合研究センターの事業は、今後も継続して積極的に推進するべきである。	ことを知ったため。
4285	研究者	文部科学省	ポストドクター等の参画による研究支援体制の強化	評価結果の撤回を強く要求します。	日本の将来は科学技術の振興とそれを担う高度な人材の育成にかかっており、それを担う若手育成は最重要の課題です。それを削減することは、日本の技術力を将来にわたって大きく停滞させ、若手育成の機会が大きく失われます。予算が削減されることにより、将来ある若手研究者が研究の一線を離れ、単純労働などによって生活を維持せざるをえない状況に陥るのは、日本の将来にとって巨大な損失です。評価結果の撤回を強く要求します。
4286	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	事業の推進を強く求めます。	科学研究費は日本の研究者ひとりひとりの自由な発想に基づく研究の基盤であり、それを一時的にせよ削減することは、日本の科学技術力を将来に渡って大きく停滞させ、イノベーションの機会が大きく損なわれます。資金を縮減することによって研究全体が停止する場合も多くあります。評価結果の撤回を強く要求します。
4287	団体職員	文部科学省	継続施策：科学技術研究奨励金	評価 S：国の科学技術推進に必須な研究開発の促進に極めて重要。 地球規模の課題である人口増と食糧生産、低炭素社会実現、健康・病気克服等は喫緊のテーマです。これらの解決にバイオテクノロジー技術・産業は大きな貢献が期待されます。世界では、バイオテクノロジー・ライフサイエンス研究を実用化し、基幹産業として育成すべく、国家戦略として資源投入を行っています。日本も将来の産業化に繋がるテーマを選択し、思い切った資源の重点投入をすべきです。バイオ分野の産業化には長期間を要します。 具体的な研究開発課題を下記に記載します。 A) 健康・医療 ・がん診断・治療法・創薬： 新規がん診断（バイオマーカー）、革新的な治療技術、新薬の創出 ・アルツハイマー病 ・再生医療 ・新興・再興感染症対策 ・医療分野における IT 技術 ・インフラ： B) 低炭素社会実現技術 ・非可食性バイオマス活用技術： ・未利用資源（バイオガス・天然ガス、メタンハイドレート）活用技術 C) 環境 ・環境修復技術 Bioremediation Phytoremediation D) 食糧・食品：高収量・耐環境性作物、高機能性食品 ・高収量・耐環境作物 ・高機能性食品 E) 資源回収技術 ・レアメタル集積・回収技術	日本は少子高齢化が進む中で、少資源国の我が国が持続的に発展していくために必要なことはイノベーション・科学技術を大切にしたい取り組みと考えます。イノベーションを継続的に創出する科学技術をベースとした国を目指すことが重要と考えます。 また、早期産業化の為に科学技術と整合性のある法・規制等を整備や社会システムの変革が必要です。さらに人材開発・科学教育・サイエンスコミュニケーションの充実を提案します。

4288	団体職員	文部科学省	継続施策：戦略的創造研究推進事業	評価 S：日本は少子高齢化が進む中で、少資源国の我が国が持続的に発展していくために必要なことはイノベーション・科学技術を大切にした取組みと考えます。イノベーションを継続的に創出する科学技術をベースとした国を目指すことが重要と考えます。 その研究は国家の思い切った資源投入によって大きく進展する可能性があります。	特に国家として戦略的に推進すべき研究案の一例を提案します。 A) 健康・医療 ・がん診断・治療法・創薬：死因の約30%はがん、治療満足度低い。新規がん診断（バイオマーカー）、革新的な治療技術、新薬の創出 ・アルツハイマー病：高齢化社会の社会問題、治療満足度は最低 早期発見と治療法の開発・実用化 ・再生医療：世界の開発競争が激化。実用化・産業化に向けたハードルは高いが、ビジネスチャンス大。 iPS、ES細胞（幹細胞）由来の活用技術開発と実用化と個別化医療の実現に期待 B) 低炭素社会実現技術 ・非可食性バイオマス活用技術： 日本の基礎技術力は世界トップレベルである。 コスト競争力のある抜本技術開発、脱石油技術の早期産業化が期待される。 ・未利用資源（バイオガス・天然ガス、メタンハイドレート）活用技術 微生物などの活用によるアミノ酸、蛋白質、バイオ燃料及びバイオケミカルの素材生産技術開発と早期産業化が望まれている。 C) 食糧・食品：高収量・耐環境性作物、高機能性食品 ?高収量・耐環境作物：世界トップレベルの先端植物技術の実用化 食糧、飼料用（栄養補填）、バイオマス兼用作物⇒食糧自給 率 向上、世界的な食料不足・飢餓対策にも貢献できる。 ・高機能性食品：世界トップレベルの先端植物技術の実用化 生活習慣病予防作物の開発と実用化⇒国民QOL向上 血圧、肥満、血糖値等をマーカーとする健康維持・増進のための機能性食品は日本の得意とする分野であり、新産業の拡大発展に期待できる。
4289	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金（科研費）は全国の大学や研究所に配分される研究費で、全ての学術分野の基礎から応用までをサポートしている基本的な研究費です。国のあらゆる競争的研究費のなかで一番多くの研究者人口を支えているものです。従って全体の予算が2000億円近くあり巨額ですが、一人当たりに配られる額は他の競争的資金に比べ遥かに小さいものです。それでもこの研究費を獲得できる研究者は5人に一人以下と厳しいのが現実で、現場ではもっと採択率を上げて欲しいとの声があがっています。将来の展望ある高等教育や学術研究のために、科研費を縮減することのないようお願い申し上げます。	公立高校の実質無償化を実現させるために、どこかの予算を削らなければなりません、一見巨額の科研費を削ってしまうと大学の研究活動に致命的ダメージがもたらされます。そうなっては、せっかく高校の高等教育をサポートしても、その先の大学が空洞化して本末転倒になってしまいます。削るなら、一人の研究者あたりに過剰な研究費が配られているようなものを対象にすべきと思います。
4290	その他	文部科学省	オーダーメイド医療の実現プログラム	現在までの実績もあり、今後の医療のためにも必要不可欠な研究事業だと思う。	世界最大規模の血液・DNAサンプル・臨床情報を保有し、国際的にも重要な役割を果たしている。このような研究は、将来のために、継続して長期的に実施していく必要がある。 日本の今後の医療のためにも、本事業を続けていくべきだと思う。

4291	その他	文部科学省	ゲノム医科学研究事業（一部）	現在までの実績もあり、今後の医療のためにも必要不可欠な研究事業だと思う。	個人の遺伝情報に応じた医療を実現する等、今後の日本の医療に大きく関わってくる事業であり、オーダーメイド医療を実現する上でも必要不可欠な事業である。このような研究は、将来のために、継続して長期的に実施していく必要がある。 日本の今後の医療のためにも、本事業を続けていくべきだと思う。
4292	その他	文部科学省	すべての施策	※ EUに倣って動物実験を減すための提案（書式上、文部科学省としているが、全ての府省庁へあてはめて頂きたい） ・動物実験計画書に、代替法を探したというところにチェックをいれるようにし（現在も形式はなってる？）、この部分だけを第三機関がするような機関を政府が新たに作る。科学の予算は18兆。そのうちの一部分だけでも使って新しく機関を創設する。 ・代替法を開発研究する機関を新しく創設する。現在まで科研費などの税金を使って、すでに人体モデルVAMや、人体ロボットなども開発されている。そういう研究をしてきた（した）研究者や動物実験代替法で発表を行っているような企業の研究者と一緒に、新たに機関を作り、そのためのポジションを作る。 ・募集要項にのせる。その際、関連指針一覧のページをリンクし、（紙ベースの場合別紙をいれる）動物実験指針もいれる。 ・申請書・計画書・報告書に動物実験をする旨を明記させる。動物種と数と内容。チェック項目にも。 ・審査基準に3Rに配慮されているかについての審査基準を含める。審査委員、審査方法を変更できないか。 ・申請書計画書報告書を全てネットで公開する→H20からずでになってる？ ・研究費、事務運営費の内訳および根拠、清算を求める。どのような監査か。 ・使い切ってください、適当に運営費や研究費に適当にいれてください、にならないよう。使い切らないと翌年予算が下りなくなるので悪循環を変えたい。 ・HP各事業概要箇所に、一事業辺りの金額だけでなく、何件採択し、事業全体予算金額を入れる ・滞在費や日当研究費の上限を決める。（ある事業で研究費研究者一人あたり3百万。10人よべば×10） ・HP（文科省、他）見にくい、事業ごとにページが違う。目的のページまでたどりつけない。 ・具体的にどういうメリットが実験者・実験機関と関係者以外の全ての国民にあったのかを審査する第三機関や、審査委員選出方法、審査方法を含めて作る。 ・これだけ税金を投入してこういう失敗があったというデータベースがほしい。 ・動物実験のデータベースが必要。成功、失敗も含めて。 ・具体的などしようもない内容の報告書を探し出し、無駄を指摘する。（専門分野の人の協力が必要）。	・厚生労働省のHPにあるように、「厚生労働省:医学研究に係る厚生労働省の指針一覧」に該当するものがない。 ・募集要項にも動物実験ガイドラインについて一言もない。 ・動物実験をするようなことがあっても、申請書・計画書・報告書にのらない。 ・研究費一人当たり一事業10万円/月、数百万円/1人は多すぎる。滞在費日当も。 ・審査は同業者で行われ、あの大学（研究者）はあの業界で一流だからいい、というような審査内容である。 ・毎年同じような内容で違う事業に応募し、同じようなところがうかつている。 ・一般管理費、事務運営費、などは内訳を記載すれば、報告書の書類のみで、実際に使用した領収書の提示は不要なケースがほとんど。 ・問題があった時のみ、（特段のケースの場合のみ）、帳簿もチェックするというような場合がほとんど。 ・実際には、書類のみの提出なので、実際に使ったかどうかともチェックもしない。チェックもしないので、問題があるのかさえ把握できていない。 ・文部科学省は厚生労働省と比べて、動物実験をするような内容の申請書報告書について規制やガイドラインなど募集要項や申請書計画書段階でのチェックがほとんどない。

				・計画書報告書などを専門的に読み解け、問題点がわかる医学科学研究者の人がいれば、動物実験関連報告書を読み、問題点を把握し、それにかけた税金と国民への利益を天秤にかけて指摘する。	
4293	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	本施策は、科学技術、中でも基礎科学の推進を担う極めて重要なものであり、さらなる拡充を強く要望する。先般の事業仕分けにおいては、科学研究費補助金の一部の種目について、その意義が正しく理解されないまま、短絡的に縮減の方針が打ち出され、強い憤りを禁じ得ない。今後の我が国の基礎科学研究の進め方についての、より建設的かつ長期的な視野に立った議論を進めると共に、本施策の着実な実施、および、今後のさらなる拡充をお願いしたい。	トップダウンで国家的に進める科学技術事業ばかりでは、真の意味での科学技術、特に、将来の成長の源泉となる独創性を育むことは難しい。多くの研究者の、多様かつ自由な発想に基づく模索を適切に支援し、その中から生まれた新しく独創的な知見への芽を大きく育てていくためには、科学研究費補助金のような自由度の高いシステムが絶対に不可欠である。そのような基礎科学研究を担うべき大学は、運営費交付金の継続的な削減が続く厳しい状況にある。本施策のさらなる拡充は、基礎体力をを削減され続けている大学に対して、それを補う効果を持つばかりか、（一律の交付金と比較して）ピア・レビューに基づく適切な競争の下で、研究者同志の更なる切磋琢磨を促し、基礎科学の発展に、より効果的に資すると考えられる。
4294	研究者	文部科学省	事業番号 3-20 競争的資金(先端研究)に対する事業仕分け	科学技術振興調整費、科研費(特推、特定領域、新学術、基盤 S)、戦略的創造研究、戦略的イノベーション、先端的低炭素技術開発、戦略的基礎科学に関する事業仕分けにおける決定は「一元化も含めシンプル化、予算は整理して縮減」とありますが、この決定を撤回し速やかに予算執行をお願いいたします。さらに数学（通常の数学分野にコンピュータ科学も含む）とその応用分野への科研費、CRESTなどの科学研究費の来年度以降のさらなる充実をお願いいたします。	科学技術は我が国の経済成長や国民の健康で豊かな暮らしを支える基盤をなすばかりでなく、人類に新しい知見をもたらすものです。従いまして、国としてはまさに国家百年の計の下、長期的な視点に立って、継続的かつ安定的に科学技術政策を実施していくことが極めて重要であると考えます。 数学は自然科学、工学、社会科学などあらゆる学問分野に応用され、諸学問は数学を抜きにして語ることはできません。また科学技術等の普遍化、革新化は数学なくしてはなしえないことも真実です。しかし、その成果が実社会で活用されるまでには長期間の継続した取組を要します。数学研究自体は個人の探究心と不断的努力によりなされるますが、同時に数学内の異分野との交流、数学外の分野との交流が数学研究を予想不可能なぐらい発展させます。数学研究を他のなににもとらわれない自由な環境のもとに高い志の下に行い、かつ異分野との交流を容易ならしめる環境を支えるのは科研費等の科学技術関係の研究費です。 特に科研費の若手研究費は、新任後の若手研究者について、提案型の研究を奨励するための重要な研究費で、これからの将来を担う若手研究者の育成に大変重要な研究費です。 それをなんの学問的な根拠もなく一時的にせよ削減することは、世界に冠たる日本の数学研究の力を削ぎ、またその上に立脚する多くの科学技術を損なうことになります。 第2次世界大戦により多くの数学者を失ったドイツや、ソビエト連邦の崩壊により多くの数学者を失ったロシアの例をみるまでもなく、一旦退歩した基礎学問をとりもどすには、多くの時間と労力を必要とします。 鳩山総理が所信表明で示された「科学技術で世界をリードする」という方針には、我々数学者はまさに我が意を得ましたが、今回の事業仕分けによる、科学研究に関する費用の削減は我が国の科学技術の健全な発展を損ない、ひいては日本の科学技術力を将来に渡って大きく停滞させ、イノベーションの機会を大きく損なう全く国家の将来を危うくする行為であると考えます。まさに鳩山総理が所信表明に逆行するものです。 早稲田大学基幹理工学部数学科及び応用数学科はこのような国家100年の大罪ともいえる。科研費やCREST等、科学技術関係の研究費の無意味な見直しに対し断固反対を表明するとともに、事業仕分けにおける科学研究に関する費用の削減に反対するものです。
4295	研究者	文部科学省	環境・エネルギー科学研究事業	資源に乏しい日本において、高効率な材料の開発が必要である。 また、将来に向けて環境に優しい材料・技術が求められており、その開発においても本施	10年、20年といった将来を見据えた国家戦略として、国際競争に勝ち抜くためにも必要である。 また、新技術の開発が雇用の開拓にもつながると考えられる。

				策は有効である。 したがって、本施策の施行を強く望む。	
4296	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	私はX線測定でSPring-8を利用しているが、このような施設は世界でも少なく、物質の構造解析などの分野で多大な恩恵を受けている。 また、実際に使ってみると、研究室レベルのX線装置ではとても観測できない微弱な回折パターンまで観測でき、我々の研究推進に役立っている。 さらに、近年では、企業にも利用枠を広げていて、高く評価できる。 しかしながら、本施設の維持、管理には多大な費用がかかることは自明である。 また、もっと利用促進すべきであり、予算縮小は論外である。 したがって、本施策の施行を強く望む。	産官学問わず、研究者が十分に研究を遂行し、国際的にもイニシアチブをとるためには、なくてはならないものであり、広く利用促進するためにも運営資金は必要である。 精密構造解析分野の研究に支障がでると、結果的に工業的にも、医薬的にも研究開発に悪影響を及ぼす。
4297	会社員	文部科学省	宇宙輸送システム	将来、日本が「宇宙宅配便」となるためにもHTVの芽を潰してはならない。	HTVで世界に先駆けた技術は、将来的に日本が「宇宙宅配便」として宇宙への物資の配送を一手に引き受ける大事な技術です。 これは今後の日本にとって重要な基幹産業になりえます。 しかし、一旦足を止めれば他国に先を越され、追いつくことはまず不可能。 追加投資こそあれ、削減や中止などありえない。 決して足を止めてはいけません。
4298	会社員	文部科学省	理数系教員養成拠点構築事業	技術で成り立っている国が理系教育を軽んじることは自殺行為である	輸入に頼る現在の日本において、輸出産業の主力である技術系は重要な国の柱であるが、必ずしも扱いは良くない。 直接理系の職に着く着かないに関わらず、その重要性を教えることは大事なこと。 しかし、既存の教員は基本的に文系出身の人が多いため、 付け焼刃の中途半端な教育では実用足りえない。 10～20年単位で教育水準が安定するまでは、理系専門の教育担当を置くことも一案と思われる。
4299	会社員	文部科学省	理科教育等設備整備費補助	教育設備の敷居を低くすること	現在の実験設備は、「いかにも理系」という感じで興味の無い子には敷居が高い。 当たりの柔らかい実験装置・器具・教材を考案することで、これまで食わず嫌いだっただけの子供へアピール出来る。
4300	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	国立大学の法人化以降、教育・研究に必要な経費が削減されつづけ、今後の日本の科学技術力の維持に不安を覚えます。我国の生活を維持するには科学技術力の維持は必須であり、科学研究費補助金の増額を強く求めます。	民間企業に20年努めた後に国立大学の教員に採用いただきましたが、必要な予算措置がされていない現状に驚きを覚えています。企業から期待されている少し将来のための研究だけでなく、直近の教育にさえ十分な予算措置をされていない感想を持っています。
4301	会社員	文部科学省	次世代スーパーコンピュータの開発・利用	日本の将来のために、産業や暮らしの成長を支える基盤技術である次世代スーパーコンピュータの開発・利用は、スピード感を持ち予算を増額しても国家として積極的に進めるべきである。	世界一のスーパーコンピュータによるシミュレーション技術は、日本を代表する自動車産業などの製造業全般、安心な暮らしを支える医療・医薬産業全般、さらに食を支える農業や環境や宇宙など、産業や国民生活を支える根底の技術であり、この技術が海外勢に劣ることにより日本としての国力・国際競争力が低下・沈下することは明白である。また、海外からこの技術を買ってくるなどは大変な愚問である。国際競争社会において国家の中核先進技術・国力の源泉を他国に渡すなどということは有り得ない。さらに資源が少ない我が国、日本としては、科学技術政策で国力を高める成長

					戦略を描かざるを得ない。従って、本施策は将来への国際競争力への投資として国を挙げて積極的に進めるべきである。
4302	研究者	文部科学省	スーパーコンピュータを生命科学分野で生かす	生命科学分野はコンピューター解析、シミュレーションにより急速に発展した。実験材料、試薬を使用することには莫大な労働時間、人材が必要で、ロボット導入による大規模な解析、ハイスループットな解析が進んでいても限界がある。シミュレーションなどにより、効率的にデータ解析、薬剤効果等を計算することが進めば、実験（wet による）の非効率性を解消し効率的に研究が進む。それだけでなく、これまで、グローバルなゲノム解析、数理解析などで見られたように、新規の学問分野としての可能性が大いにある。したがって、生命科学分野における応用を見越して、スーパーコンピュータの開発を大いに進めることが必須である。	生命科学分野においては、古くから存在する、実験（wet による）科学者が中心であることは否めない。コンピューターによる新規性のある研究の発見がまだ、欧米と比較して日本では軽視されている現状があると思われる。これからもコンピューター分野での優秀な人材を絶やさないためにも、さらなる投資が必要と思われる。
4303	研究者	文部科学省	特別研究員事業	特別研究員事業は優秀な若手研究者の育成に必須である。行政刷新会議において縮減との結論が下されたが、むしろ更なる拡充をするべきである。	上記の刷新会議における結論は、特別研究員事業に関する誤った見解に基づいたものである。 刷新会議での予算縮減の根拠となった意見： (i)特別研究員事業は常勤職に就けないポストクに対するセーフティーネット (ii)同事業はこれらのポストクが民間で活躍する機会を奪うもの 特別研究員事業及び一般に科学におけるポストクの現状： (i)ポストクは研究の現場の主戦力 (ii)学術振興会特別研究員 PD はポストクの中でも一握りの優秀な研究員のみが受給（数物系科学では平成 21 年度の採用率 7.7%） (iii)学術振興会特別研究員 DC は大学院博士課程に所属し、授業料を払って教育を受けつつも、研究に従事し事実上の勤務を行っている学生に対して補助をするものである。PD ほどではないが、やはり優秀な学生のみが受給（数物系科学では平成 21 年度の採用率 28%） 科学立国を真剣に考えるのであれば、優秀な大学院生を海外に逃がさず、卒業後も研究生活に専念できる環境を整えるという意味で、本事業の果たすべき役割は大きい。 また、アカデミックポストに対してポストクの数が多すぎる「ポストク問題」は確かに解決すべき課題である。しかし、特別研究員事業は採用率から見ても特に優秀な研究員のみと与えられているものであり、これを縮減することはポストク問題解消には全く繋がらない。
4304	研究者	文部科学省	感染症研究国際ネットワーク推進プログラム	インフルエンザウイルスなどの新興感染症の病原体は、アジア、アフリカの特定の国々で突然出現し、あっという間に世界中に広がるのが現代社会である。病原体は人間のつくった国境を無視して急速に移動するが、ひとたび分離された病原体は、政治的理由により、研究対象として国外に出されることは非常に難しい。そこで先進諸国は現地国政府および研究者と共同で研究室を設立し、自国研究者を長期派遣し現地国研究者とともに研究にあたる（US-CDC、フランスパスツール研究所、イギリス Oxford University）。日本にこうした国際活動を支援する仕組みがまったくな	行政刷新会議「事業仕分け」において当該プログラムは、「厚生労働省との連携あるいは協力を前提として、廃止または 2 割～半額の縮減」と結論された。この結論は事実と現実を無視した乱暴な結論と見える。厚生労働省の研究所（国立感染症研究所）では法令により限定された事業（予防医学のための）が割り当てられていて、事業内容の不一致、人的不足などから、ただちに当該プログラムの様な事業が実施できない。感染症というキーワードが同じという理由で、これは厚生労働省の仕事といっても現実には制度設計に時間がかかるはず。大学という比較的研究活動に自由度が高い研究者の連携によってはじめて実現されたのが当該プログラムである。来年予算を廃止したら、今まで時間

				かった。感染症研究国際ネットワーク推進プログラム(2005-2010)は、日本の仕組みのなかで現地国における共同研究拠点を実現するために文科省が工夫した現実的方策であった。このプログラム第2期の目的は、現地国につくった研究拠点を維持し発展させることにある。そしてこのプログラムが日本の重要な保健政策の一つとなるべきものである。	をかけて微妙な国際協力により設置した研究拠点は一瞬にして崩壊する。そのことは病原体研究の重要部分を失わせるのみならず、国際的な信頼関係に大きな打撃を与えることになる。予算の縮減も現実には廃止と同様な効果があるはずである。こうした理由でぜひともプロジェクトを第2期に進めるべきものと考ええる。
4305	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	この補助金は、研究者個人のアイデアに基づき研究をすることを可能にするための補助金であり、独創性を育てるのに最も重要なものである。	あらゆる意味で基礎研究の基盤で重要なのは、とくに若い研究者の独創性であり、こうした制度は国家研究支援制度の根幹となるべきものである。
4306	研究者	文部科学省	競争的資金(先端研究)	本施策に対する予算削減処置に、強く反対します。	科学研究費は日本の研究者ひとりひとりの自由な発想に基づく研究の基盤であり、それを一時的にせよ削減することは、日本の科学技術力を将来に渡って大きく停滞させ、イノベーションの機会が大きく損なわれます。 資金を縮減することによって研究全体が停止する場合も多あります。評価結果の撤回を強く要求します。
4307	その他	文部科学省	特別研究員事業	若手研究者への研究奨励金の削減は見直すべき。科学技術の発展のためには多くの研究者が必要だが、こういった研究員制度が廃止されれば研究者を目指す学生が減ることは自明。海外への頭脳流出が進むだけではないか。	単純に切りやすいところから切っただけではないのか。そもそも「成果目標」が明確な研究とは？「本来民間で活躍できた博士研究員(ポストドクター)が、そうした機会を逃すことになっていないか」というのは全く逆で、民間への就職先がないから研究員になるのである。また「大学の研究費での雇用を」といいつつ、そんな予算が大学についているのか。
4308	研究者	文部科学省	バイオリソース事業	この事業では、我が国におけるライフサイエンス分野の基盤となるバイオリソースの整備が行われています。下記に述べる理由により我が国の科学技術、ひいてはわが国の国益のため、継続させていく必要があります。事業の継続性を損なうことのないよう、予算等の資源配分をお願いします。	1) 環境、健康、食料など人類の共通な課題解決において、我が国がイニシアティブをとり国際貢献するためには、ライフサイエンス研究の推進は必要不可欠です。バイオリソースは、そのライフサイエンス研究を行なうための基盤となるものであり、基盤を整備し足元を固めてこそ、それに拠って立つライフサイエンス研究の推進も効果的に進められます。 2) こうした基盤整備は、個々の研究者がばらばらに行うのでは限界がありますし、効率も良くありません。また国家的視点から効果的な整備となるとは限りません。 3) 上記のような認識は、科学先進国である欧米のみならず発展途上のアジア各国においても共通に持たれており、バイオリソースの整備が国家戦略として進められています。こうした中、自国から発信するに足るバイオリソースが整備できないまま他国のバイオリソースを好きにだけ利用させてもらえるという状況が、いつまでも続くとは思えません。 4) 当事業ではライフサイエンス研究において重要な役割を果たしている5種のバイオリソースにおいて、世界最高水準のリソース、我が国独自のリソースの整備を行っています。しかし整備された状態を保つためには、継続的な投資が必要です。 5) また、バイオリソースは生き物なので、一度絶やしてしまったものは二度と元に戻りません。当事業で収集・保存しているバイオリソースは、これまで科学研究費等の国費を使って作られた貴重な知的財産です。維持管理が立ち行かなくなって絶やしてしまったら、海外に譲渡せざるを得なくなったりしてこれまでの投資をムダにしないためにも、途切れることのない資源配分を行うことが肝要です。 6) 当事業では、収集したバイオリソースの開発者の知的財産権の保護にも留意しています。厳格な品質管理により汚染、取り違えを排除し、信頼性の高い実験が行えるバイオリソースを整備し、研究の質の向上にも貢献しています。こうした知的財産権の取り扱いや品質管理の仕方は、事業としてバイオリソースの収集・保存・提供を行って初めて可能となることです。
4309	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費	我が国経済の中長期的な発展と国民生活の向上のためには本施策の遂行は急務であり、予算を増額すべきである。	本施策は、基盤の研究で育ってきた芽を大きく発展させるために不可欠のものである。特に、「先端融合領域イノベーション 創出拠点の形成」事業は、次世代を担う研究者・技術

					者の育成を図りつつ、将来的な実用化を見据えた基礎的段階からの研究開発を目指しており、この遂行によって経済的にも科学技術の発展においてもわが国のイニシアティブを保守するのに大いに貢献するものである。
4310	研究者	経済産業省	低炭素社会を実現する超低電圧デバイスプロジェクト	このような環境を考慮したLSIの革新的な設計技術は世界をリードしていける環境技術であり、積極的に投資を行うべきである。現在の投資額は少なすぎ、世界をリードしていくためには投資額をもっと増やしていくべきである。 技術的な内容に対して無知な人間がやるべき事業であるかどうかを判定できるわけがなく、現在の事業仕分けで議論されている内容はお寒い限り。この程度の意見しか語れない人間が公の場で語っていることが世界に対する恥であると感じる。	資源のない日本が技術立国として、世界の中で繁栄していくためには、他国に対して優位に立てる技術開発を続けていくことが必須である。 特に環境技術は、今後重要度がますます増していく技術であり、地球温暖化防止策として積極的に世界をリードしていくことを掲げているのであれば、投資額を増やすべきであるという議論が必要である。
4311	その他	文部科学省	環境－エネルギー科学研究事業	現在のCO2削減方法や、低消費電力化への流れは急速に進歩していると思われますので、この先十数年はしのいけても、数十年後を考えると先行き不安を感じます。	画期的なCO2削減方法や発電・蓄電方法などを実現できる基礎的な研究は重要であると思います。」 「将来性を見越して新たな技術による画期的な改善策を打ち立てられるようにして欲しいです。」
4312	団体職員	文部科学省	分子イメージング研究戦略推進プログラム	予算削減を行うべきではない	これから高齢化が進むに際し、認知症の研究は必須である。 分子イメージング研究により、非侵襲的な診断方法や画期的薬剤の開発が実現すれば、将来的に医療費の削減にもつながると思う。 昨今の不況の中、この様な研究に費用を投じる民間企業は皆無に等しく、国家レベルでの研究推進が必要不可欠である。
4313	団体職員	文部科学省	分子イメージング研究	予算削減を行うべきではない	分子イメージングの研究に関しては、日本は世界トップレベルを持っている。 しかし予算の削減により研究の停滞や優秀な研究者の海外流出が進むと、「科学技術立国」から程遠い存在となってしまう。 事業仕訳会議において、他の施策に関してはあるが、某国会議員が、「世界一ではなくて世界二位ではダメなのか。」と発言していた報道を見て、心の底から失望した。 初めから2番手3番手を目指しては、世界のトップレベルには到底及ばない。 国家の在り方を決める国会議員が、この様な志が低い発言をしているようでは、日本の凋落は目に見えるようである。 資源のない日本の今後の在り方として、科学技術研究を切り捨てる必要があるのか、真剣に考えてほしいと思う。
4314	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	SPring-8は今後も良質の放射光をユーザーに使いやすい形で提供するために、限りある予算の中でも特に優先して配分すべき施策である。また、運営形態は、SPring-8の運営管理母体である理化学研究所に責任ある形で運営させ、高度な技術水準が保たれる必要がある。従って予算の縮減に反対する。	SPring-8は国内で最も高エネルギーで安定した放射光を発生し、我々のような構造生物学者を始め多くのユーザーに使われており、代替施設が無い研究のインフラである。また、兵庫県播磨にあるため、ユーザーとの距離的不都合があるが、これを補うようにSPring-8管理者は特段の努力（例えばメールインなど）を行っている。また、年々高度化を進めており大変良いデータが取れている。運営形態が問題視されているが、たとえ、天下りの理事を全員解雇したとしても、全てを理研が直接運営しても、効率化される予算規模は1-2億円程度でありこれ以上の縮減は利用者の直接の不利益となる。また、運営費を研究者が支払うべきとあるが、その予算もまた文部科学省から多くの選定の手間をかけて運営されている競争的資金であり特段の増額が見込めない。どのような運営形態をとっても、総予算が縮減されれば直接研究費の格段の縮減となり、日本の科学技術を後退させるものである。

4315	研究者	文部科学省	戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発事業を含む）	真に高い科学技術のために、必要な研究開発費であり、今後継続的に予算を配分すべきである。予算の縮減に反対する。	予算配布の仕組みを効率的にと言う意見は十分に理解できるが、効率的に行っても、効率の上昇だけでは5%も縮減できない。効率化を議論することで、科学技術に関する研究開発費を一方的に削減する事は、日本の科学技術レベルを確実に低下する。
4316	研究者	文部科学省	X線自由電子レーザーの開発・共用	X線自由電子レーザーはまだ未知の光であり、その用途は想像上のものでしかないが、当然ノーベル賞がこの関連成果から出るであろうと予想されるぐらい、圧倒的に過去の光とは異なる性質を持つ。日本が世界をリードする研究分野として、十分な予算配分を行う必要がある。予算の縮減に反対する。	X線自由電子レーザーの開発はアメリカ、ヨーロッパで先行して行われているが、日本ではそれより遅れて開発計画が立られたものの、他施設と比べて非常に安価で、短期間で利用できるレーザーが発振する可能性が高い。十分に日本が世界に先駆けてX線自由電子レーザーの共用を行える可能性がある。大変重要な時期であり、予算の削減は致命的になる。
4317	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	予算削減額を可能な限り抑え、予算配分の優先順位を上げるよう提言いたします。	科学技術の発達には、無数の試行錯誤が非常に長い間行われ、その成果が集積することで、初めて達成される。科学技術に対する予算削減は、たとえ一時的であろうと、こうした脈々とした科学の積み重ねを止めてしまうことになる。これは、科学技術の発達にとって非常に大きな損失である。また、その恩恵を受けることを全世界の人々が待っていることを忘れてはならない。 そして、科学技術の発達に必要な無数の試行錯誤は、主に、若手研究者の発想と多大な努力によってなされるものである。科学技術分野によっては、その研究の重要性は、同時代において正当な評価をすることが難しいこともある。将来に向けて、継続的な投資を、科学研究、特に若手研究者による研究に行っていく必要があると強調いたします。
4318	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うちグローバルCOEプログラム）	予算配分の優先順位を上げるよう提言いたします。	グローバルCOEプログラムをもとに大学の教育体制は大きく改善、発展してきている。このプログラムに期待して学業に励む学生や日々研究に取り組む若手研究者が多い。また、近年の厳しい財政状況のなか、充実した教育体制を支えることの出来る数少ない財源となっている。このプログラムが縮小されれば多くの優秀な学生や研究者が当該分野での活動をあきらめなければならない状況が生まれる。これは、日本の科学技術の発展にとって非常に大きな損失である。
4319	研究者	文部科学省	環境・エネルギー科学研究事業	この事業は、積極的に進める事業であると考えます。	エネルギー問題や地球温暖化の対策として、核融合炉や太陽光発電システムなど、さまざまなシステムが計画されていますが、その能力を支配するのは材料となる物質の性能であり、大きなブレイクスルーはいつも新規材料の発見によって起こっています。 このプロジェクトは、バイオマスのほかにも、熱電変換材料や超伝導材料、新規デバイス材料など、有機物質から無機物質まで幅広い新規材料の探索を計画しております。 新物質開発において現在日本は世界をリードする存在となっていますが、これは日本がこれまで、他国と異なり物質開発の基礎研究に大きな予算を割いてきた結果であると考えております。
4320	その他	文部科学省	大学院教育改革推進事業（グローバルCOE）	継続支援は必至である。	現在、国立大学でグローバルCOEのある拠点の事務に従事しており、日々若手研究者や博士後期課程の学生と接し、「日本の将来を支える頭脳」の育成に事務の面から貢献しているとの意義を感じている。彼らの研究活動を支える補助金は、独立行政法人に天下りしている元官僚への法外な給与等とは全く質が異なるものであり、本来同じ組上で優先順位を判断されるべきものではない。また、営利目的の民間企業ではないのだから、短期間でその成果がわかるものでもない。（但し本グローバルCOEで育成した若手研究者は学会賞を受賞したり国際特許を取得したり、実際短期間で目に見える成果も出している。）関係者の賢明かつ適切な判断を切に希望する。
4321	研究者	文部科学省	戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発事業を含む）	この事業は「科学研究費補助金」と並んで研究者が獲得できる研究費として重要な位置を占めるものであり、今後とも継続していくべきものとする。	科学研究費補助金は特にテーマは設定されずに自分の研究の方向に応じて申請できるもの、一方で戦略的創造研究事業はテーマを設定してそこに合う研究を申請できるものとして、よいバランスが保たれていると考える。目的が限定された大型プロジェクトでもなく、個別研究でもない独自の形態として、貴重な存在である。（情報開示：意見者はこの研究費を受けている）
4322	研究者	文部科学省	次世代スーパー	次世代スーパーコンピュータの開発について	スパコンは先端的科学計算に不可欠の道具である。

		学省	コンピュータの 開 発・利用	は世間で大きな話題になっているが、問題点を整理すべきであると考えます。まず世界のトップクラスに入るスパコンは絶対に必要であると考えます。またそのスパコンを支える人材の育成も重要な課題である。ただし現在の費用が妥当なものについては検討の余地がある。また「世界一位」になることと、その費用対効果を見極めて、とにかくトップクラスのスパコンを実現することに注力すべきではないかと考える。	またスパコンを利用するにはそれを支える人材が必要であり、単にハードウェアを導入すれば済むものではない。したがって、スパコンの開発と人材の育成はセットで実現していく必要がある。ただし、現在のスパコン構築費用が割高であることも否定できないであろう。世界のスパコンがインテルベースのものになるなかで、独自 CPU のスパコン構築は価格も高いリスクも大きい。こうしたある種の「国内メーカ支援」もセットにしたような形での構想が、事業の必要性を見えにくくしてしまっているように思える。また「世界一位」となることが、予算獲得のメッセージと成果の訴求の際に重要であることは理解できるが、そのために必要な投資額が拡大していることも事実で、それが理由で開発中止に結びついては元も子もない。研究者としては世界トップクラスのスパコンがある程度使いやすい形で実現できることが、研究成果を生み出す上で重要なことになるのではないだろうか。その際に LINPACK のような指標で何ヶ月かだけ 1 位になることは、実際的にはそれほど重要なことではない。またたとえ 1 位になったとしても、インテルベースのスパコンはお金しだいでは決まるような雰囲気も出てきた中で、もはやこのスパコンが地球シミュレータの時のような大きな反響を起こすことはないかと予想できる。したがって、国内メーカ支援という部分をどう考えていくか、費用対効果が求められるなかで、とにかく全体がストップすることのないような現実的な解決策を見出していきたいと考えている。（情報開示：意見者は直接的にこの事業には関わっていない）
4323	その他	文部科学省	競争的資金(若手研究)	予算縮減または廃止に強く反対します。	日本は技術立国でありますので 基礎研究にがんばってる 若手を育てることが今とても大事と考えます。 若手研究者は睡眠も削って研究にがんばってる現状を理解し 国の支援を断つことなく応援してあげてほしいと考えます。
4324	会社員	環境省	循環型社会形成推進 科学研究費補助金（競争的資金）	本施策について、予算の削減は行うべきではないと考えます。	気候変動対策、二酸化炭素排出削減に関しては、社会的な関心が高まっており、企業経営とも関係が深くなっているため、民間でもビジネスとして成り立つ部分が増えてきている。その反面、資源の循環的利用に関しては、将来的に重要な分野でありながら、短期的には経済的に成り立たない研究が多く、民間だけでは研究が進まないことが容易に予測される。このような分野に関しては、国の政策として研究開発を積極的に支援することが必要であるため。
4325	会社員	経済産業省	希少金属代替材料開発プロジェクト	本施策について、予算の削減は行うべきではないと考えます。	経産省では、特に特定の産業に限った生産効率向上に向けた施策が多く見られるが、これらの中には、民間企業が自ら研究開発を行うべきものも多いのではないかと。これに対し、目先の利益が保証されない、希少金属代替材料開発は、中長期的には国家戦略として非常に重要でありながら、民間企業が出資しないのが現状である。従って、こうした施策に対しては、将来の国家資源戦略の観点からも、国の政策として研究開発を積極的に支援することが必要であると考えます。
4326	会社員	文部科学省	科学研究費補助金	本施策について、予算の削減は行うべきではないと考えます。	大学等研究機関の独立法人化に伴い、各研究機関は外部資金による研究費の獲得に追われている現状である。短期の利益が見込まれる研究では、民間企業との共同研究、研究委託が期待できるが、将来的には重要な研究であっても短期的な利益が得られない場合には、研究費の確保が非常に困難となる。これは、日本における科学技術の発展にとって懸念すべきことであり、科学研究費補助金は、中長期的に重要な研究や若手研究者の支援のために必要な施策である。
4327	研究者	文部科学省	環境・エネルギー科学研究事業	環境・エネルギー・資源問題は今や国際的な関心事であり、早急に解決しなければならない重要な課題である。世界一の技術力を持つ我々日本が環境・エネルギー問題に革新をもたらす物質創成研究で世界をリードし、国際貢献していく必要がある。本事業は、鳩山内閣が掲げる政策とも合致し、重点的に推進すべき事業である。	環境・エネルギー問題では、施策概要に記されているように、新プロセス・新材料などの革新的な技術開発が鍵となり、これらの新原理構築を目指した基礎研究が極めて重要となる。短期的には既存技術の向上や普及を計ることで本問題に対応するしかないが、長期的には革新的な技術開発が不可欠である。本問題の解決に向け、世界的に様々な基礎研究が行われており、将来実用化も見込める萌芽的な研究成果も出始めている。世界各国が叡智を集結し解決しなければならない本問題に対して、高い技術力と責任をもつ我々日本が背を向けるわけにはいかない。長期的展望をもって本事業の基礎研究を推進し、将来の実用化に

					結び付けるべきである。
4328	会社員	経済産業省	発電用新型炉等技術開発委託費	本施策は、下記理由の通り、日本のエネルギーの確保／安定供給に必要な技術開発と考えられる。特に原子力は高い安全性と信頼性を要求されることから、技術開発に留まらず、規格/基準の整備等、国家基幹技術として推進することは妥当と考える。	エネルギー資源に乏しい我が国では、将来のエネルギー確保のため、原子力発電を推進しており、特に高速増殖炉はウラン資源の利用効率を高めることが出来る為、有効なシステムと考えられる。 日本のエネルギーのベースロードとして位置づけられる原子力の将来展望として、高速増殖炉、サイクル技術は必須であり、これに必要な技術開発は優先順位の高い施策であると思う。
4329	会社員	経済産業省	次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト	できるだけ早い時期に日常生活に使用できる信頼性の高いロボットが安価に入手できるように推進してもらいたい。自家用車を購入するのと同じ程度の感覚で購入できるようになることが近い将来必要になってくると思います。	少子化に伴い将来的に介護負担が増えることは周知の事実であるが、介護要員の労働条件が他の職種に比較して良くない現状では、労働人口が伸びると思えない。したがって、確実に信頼できる介護ロボットの普及に国家レベルで真剣に取り組む必要があると考える。
4330	会社員	経済産業省	高出力多波長複合レーザー加工開発プロジェクト	国産のレーザーおよび加工技術の開発を国の支援で積極的に推進することに賛同します。	レーザは海外製のものが多いが製品ラインアップが多く、シェアが高いので、やむを得ず海外製のレーザを弊社製品に組み込んでいる。しかしその反面、トラブル発生時の対応の悪さ、一方的な仕様変更、信頼性の欠如、為替レートによる価格の変動等、不満が多々ある。国産であれば、そのような不満がかなり軽減されると思われる。
4331	研究者	文部科学省	免疫・アレルギー科学総合研究事業	免疫・アレルギーの研究を推進してもらいたい。	免疫・アレルギー研究の領域は我が国が世界の指導的役割を果たし、癌や喘息などの難治疾患の新規治療法開発に貢献している。今後も、研究を一層推進し、その成果を社会に還元してもらいたい。我が国独自の成果でなければ、海外で開発された新規治療法（薬剤）に対し多大な対価を支払わねばならない。科学技術開発は国の first priority であるべきで、その推進には、積極的投資が必須である。ただ、現在は省庁間で一部重複し、整理を要する分野があり、早急に議論が必要である。
4332	研究者	文部科学省	特別研究員事業	1) 特別研究員事業予算を含めて、日本の若手研究者育成の予算はもともと全く不十分であり、他の若手育成事業も含めた総額予算をむしろ増加させないと、ますます科学者が育たない素地を日本に作ってしまいます。数理科学分野では、学振PDは倍率10倍近くであり、採用人数があまりにも少ないために、せっかく育ちつつある多くの若手の育成をストップさせる現状（の象徴）になっています。 2) 特別研究員制度自体は十分な経験と実績のある制度であり、それ自体の改変はあっても、削減や廃止の対象となるべきものとは全く思いません。しかし、もし削減・廃止が何らかの理由で議論される場合は、それ以外のよりふさわしい制度について、同時に議論すべきです。それがなくうちに「廃止だけを先ず議論する」のは全く不毛で、そのような急激な変化は、その制度によって明るい未来を持っていたであろう若手研究者をゴミ箱に捨てるのと同様の行為となってしまいます。 3) 研究者の育成、広く教育は長期的なタイムスケールで結果の出るものです。その結果がたいへん見えづらい、もしくはわからないことがほとんどであり、投資の際はある意味結果が出ることを「信じて」思い切り投資をする類のものだと考えます。よって、短期に回収する投資だけを考えた予算配分は全く不相当であり、育成に関する予算だけは決して「回収する結果が見えない」といった理由でマイナスにしないでいただきたいと考えております。大型プロジェクトに関わる経費などより優先度がずっと高いと考えております。 4) 非常に偏った意見をもつ（実際に若手を数多く育てて研究の営みに貢献してきたわけでは「ない」と思われる）仕分け人から、「特別研究員制度は余剰ポストドクの救済対策」のような現状を理解していないばかりの意見が出てたいへん問題だと考えております。仕分け人の選定の際は、メディアに露出している	上記の意見各項目に理由をあわせて記述しましたが、不適當でしてでしょうか…（もしお手数おかけするようでしたら、申し訳ありません）。

				人を選ぶのではなく、客観的な意見が出せる人を重々慎重になって選んでいただきたいと考えております。より広い範囲の人に意見を聞いていく機会を、政治サイドと官僚サイドが協力して設けていっていただきたいと思います。 5) 海外のシステムとも比較して、十分な検討をお願いします。国が成り立つ上で必要な科学者数の最低レベルを確保する施策は、決してなくてはならないと考えます。	
4333	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うちグローバルCOEプログラム）	既採択事業について、支給額を減らすべきでない。	現在グローバル COE プログラムは、博士号を取得した直後の若手研究者の主たる雇用先の一つである。ほとんどのプログラムにおいて、若手研究者はプログラム終了後までの任期付きで勤務している。ほとんどの場合、若手研究者は大卒者よりも多少よい、もしくはほぼ変わらない額で、諸手当（交通費、ボーナス、共済保険等）つかないまま月に何十時間も残業し、プログラム運営を支えている。若手研究者は強い発言権を持たないため、予算が減額された場合、真っ先にこのような若手研究者の給与が減らされたり、任期中の解雇が起こる可能性がある。私も含めた全国の若手研究者が、仕分け事業による任期中の解雇、つまり国による理由のないリストラを恐れている。大学は採択後数年間の予算を考慮して若手研究者を雇用しているものであり、突然の減額は法律に反するような事態である。よって少なくとも進行中のプログラムを減額すべきでない。
4334	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費	女性研究者の支援をやめるべきではない。	日本における女性研究者の立場は極めて低く、先進国として恥ずべき状況にある。常勤の女性研究者が存在しない学部や学科もなお多く、若手の女性研究者はよい助言者やロールモデルを見つけられない。また、女性には機会が均等に与えられるべきであるが、実際問題として身体機能の違いなどから、質や量的に女性には遂行が難しい仕事もある。現在は、そのような配慮もされておらず、結果として多くの女性研究者が結婚や出産を諦めたり、常勤ポストを得ることをためらったりする状況が見られる。そしてそのような状況を学生が目にするため、教育的にもおおいに問題がある。女性研究者支援の問題は、文部科学省管轄の研究関連事業の課題に留まらず、日本社会の女性の社会的地位全体の課題である。さらに、女性の地位向上は、日本が国際社会で認められるために必要不可欠なものである。
4335	研究者	文部科学省	特別研究員事業	特別研究員事業の減額はすべきでない。	日本の大学院における経済援助の貧しさは、世界の学术界で有名である。日本の学術を支える人材に投資を惜しむことは、ひいては国益の損失や有能な人材の流出につながる。短期的なスパンでなく、長期的に考えた場合、おそらく現在の 20 代、30 代が中心になって学術を支える 20 年後に取り返しのつかない損失が起こる可能性がある。そして研究員の質的、量的な損失は、大学教育（すなわち次世代の研究者育成）の質の低下に直結し、一旦低下が起こると日本の学術が現在のレベルに回復するまでに極めて長い期間を要することが見込まれる。
4336	研究者	経済産業省	エネルギーITS 推進事業	エネルギーITS プロジェクトは自動車交通における省エネルギー化の推進だけでなく、安全性や交通円滑化による経済活動の活性化をも視野に入れた研究開発である。その成果は温室効果ガス排出量削減だけにとどまらず、国民生活の質の向上へもつながるため、本プロジェクトは国費を投じるに十分値するものであり、是非とも継続・推進を望む。	これまで日本が得意としてきた自動車産業も、中国をはじめとする国々が技術力を付けて台頭し、従来の欧米各国との技術開発競争も激化の一途をたどっていることから、現状のままでは日本が凋落してしまう可能性も否定できない。 本プロジェクトの推進は日本が世界に誇る自動車技術・関連技術をより強固なものにすることができ、同時に、プロジェクトの活性によって有能な研究者・技術者を多く輩出できる。現在、本プロジェクトは関連する研究者・技術者が結束して取り組んでいる最中であり、実証実験も進んでいる。また大学の研究者も多く参画しており、若手研究者・技術者の育成や学生の研究・教育指導にも役立っている。 高い技術力は多くの研究者・技術者の努力の結実によって培われる。自動車技術の向上と世界競争力の強化だけでなく、国民生活をも視野に入れ、人材育成にも役立つ本プロジェクトは世界現況を見て国策・国費による推進が意味をなす。

4337	公務員	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うちグローバルCOEプログラム）	「我が国の大学院博士課程専攻において、世界をリードする創造的な研究者・技術者を養成するため、学問分野ごとに国際的に卓越した教育研究拠点を形成するための支援を行う。」という趣旨に賛同いたします。「科学技術立国日本」を目指す日本の世界へ向けた科学基盤の充実と応用発展を、本プロジェクトがその一端を担っているように思えます。基盤研究の一層の発展により、ノーベル賞級の研究が生みだされ、またその可能性を持つ優秀な人材が教育されて育って行くために、国民の税金をこれに投資するということは有意義であり、特に大切なプロジェクトであると認識しております。我が国の科学系ノーベル賞受賞者が米国に比較して少ないことに、政府が気付き、GCOE 制度の確立がなされたと思っております。本制度はまだ緒についたばかりであり、今後、一層の発展のために支援をすべきところと考えます。	府省としての科学技術関係予算概算要求の基本的考え方である「将来を支える科学技術人材の育成・確保」および重点的に推進すべき課題である「地域科学技術施策の推進」「社会還元加速プロジェクトの推進」「革新的技術の推進」「科学技術外交の推進」のいずれにも本プロジェクトが該当・合致するというのが、その理由であります。さて、今日の我が国の産業・経済の発展は戦後の科学技術の世界的な進歩によって裏打ちされています。今後の我が国の一層の発展には、基礎と応用科学の両面で、世界をリードすることが不可欠であります。即ち「科学技術立国日本」を確固たるものにするために、理学、工学、薬学、環境科学、農学、生命科学、多元物質科学の各領域で、教育・研究の充実をはからなければなりません。GCOE プログラムでは、将来ノーベル賞級の研究を行えるようになる研究者、特に化学系博士の育成も念頭に入れ、多様で複雑な物質系（材料・物性科学、生命科学など）を研究する能力を有する研究者、融合領域の教育と基盤を持つ異才の開発、環境・エネルギー・物質循環などの地球規模の問題を科学的に思考する能力を有する研究者の養成に主眼を置くべきであります。各研究室での GCOE 教授による研究推進はもとより、若手博士課程後期の化学者の経済的支援、短期留学による欧米との共同研究、社会と大学院のパイプ作り（キャリアパス形成支援）が大切であります。将来激しい国際競争を勝ち抜くために、世界をリードする創造的な研究者を育成することを可能にする本プロジェクトは重要であり、これを強く推進することが、国家の産業の発展と国民の利益にかなうものと考えためであります。
4338	研究者	文部科学省	バイオリソース事業	事業仕分けにおいて下された 1/3 程度の予算縮減との評決の再考をお願いするとともに、バイオリソース事業という我が国の知的基盤整備に必須の事業に対するこれまで通りの支援を続けていただきたい。	バイオリソース事業は、これまで科学研究費等の多大な国費を投入して得られた研究成果である生物遺伝資源を集約し、広くライフサイエンス研究コミュニティに提供し、リソースの有効利用、さらなる研究の振興を促すものである。 すなわち、従来は開発者やその共同研究者どまりであったリソースの利用が、より多くの研究者に容易に入手可能になり、振興される。それにより、同様のリソースを再び作製する、などの時間的、経済的な無駄を大幅に削減することができる。 一般に我が国では、せっかく多大な努力、費用をかけてつくられた生物遺伝資源の再・有効利用には「淡泊」であり、ごく限られた利用に留まる、あるいは研究者の退職とともに散逸・滅失することが多かった。対して欧米ではすでに数十年の歴史を持つリソースセンターが存在し、リソースの確保、再利用を継続しており、それが科学の発展を促す源となっている。 また、種々の解析技術は日進月歩の勢いで進歩しているが、それらの新しい技術を用いれば、バイオリソースのさらなる有効利用＝研究の発展が見込まれる。逆にいうと、いくら進歩した技術があっても解析するべき「モノ」がなければ何も生まれてこないことは自明である。 このように、バイオリソース事業で整備される生物遺伝資源は決して「使用済み」の材料ではなく、未来へむけての資産でもある。 バイオリソース事業は、我が国で開発された貴重な生物遺伝資源を集約、整備し、高度な解析に耐え得るようにリソースの品質の管理を行い、広くその所在、性状を知らせるための情報発信を行ってきた。バイオリソースが多岐に渡り、その利用法が高度になっていることを考慮すれば、このような事業は片手間にやる範囲を越えており、恒久的な専門の中核機関が先導する形で行うべきである。そのための中核機関の事業推進が政治的状況により、大きく影響を受けるのは我が国の科学研究推進のために決して良いことではない。 バイオリソース事業は総合科学技術会議等での評価も高く、欧米とのネットワーク形成やアジアでの先導的役割を担う存在になっている。是非この事業に対する継続的な支援を続けていただきたい。
4339	研究者	文部科学省	本格的利用期に	1/3-1/2 の予算削減の撤回	SPRING-8 の運営資金は、人件費や運転のための電気

		学省	適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築		代になっていると思うが、評議結果の 1/3-1/2 を、そのまま行った場合、人件費などを急激に削減できない以上、ビームタイムをほぼ全て削ることになるのではないかと？そのような自体に陥った場合、日本の放射光科学は凋落するのみである。また、科学技術全般の予算削減についても、再考願いたい。スパコンでも
4340	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科研費を削減または廃止するということは、日本の国力を基盤から揺るがすことになるのではないかと。	科研費は、公正なレビューをクリアした優秀な課題にのみ配分される。 大学の運営交付金が削減の一途を辿る中、科研費は個々の研究者にとって生命線であり、これを削減・廃止するということは、直ちに膨大な量の研究がストップすることになるに他ならない。 本来ならば増額すべきであるところを、削減・廃止という判定は、未来の世代の教育を行っている者として到底容認できない。
4341	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費	科学技術への継続的な投資は日本という国には不可欠ではないか	資源の無い日本において、現在最も大きな武器となっている科学技術への投資は、長期的視点で不可欠なものである。
4342	研究者	文部科学省	次世代スーパーコンピュータの開発・利用	継続的な世界ランキングへの影響が必要	スパコンは製造プロセスからクラスタ化、ネットワーク化、果てはソフトウェアまで、様々な技術の総合である。また、競争の激しい分野でもあるので、技術革新は日進月歩である。この開発を放棄するということは、あまりにも損失が大きい。継続的に世界ランキングへ挑戦し続けることを通し、技術の発展を行うべきである。
4343	その他	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	SPring-8 予算削減反対	所かまわず予算削減をしては、日本の科学技術は発展しなくなり、しまいには廃れてしまいます。 SPring-8 は世界有数の、そして日本一の放射光施設です。 日本一の研究機関くらいは、自由に研究者が研究できなければ、技術国日本ではないと思います。 SPring-8 での無駄を排除するのは、しごく最もなことですが、必要のある研究まで削除してしまうのは、誠に遺憾であり、国の未来にとって非常に不利益なことだと感じます。 予算を単純に削減するのではなく、最大限の有効利用をはかるべきだと思います。
4344	研究者	文部科学省	特別研究員事業	特別研究員事業の位置づけの見直しを求めます。 国として積極的に推進するテーマにかかわらず、若手研究者の育成は、長期スパンで見た時に、継続的な高レベル研究・科学技術の維持に不可欠なものとして、「生活の不安を感じる事無く」といった消極的な理由ではなく、積極的に推進すべき事業として位置付けすべきと考えます。	特別研究員は、若手研究者の生活を支援するものではなく、次世代の科学研究を推進発展させるための人材育成そのものです。もちろん生活という面もありますが、むしろ科学研究補助金を元に研究者としての能力をのばす機会という側面が大きな役割を果たしてきました。現在の日本の高い科学技術・基礎科学レベルが以前のこうした積極的支援に支えられていることを考えれば、わが国が継続してそのような科学技術・基礎科学研究を進めて行くためには、今の若手を「積極的に」研究面から支援することが非常に重要です。これは、科学のみならず、人文系研究においても同じことが言えると思います。
4345	団体職員	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	SPring-8 の運転経費を大幅に削減するのには反対です。	SPring-8 は共同利用施設としては、日本でもっとも旨く運用され、成果が出ている施設の一つです。そもそも基礎科学を支えるインフラのサービスはその短期的採算性から、民間ではなく国が、国家の長期ビジョンのもとで実施しているものです。それを単なる採算性、利潤追求が不十分等というんでもない理由で経費を大幅に削減するというのはまったく、馬鹿げた話です。今回の事態はヨーロッパやアメリカの多くの研究者、関係官庁にも衝撃を与えており、海外の多くの識者からも、supporting letters が続々と届いているとも聞いています。
4346	研究者	文部科学省	産学官民連携に	上記施策を支持します。	”必要性”の中に明記されているように、従来の公共

		学省	より地域イノベーションクラスター創成事業（仮称）		事業依存型の地域活性化を打破する唯一の事業として、本施策には重要な意義があると考えます。
4347	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費－女性研究者支援	予算拡大を強く希望します。	女性研究者の多くは、博士を取得してもその先のポストが閉ざされています。使い捨てのポストクなら容易になれますが、大学や研究機関の任期なしの定職に就くのは非常に厳しい状況です。その理由として、女性研究者の出産・育児などが考えられると思いますが、それを足枷と思う社会の認識を正す必要があります。高い目標を持って頑張ってきた女性研究者が他国に比べて迫害されているのは先進国として恥ずべき事と思います。国の政策として女性支援を本格的にするのであれば、本予算を拡大し、研究予算と安定した職を女性研究者に与えるべきです。
4348	研究者	文部科学省	大型放射光施設（SPring-8）	大型放射光施設（SPring-8）の予算削減に強く反対します。	大型放射光施設（SPring-8）は、世界最高の放射光施設で、日本の科学技術にきわめて大きな貢献をしています。世界から高く評価されている大型放射光施設（SPring-8）の予算削減は、日本の基礎科学、応用研究を大きく阻害します。
4349	その他	文部科学省	大型放射光施設（SPring-8）	大型放射光施設（SPring-8）の予算削減に強く反対します。	大型放射光施設（SPring-8）は世界最高の放射光施設で、日本の科学技術にきわめて大きな貢献をしています。世界から高く評価されている大型放射光施設（SPring-8）の予算削減は、日本の基礎科学、応用研究を大きく、阻害します。
4350	その他	文部科学省	大型放射光施設（SPring-8）	大型放射光施設（SPring-8）の予算削減に強く反対します。	大型放射光施設（SPring-8）は世界最高の放射光施設で日本の科学技術にきわめて大きな貢献をしています。世界から高く評価されている大型放射光施設（SPring-8）の予算削減は日本の基礎化学・応用研究を大きく阻害します。
4351	研究者	文部科学省	環境・エネルギー科学研究事業	環境エネルギー問題を改善へと導く、まさに今、全世界的に必要とされる新しい技術の種を植える、芽を育てる事業の後押しをして頂きたい。この事業は削減の対象にしないほしいです。	環境エネルギー関連物質の開発は、世界中での激しい競争野中にあります。一步先んじたほうが、絶対に有利になります。来年再来年ではより多くの投資が必要になります。あるいはもう追いつけず、将来、特許料を外国に払わなければならないという事態にもなりかねません。研究者も現在これに貢献したいというモチベーションが高まっています。これに水を差すようなことがあれば、研究者のやる気がなくなり、これまで培ってきた物作りの技やアイデアが消失してしまいことになるでしょう。
4352	その他	文部科学省	大型放射光施設（SPring-8）	大型放射光施設（SPring-8）の予算削減に強く反対します。	大型放射光施設（SPring-8）は世界最高の放射光施設で、日本の科学技術に極めて大きな貢献をしています。世界から高く評価されている SPring-8 の予算削減は日本の基礎科学、応用研究を大きく阻害します。
4353	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	日本の科学技術の基盤である科学研究費補助金は、科学関連施策の中でも最優先事業であり、今後さらに拡充させる必要があると思われます。	基礎研究によるシーズを持続的に生み出すことが、国力を保ちさらに発展させていくために重要です。そのため、幅広い分野の研究に対して研究資金を配分する科学研究費補助金は、決して減額すべきではなく、むしろ今後も増額する必要があると思われます。
4354	研究者	文部科学省	戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発事業を含む）	科学研究費補助金で発生した有望なシーズに対して、戦略的に人員と資金を配分することにより、研究の芽が大きく育ちます。実際に、これまでに、さきがけ、CREST、ERATOなどによって大きな成果が得られています。このような事業は今後も継続し、より充実させる必要があると思います。	戦略的創造研究推進事業であるさきがけ、CREST、ERATOは、それぞれが担う役割・目的が明確です。科学研究費補助金も含めて、これらの事業は役割分担がきちんとされており、かつ有機的につながっています。したがって、どれも削減すべきではなく、むしろより補強することが将来の国益につながると思います。
4355	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費	日本の科学技術関連のシステムや環境をより整備していくことによって、効率的な研究推進、よりよい研究成果へとつながると思います。そのため、科学技術振興調整費は科学技術関連の中でも優先事業だと思います。	科学技術が国力の源泉であることは疑いようがありません。科学技術関連のシステムを整備することで、その源泉がより豊かなものになるのであれば、国の事業として優先して行うべきだと思います。
4356	研究者	文部科学省	特別研究員事業	科学技術立国を目指す 日本にとり、次世代の若手研究員の要請は必要不可欠です。その基盤となる、大学院学生の支援、および大学院卒業後の支援を目的とした 特別研究員事業は 日本の研究基盤としてなくてはならない制度です。したがって、本制度の継続的な国からの支援を望みます。	現在の基礎研究の基盤の多くは、既存の感性にとらわれない、やわらかい発想を持つ 大学院学生および大学院卒業すぐの若手研究者が担っていると言って過言ではない。そのような若手研究者が 10 年後・20 年後の日本の科学技術を支える柱となると確信している。本施策予算は、そのような若手研究者の卵たちへの先行投資と考えるべきもので、ぜひ本施策の継続を強く要望したい。

4357	研究者	文部科学省	GX ロケット (LNG 推進系飛行実証プロジェクト)	継続すべきと考えます。	大型衛星だけでなく、中型・小型衛星を自国で打ち上げられることは、科学・技術、産業、国力などの点からなくすべきではないと思います。
4358	研究者	文部科学省	特別研究員事業	拡充されることを強く希望します。	ポストの空きが非常に限定されているため、事実上、学位取得直後に常勤の大学教員・研究機関の研究職員に就くことができません。そのため、若手研究者を雇用するポスドク制度は不可欠です。 一方、ポスドクは、単なる「生活保護」というものではなく、若手育成という側面と、研究者としても資質を見極める試用期間という側面もあります。高度に専門化された現代科学において、博士学位取得は最低限の「資格」ではあるが、研究者としての実力を養うためには、さらなる研鑽を積む必要があります。また、研究者としての資質・実力は、博士学位取得前の学生のときではなく、研究者として一人前と扱われる取得後に試されるものだと思います。非常に限られている常勤の大学教員・研究機関の研究職員は真に優秀な人が就くべきですが、ポスドク期間は、研究者としての真の資質と実力を見極めるのに有用だと思います。以上の意味からも、ポスドクの制度は、不可欠だと思います。 さらに、事業規模の大幅縮減になると、本当に優秀な人材が、海外に流出するだけでなく、そもそも研究職を希望しない、あるいは、ポスドクすらポストが見つからずに研究職を断念するという事態が起きます。実際、私の周りでもこのような事例があります。10 年や 20 年という長期的な視点で考えると、このような事態は、日本の科学・技術の衰退を招くことを危惧します。
4359	その他	文部科学省	大学等の施設の整備	大学の研究設備は一部を除いてとても充実しているとは言えない。純粋な基礎科学を行っている大学の研究室をもっと評価するべきだと思う。研究室の方からも、どのような事が知りたくて、その研究にはどのような未来があるのかをアピールする必要がある、そのような事研究者だけではなく国民に広くしてもらう機会（メディアなど）も必要だと思う。 また、もっと広い分野の研究、本質的な子供の「なぜ？」から始まるような、一見役に立つのかどうかかわらないような研究をも行える環境が必要だと思う。（もちろん、それがどのようなものか、知り、広い視野で評価する必要がある）	基礎研究はすぐに創薬や医療に生かされたり、環境改善につながったりするものばかりではない。それゆえ、一見、国民生活に必要なものに思われがちである。しかし、長期的な国民生活の向上を目指す上では絶対に必要なものだと思う。今ある、知識や常識では考えられないような、アイデアや技術が将来医療に役立ち、地球環境を改善し、新しい技術を生み出す事につながると考えられる。現状の損得だけで判断して、研究を切り捨ててしまっでは、何も進まないと思うので。また、若い研究者を育てる事は、今までの知識では考えられなかったようなアイデアが生まれ、新しい方向からの技術向上につながる可能性があると期待されるので。
4360	研究者	文部科学省	3-18-(3) 独）理化学研究所 バイオリソースセンター	バイオリソースセンター事業の予算縮減に反対です。本事業は、日本の科学技術（ライフサイエンス研究）の研究を支援する極めて有益なものでありますので、是非、従来通りの運営ができるよう、政府の援助をお願い致します。	バイオリソースセンターのサービスは、研究資金が潤沢でない研究者でも抵抗無く利用できる価格が設定されており、大変助かっております。受益者負担が増し、サービスの価格が上がると、細胞株の分譲申込みを躊躇する研究者が増え、このことが研究の裾野を狭めることになり、日本の科学技術の衰退につながると思います。
4361	研究者	文部科学省	特別研究員事業	海外（すばる望遠鏡、ハワイ）に勤務する研究・教育職員として意見を述べさせていただきま。天文学を始め日本の科学研究は近年世界のトップレベルの水準に達しています。当観測所でも、世界第一級の成果を上げるに至っていますが、これを担っているのは、若手の研究者たちが開発した装置であります。この事業は、大学院博士課程（24-27 歳程度）、から博士課程修了者（27 歳以上）の研究者が研究に打ち込める環境を保障するための核となるものであり、私が学生であった 20 数年前は、この制度はまだ不十分で、アルバイトに時間を使わざるを得ず、非常に苦勞をしました。日本の科学技術の将来を担う若手研究者が研究を続ける環境を保障する本事業の維持、強化をぜひご検討お願い致します。	1）科学技術研究において、本事業の対象となる年齢（24-35 歳）は研究者として成長し、独り立ちする時期であり、これを支援することは極めて重要 2）現在の日本の科学研究の水準はこれら若手研究者によって維持されており、これを縮減することによる日本の研究へのダメージは極めて大きい 3）これらの研究者のうち、ある割合は将来、教育、企業による実用研究など、へ進む必要性は考えないといけない。このためのキャリアパスを整備したうえで、この事業を推進することが、国の政策上急務である。
4362	会社員	文部科学省	免疫・アレルギー科学総合研究事業	花粉症の根本治療が出来るワクチンの早期開発・実施	花粉症は死に至るような病ではありませんが、多くの人が毎年つらい思いをしています。 一時的に症状を抑える現在の治療ではなく、根本治療が実現できるように研究を進めて頂きたい。
4363	その他	文部科学省	科学技術振興調査	優先度が高い施策だと思います。	若手、女性研究者が競争的資金を獲得することがで

		学省	整費		きる制度として、今後の科学技術の発展には必要な制度と考えられるからです。
4364	その他	内閣府	沖縄科学技術大学院大学の開学準備	優先順位を下げるべきだと思います。	なぜ沖縄に新たな大学院大学が必要なのか、という理由が明確でないからです。 研究の国際的な研究拠点を目指すには立地が良くないと思います。
4365	団体職員	文部科学省	分子イメージング研究	予算を増額し、研究を加速させるべき	がん、認知症、アルツハイマー病といった、克服すべき疾患について、今後少子高齢化が進むにつれて、これらの疾患を抱える人が増えていくのは明らかである。同時に疾患の早期発見の重要性も認識されつつある中で、要求段階とはいえ前年度と同額の予算というのは、既に一定の成果が挙げられ、これ以上推進する必要はないということであろうか。むしろその逆で、患者数の増加が予想される今般の状況下においては、例えば継続的な研究であってもさらに資源（人員・予算）を注ぎ込むべきであり、益して「分子イメージング研究プログラム」が第1期から第2期に移行するような節目、新規課題への着手にあたっては、その足場を固めるべく予算を増額して然るべきと考える。
4366	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	行政刷新会議の事業仕分けの結果に絶対反対	本施設が果たしてきた学問の進展に関する評価を全くしていない。もともとお金をもうけたり、独立採算で運営する施設ではない。 また学問の進歩は人類の共有財産で、大型施設を利用するものが受益負担するという考えは全く可笑しい。
4367	団体職員	文部科学省	重粒子線がん治療研究	重粒子線がん治療に対しては、国家プロジェクトとして、さらなる重点的予算配分を行う必要がある。今後さらに研究を進めていくことで、より高い効果でより副作用の少ない、さらには国民の経済的負担も少なくなるような、高度化、実用化した治療技術として確立していくことが肝要である。	重粒子線がん治療は、放射線医学総合研究所において、これまでに5000例の治療実績を積み重ねてきており、大変良好な成績をおさめている。外科治療や化学療法に比べ、QOLが高く、患者にとつての負担が小さいのも大きな魅力である。また、X線などの従来型の放射線治療法では効き目がなかったようながん細胞に対しても、エネルギーが比較的高いことで高い殺傷効果が得られる。この治療法は、国際的にみても、日本が世界をリードしている技術であり、日本発の先進技術として後進国に対する技術援助や支援を実施していくことで、国際社会の一員としての責務を果たすことにも展開が望める。
4368	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うちグローバルCOEプログラム）	大学院教育改革推進事業（グローバルCOEプログラム）のさらなる維持・強化が必要。特に、博士課程院生の生活支援のため、国際水準に倣って、返還不要の奨学金制度を充実することが必要。	基礎科学振興のためには、常に若い研究者を育成し、その研究最前線に送ることが重要である。しかし、この不況の中で、優れた資質を持つにもかかわらず、生活費の確保が出来ないために博士、特に後期課程への進学をあきらめる学生は多い。学振の特別研究生枠が少ないために、グローバルCOEプログラムが唯一幅広く院生の生活支援を行うための財源となっている。しかし、これでも学費と相殺される程度の支援が限度である。さらに長期的な視野に立ち、国際水準に倣って、博士課程の院生には返還不要の奨学金制度を充実することが必要である。
4369	研究者	文部科学省	特別研究員事業	本事業は、科学技術立国を標榜し「科学のフロントランナー」を目指す我が国にとって、極めて重要な事業である。大学院生・ポストドクターは将来これらの事業をリードすべき貴重な人材であるとともに、現在も研究の現場を支える必要不可欠な戦力である。これが“余剰”若手大学院生・ポストドクターの雇用・生活対策であるなどとする、極めて不適切な認識の下、縮減の方向が打ち出されたことに、強い憤りを覚えざるを得ない。これら大学院生・ポストドクターが果たしている極めて重なる役割を正しく認識して頂くとともに、その適切な支援策の検討を改めて強く要望し、この事業の拡充を求める。	運営費交付金の削減、任期のない常勤研究職ポストの削減が続き、他国との環境の差は広がっている。そのような厳しい状況の中でも、我が国が他国と肩を並べて研究成果を発信し続けているのは、これら大学院生・ポストドクターの存在が大きい。彼らは生活のほとんどを科学の発展のための研究に費やしている。現在の状況が続くどころからさらに悪化させることになれば、彼らを失望させ、さらには今後優秀な若手が研究の世界を敬遠していくと考えられる。そのような状況を回避するためにも、彼らを正しく科学研究の基本的・中心的な担い手として位置づけて評価すべきであり、最も重要な政策の一つとの認識を持っていただきたい。
4370	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費	本事業は、若手研究者や女性研究者養成システムを含んでおり、我が国が科学技術立国として存在しつづけるためには必要不可欠な事業である。いうまでもなく、科学技術の発展のために最も重要な要素の一つは多様性であり、例えば、両性の比率が圧倒的に異なる状態ではこの多様性の確保に重大な支障を来すと考えられる。年代の偏りにおいても同様である。これらの事業の拡充を強く求める。	本来このようなシステム改革は大学等で独自に行われるべきではあるが、毎年、運営費交付金が減らされている状況にあっては、自らの資金で若手育成や女性研究者育成支援を推進することは、事実上不可能な状況にある。このような状況で標記事業の大幅な縮減は、科学技術においてもっとも重要な要素の一つである多様性が確保されず、科学技術の将来の衰退を招くことが危惧される。経済状況が厳しい中ではあるが、このような事業を縮減することは将来に向けての

					種を消費してしまうことに等しいと認識して頂き、最も重要な政策の一つとして、重点的な配分を行ってもらいたい。
4371	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	本事業は我が国における科学技術の研究の基盤を支える極めて重要な事業であり、さらなる拡充を強く求める。先般の事業仕分けにおいて、科学研究費補助金の一部の種目について、その意義を正しく理解されないまま、短絡的に縮減の方針が打ち出され、強く失望している。現状を正しく認識した上で、再考を強く要望したい。本施策のさらなる拡充は、基礎体力を削られ続けている大学に対して、それを補う効果を持つばかりか、（一律の交付金と比較して）ピア・レビューに基づく適切な競争の下で、研究者同志の更なる切磋琢磨を促し、基礎科学の発展に、より効果的に資すると思われる。	大学の運営交付金が削減され続けている現在、我が国の科学研究は標記事業が大きな役割を果たしている。特に産業に直接結びつかない基礎科学においては、科学研究費がほとんど唯一の財源となると言うて良い。基礎科学は現時点で経済的利益をもたらすものではないが、人類の知的好奇心にこたえその知見の広がりを導くものである。基礎科学を推進することは、我が国を国民が誇ることのできる国とするという国そのもののありかたに大きく貢献する。トップダウンで国策的に進める科学技術事業ばかりでは、将来の種となる独創性のような新しい芽を育むことは難しい。研究者の多様かつ自由な発想に基づく模索を適切に支援し、その中から生まれた新しい知見への芽を大きく育てていくためには、科学研究費補助金のような自由度の高いシステムが絶対に不可欠である。
4372	その他	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPRING-8）の運営体制の構築	私は大型放射光施設 SPRING-8 の予算削減に、強く反対いたします。	当施設の予算の削減により、使用料の高騰、使用制限などが起こると、ほとんどの大学のユーザーが使用できなくなることが考えられます。 当施設のこれまでの科学の発展への多大な貢献を考えると、予算の削減は適当ではないと考えます。
4373	研究者	文部科学省	ナショナルバイオリソースプロジェクト	先般の事業仕分けの中で、理化学研究所のバイオリソース事業（施策番号 18）の予算削減判定がなされる中、本予算も削減されることが懸念されます。本事業はバイオリソースの保存と配布という2本の柱から成り立っていますが、いずれの事業についても予算を確保し、少なくとも現行レベルの事業を継続するようお願いしたい。	バイオリソースは生命科学研究、生物利用産業開発の基盤であり、各国ともその維持・拡充には力を入れているところで、保存の重要性については言うまでもありません。また、シロイヌナズナやショウジョウバエ、日本独自のバイオリソースであるカイコなどでは、多数保存されている変異体を解析することにより、新たな遺伝子の機能が次々に解明されており、遺伝子機能の利用につながる研究が急速に進みつつあります。このように、バイオリソースが適切に保存され、必要に応じて配布される体制が整っていることが、研究開発の発展には不可欠です。
4374	研究者	文部科学省	バイオリソース事業	環境やヒトの命にかかわる研究はますます重要になっており、それらの研究を支える基盤である生物材料や生物資源の確保、整備、利活用は国が継続的に支えるべき最優先の施策のひとつと考える。	個人の研究者が各々で生物研究材料をそろえるには莫大な費用と時間を浪費することになり、国家的施策として整備することは、我が国の基礎研究の発展に必須である。欧米では従来から国家的プロジェクトとして戦略的に推進している施策であり、高いレベルの研究成果にむすびつく重要な要因となっている。科学技術の発展や国際競争力を高めるためにもバイオリソース事業は国が推進する施策としてきわめて重要である。特にエネルギー資源の少ない我が国では、生物資源は大変貴重な資源で、知的財産権の問題や生物多様性の問題を考慮すると、国として戦略的に確保して整備すべきである。
4375	研究者	文部科学省	環境エネルギー科学研究事業	バイオマスの有効な利活用のためには革新的な技術開発が必要であり、本事業は強力に推進すべき事業である。	他省庁によるバイオマス関連事業は短期的な視野でのもので、小手先の技術開発とならざるをえない。基礎研究を戦略的に推進することにより、革新的な技術につながる基盤を築くことが国の施策として大変重要である。
4376	研究者	文部科学省	ポストドクター等の参画による研究支援体制の強化	大型プロジェクトを抱えていても、教授と学生だけで動かすのは難しいことが多いので、研究支援体制を整えることは必要だと思います。若手研究者のキャリアパスにもなるので、数年間で終わる事業ではなく、大型予算の研究費については専門的な支援員を雇用することを義務づけてはどうでしょうか。	現在の大学では教授数が最も多く准教授・助教が少ないため、教授1人で構成される研究室も多く、研究プロジェクトの取りまとめから雑務まで多岐に渡り教授が忙殺され、学生指導に充てる時間が少なくなっている状況が見られます。助教の雇用が増えないのであれば、このような研究支援体制は必要ではないでしょうか。 ただし、ポストドクとの違い、事務員（秘書）との違いが分かりにくいので、リサーチ・アドミニストレーターという職種をはっきりさせる必要があるかと思います。
4377	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うちグローバル COE プログラム）	現在のポストドク問題を解決することが先だと思いますので、現時点ではあまり必要のない事業だと思います。	優秀な研究者の育成が目的としていますが、この数年、博士課程への進学率が減っている（定員充足率が低い）のは、大型の教育プログラムの有無や奨学金の有無が主な理由ではありません。博士を卒業した後には常勤職に付ける見込みが大変低い（30～40代で常勤職に付けないポストドクや技術補佐員がたくさんいる）ことを現在の学生は知っているの、進学することに魅力を感じないからです。 数年間限定の博士教育や非常勤雇用プロジェクトを

					おこなうのではなく、若手の常勤職を増やす（もしくは、構成比で最も多くなってしまった教授数を定年になった順に削減し、助教の雇用に戻す）ことが必要ではないでしょうか。
4378	研究者	文部科学省	特別研究員事業	RPD は PD と同様に雇用だけでなく研究費も付けていただきたいと思います。	出産・育児で一時的に研究を離れた後復帰するに際してとても良い制度だと思っています。ただし、雇用費だけでなく自身の研究費がないとどこかの研究機関に受け入れてもらにくいのが現状です。分野によって異なるので必要研究費の多少はあると思いますが、特に理工系では研究費がないと何も研究ができないことが多いので、PD と同様に研究費も付けていただきたいと思います。
4379	その他	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPRING-8）の運営体制の構築	大型放射光施設の予算を減らさないでほしいです。	放射光利用は、ようやく様々な構造解析などの研究手法が確立されてきており、今後ますます基礎的な研究のみならず、定常的に使えるツールとしての期待も高まってきていると思います。特に大型放射光施設 SPRING-8 は、世界最高性能を誇っており、これを最大限利用しないのはもったいないと思います。実際に世界中から多くの研究者が利用しに来ています。苦労して確立した放射光施設を最大限活用するためにも予算を削減しないでほしいです。
4380	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	事業仕分け作業による予算縮減評価の撤回、および制度の一部見直し(予算繰越制度の充実と、予算計画に対する充当率の増加)。ただし、制度のシンプル化をする見直しについては反対。	事業仕分け作業における評価者の資質に疑義があります。まず、評価者の一部が「予算の計上見送り」と評価しておりますが、科学技術研究の予算を見送るということは、本邦における科学技術研究を一時的にも中断するという判断を行う評価者がいるということであり、科学技術の発展そのものを否定しているものと思われる。科学技術の発展は、国内の産業技術等の発展のみならず、人類の知の獲得にもつながるものであり、本邦の利益のみにとらわれて判断できるものではありません。そのような観点から、研究者は、国内外での学会や論文発表という形で、成果をより広く共有するよう努めているとともに、海外からの研究者(学生)等を招聘することで、国内のみならず人類・文化の発展のために研究を続けております。また、研究の一時的な中断は、人材の流出や知の伝承の断絶に直結するものであり、この中断で損失を取り戻すためには、より多くの時間と経費が必要となります。このような中、その基幹的な研究費の計上を見送るという判断をすることは、このような科学技術の現状を全く理解できていないものと思われ、そもそも科学技術関連の予算について仕分け作業を行えるだけの十分な知識を有しているとは考えられません。したがって、少なくとも、計上見送りなどと判断する評価者を除外した上で、再検討を要するものと思われ。 ただし、現状の科学研究費補助金の制度には、制度改革をすることで無駄を省ける可能性は大いにあると思われます。ただし仕分け作業で指摘された予算費目のシンプル(一本)化ではありません。予算費目をシンプルにすることで、運営にかかる費用を削減することは可能かと思いますが、科学研究費の性質上、その経費はごく僅かなものです。むしろ、年度の使いきり予算である点を変更することで、かなりの経費削減が期待されます。現状においても、特別な理由があれば、次年度への予算の繰越ができるように制度変更されましたが、現行の制度はあくまでも形式的なものであり、実質的に機能していません。これは、予算の繰越の理由が「計画段階で予期せぬ事情によるもの」などの制限があるとともに、繰り越した予算分についても、次年度予算と合算して使うことはできず一旦「〇円会計」しないといけないためです。しかしながら、実際の研究現場では研究の進捗状況に応じて予算の執行計画が変更されるため、〇円の単位まで計画的に使いきれることはありません。これを翌年に自由に繰越ができて、さらに次年度予算と合算使用できるようにすれば、現在の〇円会計により損失する予算を有効に活用することができます。 また、事業仕分けの会議の際に、研究に必要な予算が十分に充当されていないのではないかと議論がありました。文部科学省の説明では、科学研究費補助金などにより支援されている研究者には、計画の遂行

					に必要な十分な予算が充当されている旨の説明がありましたが、これも明らかな誤りです。科学研究費補助金の採択率は2～3割で、そもそも多くの研究者は支援を受けることができておりません。さらに、支援を受けられることになっても、その充当率は予算申請額の7割～8割程度、つまり必ず計画変更を余儀なくされる状況にあります。この計画変更のために、当初の予定と比べて、研究の進捗が遅れることもあり、費用対効果の観点からは、予算の無駄な投資になってしまっているとも言えます。予算の繰越制度および充当率について制度の一部見直し(改善)を行えば、現在と同じ予算額で、より高い効果が得られるものと思われます。
4381	研究者	文部科学省	特別研究員事業	事業仕分け作業による予算縮減評価の撤回、および一部の評価者の発言の謝罪・撤回	事業仕分け作業における評価者の資質に疑義があります。直前の競争的資金(先端研究)の議論の中で、若手研究者への支援の重要性について協調されていたにもかかわらず、直後に行われた競争的資金(若手研究)において、予算縮減の判断が下されております。さらに、その縮減幅についても、競争的資金(先端研究)の予算縮減幅よりも大きい結果となっており、完全に矛盾した結果となっております。また科学研究費補助金と同じく、評価者の一部が「予算の計上見送り」と評価しておりますが、科学技術研究の予算を見送るということは、本邦における科学技術研究を一時的にも中断するという判断を行う評価者がいるということであり、科学技術の発展そのものを否定しているものと思われます。特に、特別研究員事業の予算計上見送りとは、本邦における新規(若手)の研究者は不要であるということを意味しており、科学技術の人材の継続性の観点が全くありません。このような判断をする評価者は、著しく評価者としての資質に問題があると思われます。さらに、一部の評価者からは、特別研究員事業は就職先のない若手研究者の雇用対策であるとの発言がありましたが、著しい事実誤認であるとともに、不特定多数に対して発言が伝わることを理解した上でこの発言は研究者に対する名誉毀損となります。特別研究員事業、特にPD事業は、博士学位取得後の若手研究者が研究者としての能力に磨きをかけるために、自らの意思で指導者を選択し、その指導者の下で研究を行うことで、より高い能力を有する人材を輩出するための事業です。つまり、国内および人類の知の発展のために必要な人材をより多く輩出するために行っている事業となります。しかしながら、評価者の一部は、このような制度自身を十分に理解できておらず、雇用対策であることを理由に、計上の見送りまたは大幅な縮減という判断を下しております。従いまして、この制度の評価者としての資質のない一部の者を除外した上で、再検討を要するものと思われます。
4382	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科研費は減額すべきでない。 農水省、経済産業省でおこなっている研究補助との統合などもすべきではない。	基礎科学の推進を図るために必要不可欠だから。 応用面が重視されがちな農水、経済産業省などとは別に、基礎科学者のための競争的資金の充実を図ることが必要。
4383	研究者	文部科学省	ポストドクター等の参画による研究	ポスドク支援を充実させるべき。	将来のリーダーとなるべき若い研究者を育てるべき。
4384	研究者	文部科学省	バイオリソース事業	内容が充実していないバイオリソースは意味がない。 受益者負担を増やすのはナンセンス。	中途半端なコレクションしかないリソースは利用する人がいない。 受益者負担を増やせば利用者が減るのは確実。 バイオリソース事業に採算を求めるのがナンセンス。 結果的に誰にも使われなくなり、存在価値がなくなる一方になるだろう。
4385	研究者	文部科学省	世界トップレベル研究拠点プログラム	第一線の研究、そして海外の第一線の研究者を維持する為には、政府による補助金が不可欠であり、WPI事業の補助金削減には反対する。	京都大学物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)の外国人研究者として、私はこの機関に大変感謝している。日本の学术界は勿論素晴らしい研究を行っていると思われるが、残念ながら閉鎖的である。 この点、WPI事業、またこれに基づく各拠点はその研究は、研究成果を世界に公開し、アピールしようとしているものであり、これは日本の科学技術、また研究者をグローバルなものにしていく上でも大変良い考えだ

					と思われる。 現在のところこの事業は大変順調に進んでおり、このコンセプトはその当然の結果としてモデル事業となり日本の他の大学、また機関へと広がって行くだらう。 それは今後、日本の科学技術、研究を世界レベルのものとしてのインパクトを強めるものとしていこう。 例えば、私は WPI 事業に加わる以前に数カ月を日本で研究を行ったが、私はこの事業に大きく感銘を受けた。京都大学物質・細胞統合システム拠点 (iCeMS) に着任してから、研究生活は快適なものとなった。全ての研究者、またスタッフは英語でのコミュニケーションが可能で、言語の壁がない。これは日本の普通の機関ではほとんど不可能な事だろう。 素晴らしい実績を持つ海外の研究者を WPI 拠点事業に参画させることははこのような環境を維持する上でも必要な事である。
4386	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金の縮減・廃止に強く反対する	科学研究費補助金は、我が国の独創的研究の芽を育み、これを発展させるために必須の資金であり、これが縮減や廃止となれば、我が国の研究の国際的競争力は著しく低下し、日本の科学技術基盤の衰退につながることになる。
4387	研究者	文部科学省	次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム準備研究	次世代スーパーコンピュータ戦略プログラムは、次世代スーパーコンピュータのハードウェア開発と連携して推進すべきソフト開発プログラムであり、ハード・ソフトの連携がなければ、世界最先端の研究成果の達成はありえない。	(記入なし)
4388	研究者	文部科学省	特別研究員事業	特別研究員事業の縮減・廃止に強く反対する	特別研究員事業制度は、人材育成に大きく貢献している。これが、縮減や廃止となれば、次世代の人材育成は著しく阻害されることになる。
4389	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金は自然科学を探索する研究者にとっては、自由な発想で、自分のアイデアを生かし研究を遂行する上で必須の研究費であります。私たちのように直接企業から援助が受けられないような分野(私は素粒子、原子核を専攻しています)では、科研費が唯一の研究費です。私は助教になり3年ですが、若手に属することになります。特に若い研究者が自分のアイデアを生かして研究を行い、将来へのさらに大きな計画へと発展させる足掛かりを作るのは非常に重要なことであり、その基礎を作っているのは、若手 AB などの科研費であります。これらの科研費の理不尽な削減がないようによろしく願います。	自然科学は人間が根元的に持つ知的好奇心を満たすことによって、人々に夢や希望を与えるとともに、企業とも連携して新たな検出器を開発するための動機を与えてきたと考えられる。小柴先生のカミオカンデでのニュートリノ物理と浜松ホトニクスとの連携はその典型だと考えられる。私の専門の素粒子、原子核も一見利益を生み出さない分野に見えるが、日本でもっとも国民や特に子供たちに夢を与える分野であると思う。特に最近のノーベル賞受賞の数々でも分かると思います。私自身もまだ未知の現象を解明するべく、日夜研究を行っていますが、その中で、科研費は必須の研究費となります。我々のような一見利益を生まないような分野では、科研費が唯一の研究費といっても過言ではありません。特に若手に対しての科研費である若手 AB は、研究をスタートさせ、その研究の土台を作り、将来世界の第一線で研究を行うために必須の研究費です。この研究費は誰でも獲得できるものではなく、自分の自由な発想で新しいアイデアを用いて、物理を切り開くよう日夜、将来の研究の構想を積み上げ、それを応募し、しかるべき研究者によって、その優劣が審査される研究費です。 ですので、これらの科研費の理不尽な削減がないようによろしく願います。
4390	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金の拡充を求めます。	科学研究費補助金は研究者にとって極めて重要な研究費です。日本の社会・文化・産業の発展のためには、学術研究の振興が欠かせません。そのためには、科学研究費補助金の拡充が不可欠です。
4391	研究者	文部科学省	大学等の施設の整備	大学等の施設の整備予算の拡充を求めます。	国立大学法人において、優れた人材養成、先端的な研究開発等を推進するためには、研究施設の重点的・計画的な整備・高度化が必要です。
4392	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設 (SPring-8) の運営体制の構築	SPring-8 の予算削減に反対します。	11月13日の行政刷新会議の事業仕分けにおいて、SPring-8の予算要求に対して「3分の1~2分の1の削減」という判定が出しましたが、これだけ予算を削減すると、SPring-8はまったく運転できなくなり、研究できなくなります。最低限の運転ができる予算額を見積もって、予算を決めるべきです。SPring-8は世界最高

					性能を持つ放射光施設であり、国内外の多数の研究者が利用していて、数多くの世界的水準にある研究成果を生み出しております。このため、SPring-8の運転が止まると科学技術の発展に大きく阻害します。
4393	研究者	厚生労働省	第3次対がん総合戦略研究事業	がんに関連する研究費は、優先的かつ重点的に研究費を配分すべきである。今後の我が国の高齢化に伴い、がんと共存する時代を迎えつつある中で、単にがんの死亡率を減らすだけではなく、がん患者の療養生活の質の維持向上を実現していくことが重要である。がんによって苦しむ患者たちの苦痛の軽減を図ることが国家としての責務であり、がん医療の臨床のニーズに対して、いち早く応えるための研究に取り組む厚生労働省のがん研究である第3次対がん総合戦略研究事業に、研究費を重点的に予算配分するよう強く要望する。	がんは、わが国の死因の第一位であり、国民の二人に一人が、一生に一度はがん罹患するというデータがある。わが国において、健康長寿を実現するためには、がんを克服もしくはがん共存できる社会を実現しなければならない。とくに、がんに対する国民の関心は大変強く、国民からのがん対策のより一層の推進を要望され、平成18年にがん対策基本法が成立した。しかし、がん対策はいまだ十分といえず、今後更なるがん対策を進めていくためには、単に医療の充実を図るだけではなく、がん研究に基づく新たな知見の創出が不可欠である。日本サイコオンコロジー学会は、政府が平成19年6月に策定した「がん対策推進基本計画」の全体目標である「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上」の実現に貢献ができるよう、がん患者やその家族が抱える精神心理的な苦痛に対する心のケアを、がん患者の状況に応じて適切に提供できる体制が整備されるよう活動しているものである。がん患者に対する心のケアについては、今後さらなる科学的な研究が求められている分野であり、研究なくしては、エビデンスに基づいた精神心理的な苦痛に対する心のケアの実現は不可能である。ぜひ、がん対策に資するがん研究を進めていくことの重要性をご理解いただき、がん研究をより一層推進していただきたい。
4394	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	大型放射光施設 SPring-8 について、予算削減という判定に反対致します。	評価コメント中には ●現状のようにランニングコストとして国費を年86億投じ続けることに対するアウトプット（メリット）が説明されていない。高額高コストのインフラなら波及効果を含めたメリットを説明しきる努力が必要。 と書かれておりましたが、メリットは数多くあります。 当研究室ではタンパク質の構造解析を行っており、SPring-8は私たちの分野にはなくてはならない施設であると考えております。 国内で数少ない（今のところ2ヶ所しかありません）放射光施設が利用できなくなれば、今後研究活動が行えなくなる可能性があります。 タンパク質構造解析が創薬に繋がることもあり、非常に有意義な分野であることは間違いありません。 記憶する限りでは、いくつかの抗がん剤がタンパク質立体構造に基づいて設計されたという事実もあります。 事業仕分けで賛成できる点は多々ございますが、こうした放射光施設をはじめ研究関連の予算については再考願います。
4395	その他	文部科学省	振興調整費 女性研究者支援システム改革	女性研究者支援事業の継続をお願い致します。	私は現在博士課程に在籍しております。 将来は、研究者として歩んで行きたいと考えています。 そう考えている私にとって、本事業の縮減は誠に嘆かわしき事態です。 女性が社会進出して行く際に、本事業は大変心強いです。どうか、本事業の縮減をもう一度ご検討ください。 宜しくお願い致します。
4396	その他	国土交通省	同8番 地震火山噴火等による被害軽減のための地殻変動モニタリ	優先度判定を実施するに当たり考慮すべきと考えられること この施策は地震、火山、洪水などの自然災害の防止及び被害の軽減を目指すもの	自然災害の防止、被害の軽減は地球環境問題の重要テーマでありその対策の中核となる技術は山地、河川、海岸等の侵食崩壊を防止するハードとしての砂防技術であるが、これまで日本の政府、大学、学術会議、企業など産官学挙げての研究にもかかわらず効

				でありグリーンイノベーションの政策目的に合致する。しかし研究開発すべき技術の範囲は広過ぎるし研究結果の客観的評価は困難な場合が少なくないと思われる。従って研究対象は明確に具体化され限定されているか、実用化のための実験の難易研究スタッフ特に信頼できる研究成果の評価者はいるか、変化を恐れず真のイノベーションを追及する職場環境があるかなどを見極める事が肝要と考える。	果的な技術の開発は出来ず増大多発す自然災害に対処できない事態が続いている。その象徴が千年続く富士山の崩れを止められない事である。しかし近時古くからの重力砂防工法の発想を転換したワイヤー砂防工法が発明され従来工法よりも遥かに簡易迅速低コストの砂防施設建設による災害防止の可能生が開けてきている。この工法は内外多くの国で特許が認められており「土砂崩れ防止工法」のキーワードでインターネット検索をすると YAHOO でも Google でも数万件の記事のトップにリストされているしかし前記の政府その他の関係者はこの発明を評価せず実用化にも消極的で災害多発の状態を放置している。このことはイノベーションを好ま無い風潮が広く産官学の世界に残存している事の現れである。優先度の判定においてはこのような職場環境の有無も考慮すべきである。価値あるイノベーションは自由活発な議論研究が奨励される職場からのみ生まれる。
4397	研究者	文部科学省	女性研究者支援システム改革	女性研究者支援システム改革について、削減の反対意見です。	研究者とは個人としての能力を社会全体のために生かす使命が有ると思います。また、彼らの意見が専門家として政策に大きく影響します。そこに大きな男女比率の違いが存在することはすなわち社会全体の流れに大きく影響を及ぼすことになると思います。研究者のみの女性支援ではなく、これは社会全体への女性支援と考えます。
4398	研究者	文部科学省	科学研究費補助金等の競争的研究資金	かなり減額して、その後の影響を調査するのがよい。	かなり減額しても、その悪影響は顕著に及ばないと考ええる。特に国が重視する基礎研究では、影響はほとんどないか、むしろプラスの影響をもたらす可能性がある。 研究予算ばかりばらまくと、予算の消化に時間と手間がかかり、かえって研究効率の低下を招いている。特に若手研究者に予算消化のための雑用負担が回され、創造的研究の妨げとなっている。 また、研究者間でお手盛りのに予算がばらまかれ、かならずしも優れた研究に回っていない現状もある。 半額程度まで減額しても、研究活力は低下せず、かえって優れた研究成果が増加する可能性がある。
4399	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	・大学等で行われている理学の研究課題の多くは、政府が掲げている最重要政策課題とは直接合致しない。しかしながら、それを理由にそのような理学分野への予算配分を大幅にカットするようなことはしないで頂きたい。 ・理学研究で得られた成果を社会へ還元する活動を後押しする政策を推進して頂きたい。例えば大学にアウトリーチを専任とする常勤スタッフを配置する等の方法により、理学研究で生み出された智の産物を直接経済活動に結びつける手法開発の実施を後押しするなど手法は幾らでも考えられるであろう。	・理学の研究活動は、古今東西人類が本能的に知りたいと願っている根源的課題を解決したいと願う欲求の発露である。この推進は、成熟した社会の国際的責務である。目先の課題の解決が優先され日本がこの推進の手を緩めることは自ら日本社会の成熟度の低さを海外に宣言することに等しい。 ・理学の研究活動は、多くの若者にとって非常に魅力的であり、彼等が能力を更に磨こうと思う大きな原動力になっている。少なくとも私にとっては悩み多き 10 代の時代に物理学と出会ったことがどれだけ大きな救いになったか計り知れない。 ・現代社会を支える技術基盤の殆どは理学研究の成果として古くは 100 年以上前に生み出されたものである。直接何の利益を生み出すのか見えにくい理学研究を支援することは、100 年後の社会を支える礎を築くことになる。
4400	研究者	文部科学省	感染症研究国際ネットワーク推進プログラム	「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム」に、その第 1 期開始を検討する時点から関わってきた者として、このプログラムの継続と発展のための政策推進を要望します	(1) 感染症はグローバルな課題です。中国で新興・再興感染症が見られれば世界中が危機にさらされることは SARS の例で明らかです。危機は疾病という観点からのみならず、経済や社会生活に及びます。新興・再興感染症の抑制には発症の原因を基礎医学的に探りまた疫学的調査、治療法開発が国際連携の中でなされる必要があります。特に国境を越えて研究対象とする病原体の移動が困難な際には現地で国際的研究を展開する必要があります。そのために、文部科学省が支援している海外研究拠点の意義は大きいといえます。 (2) 政治や経済による国交は重要ですが、それらとは独立して学術面で中国と強いパイプを結ぶ意義は大きいといえます。私が所属する東京大学医科学研究所の中国研究拠点設置のパートナーは中国最大の研究組織である中国科学院に属する研究所です。科学院院長（北京政府要人でもあります）が私ども

					の拠点を通した学術交流促進に大変協力的であり、中国側の funding 増強や施設供与で多くの便宜を図ってくれており、第一期が終わり第2期に向けてさらに研究拠点の活性化を図ろうとしているところです。 (3) 中国から多くの優秀な研究者が米国や欧州に留学し、人材の交流が進んでいます。我が国の若手研究者を中国に派遣し、また中国からの若手研究者が我が国に派遣されてくる仕組みが中国研究拠点を通して円滑に進み始めています。感染症というグローバル課題を対象にし、グローバルな視点での若手人材養成に大変重要な役割を果たして本研究拠点プログラムの継続の意義は多大です。 感染症というグローバルな疾患を対象にした場合、国際的研究協力は必須であり、その要の一つとなっている「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム」の推進は、総合科学技術会議が公表している「新たな資源配分方針」にある、「ひとの命を大切にす」「科学技術外交の推進」「人材育成の強化」に合致するものと信じます。
4401	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費	科学技術振興調整費は、雲仙火山の科学掘削を始めこれまで数多くの成果を上げてきている。今後も科学技術振興調整費については、予算の継続を行うべきである。	地球温暖化対策のための CO2 削減など、国家レベルで対応すべき課題は数多くある。その中で、科学技術振興調整費は大きな役割を果たしている。その予算を今後も継続、拡充すべきと考える。
4402	研究者	文部科学省	特別研究員事業	文部科学省特別研究員事業では、これまでに博士課程の大学院生やポスドクに対して、積極的な支援を実施していた。この制度により、数多くの優れた研究者が排出されてきている。	事業仕分けでは予算の縮減が結論されたが、今後の科学技術を支える研究者を育てるための制度は、維持・発展すべきであると考ええる。
4403	その他	文部科学省	科学技術振興調整費 女性研究者支援システム改革	女性研究者支援事業の継続は重要な施策です。 質の高い人材育成は、我が国の国力を支える科学技術発展のうえで最も重要な基盤です。特に先進諸国に比べ遅れている女性研究者の進出を加速しなければ、世界のトップクラスの大学から遅れをとることになります。	女性研究者に限らず、人材育成は短期間で結果が出にくく、また、個人の研究者レベルでは目を向けられにくい。特に国が推し進めるべき事業として実施する必要があると考えます。
4404	研究者	文部科学省	脳科学研究戦略推進プログラム	脳科学研究戦略推進プログラムで実施される「情報脳」「基盤技術」「社会脳」「健康脳」で期待される成果は、今まさに新しい展開が期待される時期にあり、また、人間中心の社会に向かうにつれて今後その波及効果が非常に大きくなるものと予想されるものであり、重点投資する価値が高い。 「その理由」に述べた成果及び取組をふまえて、本事業は更に重点化を進めることが適当であると考えます。	具体的には、平成 20 年度より開始の「情報脳」「基盤技術」ではすでに重要な成果が出されてきている。「情報脳」では、本人が見ている単純化した文字や図形がどういったものであるかを脳イメージングから読み取ることを成功させ、また、臨床研究として外科手術患者の脳表面からの皮質脳波から手の運動をデコードしロボットハンドの動作を実現するといった当初目標の着実な達成が進められている。「基盤研究」では、疾患等のモデル霊長類として期待されるコモンマーモセットで遺伝子改変した第一世代を作出し、さらに霊長類では世界で初めて第二世代にもその改変遺伝子が受け継がれたことを確認するという画期的成果を達成しています。こうした成果は、本事業が目指す社会への貢献として、人に応用できるブレイン・マシン・インターフェースや基礎科学を臨床研究に近づける疾患モデル霊長類の作成といった大きな技術的進展を実現しつつあり、まさに「革新技術の推進」「人の命を大切にす健康長寿社会の実現」にとって更に強力に推進すべき状況であると考えます。平成 21 年度開始の「社会脳」については、社会的行動の基盤となる脳機能を解析するソーシャルブレインマーカー候補の開発に向けて拠点間が緊密に連携しており、統合失調症や自閉症などの疾患に関連してそうしたマーカー候補（分子や脳イメージングデータ）の探索が進められている。その中でまず健常時の恐怖などの情動行動と疾患の進行などの現状を繋ぐキーマン物質や分子・細胞病態が見いだされつつあり、それを軸に分子から脳システム、臨床までの拠点ネットワークが強化が図られている。マーカー候補の確立はそれを利用した臨床研究、基礎研究を幅広く推進させる根幹であり、これまで生物学的な病態が不明であった社会性障害の予防・治療にとってブレイクスルーとなるものであり、このタイミングで重点投資することは大きな社会的波及効果をうむことが期待される。

					平成 22 年度からの要求として出されている「健康脳」は、全身的な機能の維持や回復といった生涯を健やかにおくる生活の質向上を果たすための技術開発に向けて、心身をコントロールする脳機能とその障害に焦点を当てた研究が実施される予定である。特に恒常性の維持と破綻について、近年明らかとなってきた神経新生や脳の発達・発生を切り口にするにより、これまでと違った健康維持に関わる脳の分子基盤や環境因子との相互作用が解明されると期待される。その成果は、高齢者社会に突入している我が国にとって今後ますます重要となる、心身の健康を維持して高齢期を過ごすための養育手法や予防法開発に重要な影響を与えるものである。 本事業では、こうした具体的な成果が生み出されつつあると同時に、この事業の活動がその中に閉じたものではなく、より幅広い研究開発に資するようシステムの改善が進められている。ヒトや霊長類の脳活動データやその解析手法などは取得困難なものが多く、こうしたリソースを出来る限り公開することは、国内の本事業に参加していない研究者により研究の推進に寄与するものである。現在、本事業ではそうしたデータベースの公開を開始している。このような取組は、本事業の直接的な成果としての投資効果に加えて、より広い研究開発の推進に寄与するという投資効果をもたらすものと考えている。
4405	研究者	国土交通省	地震動情報の高度化に対応した建築物の耐震性能評価技術の開発	1995 年兵庫県南部地震以後、日本列島は地震の活動期に入ったと見られ、近年、内陸地殻内地震が頻発している。また、南海トラフではプレート境界巨大地震が近い将来に発生する切迫性も指摘されている。このような背景のもと、建築構造物の耐震性を高めることは重要であり、是非、実施していただきたいプロジェクトと思われる。	建築構造物の耐震性に関する現状の課題として、設計用入力地震動を大きく上回る地震観測記録が得られているものの、構造物の被害が少ないことが挙げられる。いわば、実現象と設計体系が乖離しており、科学的に明らかにする必要がある。この種の課題がなかなか解決しないのは、地盤系の高密度地震観測網に比べ、建物系の地震観測網の整備が大幅に遅れているためである。建物系の地震観測は所有者の財産権の問題があり、民間が実施することは難しい。そこで、国のプロジェクトとして建物系の地震観測を推進し、データを確実に蓄積することが強く望まれる。
4406	公務員	文部科学省	特別研究員事業	学振 DC/PD 特別研究員制度は現状維持	私自身研究者になるにあたり、学振 DC/PD 特別研究員制度の支援を受けました。学振の支援を受けるために必死になって努力してきたこと、また学位取得後、大学や研究機関によるサポートと異なり、研究に専念できる貴重な機会を与えられたことにより、自分自身のキャリアアップにつながった。是非とも存続して頂きたい。
4407	公務員	文部科学省	海外特別研究員事業	学振海外特別研究員制度は現状維持	私自身研究者になるにあたり、学振海外特別研究員制度の支援を受けました。この支援を受けるために必死になって努力してきたこと、採用後は海外で研究する機会に恵まれ、自分自身のキャリアアップにつながった。是非とも存続して頂きたい。
4408	研究者	文部科学省	特別研究員事業	少なくとも例年通りの採用枠で事業を行って欲しい。	博士課程の学生を含む若手研究者が独立した発想で研究を行える、貴重なチャンスである。また、学生支援機構の奨学金の採用が難しい中で、本人の能力で獲得できる数少ない生活費でもある。充実した研究を行う上でも、若手研究者にとって限られたチャンスを奪わないで欲しい。これは長期的にみて、理科離れを減らし自然科学分野の活性化にもつながる事業である。 また、RPD 事業が2 年から3 年に変更され、復帰支援対策としてより現実的な期間となった。このような事業の充実により女性研究者の比率が最低レベルといった現状を変えていくのではないかな。
4409	研究者	文部科学省	ポストドクター等の参画による研究支援体制の強化	是非継続して欲しい。	充実した研究を行う上で、支援体制の強化が必須である。また、支援といった形であっても研究に携わっていきたいと考えている PD も多く存在している。このような事業を通し、研究の充実とポストドク問題のすりあわせを行って欲しい。 もちろん、ポストドク自身も企業など日々方向転換を検討している。ここで事業をやめてしまうと「国にも見捨てられた」という印象が強く、企業への印象が悪くなるのではないかと懸念している。
4410	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学技術関係施策の優先度判定等の実施に関して意見を述べさせていただきます。	科学研究費補助金を重視する理由としては、基礎研究および人材育成の強化という点が挙げられます。一つの研究を進めるうえでは、その研究だけでなく関

				今回対象となった施策の中におきまして、「新たな資源配分方針」に挙げられました「基礎研究の強化」および「人材育成の強化」の観点からも、科学研究費補助金を重視していただくをお願いします。	連する多くの基礎研究の成果が必要になります。そうした成果は一朝一夕に出るものではなく、多くの研究者の努力が必要となります。そうした点で、基礎研究および人材育成は疎かにする訳にはいきません。 また、重視されて研究テーマというのは、時代の移り変わりとともに変化していきますが、基礎研究と人材育成は、どのような研究テーマにも対応できるものです。一方で基礎研究にしても人材にしても、いったん途切れしまうと復活が困難であります。重視すべき研究テーマが要求されたときに、それを支える基礎研究や人材がなければ、そのテーマを研究することができません。 以上の理由から、基礎研究および人材育成の強化を支える科学研究費補助金を重視すべきだと考えます。
4411	研究者	農林水産省	アグリ・ヘルス実用化研究促進プロジェクト	本施策に、鉄や亜鉛などの微量栄養素を高めた作物や、体に害を及ぼす重金属を減らした作物の育種開発も予算に盛り込むことはできないでしょうか？	日本人女性の4割は鉄欠乏の状態にあり、そのうちの1割は貧血症状として現れ、仕事や日常生活に悪影響を及ぼしています。また、老人の方には亜鉛欠乏による味覚障害から、日々の食事を楽しめず、体を弱らせてしまう方もいます。サプリメントの摂取では、毎日飲み忘れてしまう場合も多いし、とカドミウムやヒ素などの重金属を作物から長年体に蓄積してしまうと、高齢になった時に体に様々な悪影響を及ぼして健康な生活を害します。本施策の方針が、人の命を大切にす健康長寿社会の実現であるので、微量栄養素を高めた作物や、重金属を減らした作物も盛り込むことは大きな意義があると考えています。高付加価値のある作物の栽培により、農村の活性化にもつながると思われれます。
4412	研究者	農林水産省	イノベーション創出基礎的研究推進事業(競争的資金)	本施策の中で、ベンチャーの育成枠を増やしてはどうでしょうか？	近年、農林水産業における基礎研究の成熟、特にイネゲノム解読による植物バイオテクノロジーの発展は著しいものがあります。今は基礎研究で得られた知見を基に応用、実用化し、新たな産業を興すことで社会に利益を還元すべき段階にあると思います。そのためには、ベンチャー企業の育成は、非常に重要な意味があると思われます。ベンチャー企業の中からは、将来的に現在のトヨタやソニーのような日本社会を支える大企業が生じる可能性も大いにあると思われます。
4413	研究者	文部科学省	特別研究員事業	支援人数のさらなる拡大（特にPD）をお願いしたいです。	特別研究員事業は、博士課程を終え、まだ若くて体力や発想も柔軟な研究者が自分の自由な発想のもとに主体的に研究を行えるという非常に有意義な制度です。しかしながら、応募人数の割に、実際に採用されるのはごく一部であり、博士を終えた人が応募できるPDでは、一割程度の採用率です。PDが受からなかったことで、博士課程を終えた自分の知人の多くが研究者としての道を諦め、一般企業に就職しております。博士の学生一人を育てるのに、大学も国も多大な研究費や教育費を費やしていると思われます。まったく自分の専門と関係のない一般企業に就職することで専門性を生かせなかったら、本人のみならず大学や国に対しても大きな損失だと思われます。逆に特別研究員として、自分の専門性をより磨き、応用、実用化、産業化につながる研究成果をあげることが出来れば、大学や国に大して非常に大きな利益となると思われれます。
4414	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金は学術研究を推進していく上で欠くことのできない競争的資金であり、このシステムを通じて数多くの研究成果が生み出されてきたことは間違いない。今後も本施策を活用した科学技術研究の振興を強く望むものである。	科学研究の本質は競争的環境における切磋琢磨であり、本施策はこの環境を担保するために重要な役割を担っている。その一方で、過度に予算を切り詰め、採択率が著しく低下するような運用となった場合には、科学技術創造立国を標榜する我が国の基盤的な科学技術力を損なうことにもつながりかねない。特に、ポスドク等の若手研究者は現在の科学技術研究の重要な担い手であり、彼らに対する投資を怠ることは、日本の将来を危うくすることにつながると思われるから。
4415	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業（うちグローバルCOEプログラム）	若手研究者を育成し、研究の機会を提供することは、長期的な科学技術創造立国のために不可欠です。中国、台湾、韓国、オーストラリア、シンガポール等の諸大学が急速にレベルアップするなかで、我が国の研究教育拠点を世界的にも有数なものにすることは、我が国にとって不可欠なことである。科学技術と文化で尊敬される国づくりは、今後の我が国の最も重要な長期的な課題です。このグローバ	グローバルCOEプログラムは、優秀な若手研究者を育成可能な世界的な拠点作りのための事業です。このプログラムによって、このGCOE拠点機関は世界からCOEの拠点として認知されています。また、優秀な若手研究者を任期付研究員として多数雇用しています。そして、その活躍によって世界の拠点としての研究活動を保証しています。このプログラムはこのような研究面でのごすぐれた成果を目指すとともに、大学院教育の国際化と高度化を実施しています。その

				ルＣＯＥプログラムは、研究と教育の両面にわたって成果を挙げています。また、大学院生の支援と若手研究者の雇用の重要な場となり、そのなかから内外の大学、研究機関の指導的教員、研究者に成長してゆくものが多数あらわれている。したがって、世界における拠点作りに大きく貢献し、若手研究者に研究の場を与えているこのグローバルＣＯＥプログラムを優先すべきであると考えます。これは人づくりの重要なプログラムです。	経費は、７割以上が任期付若手研究員の雇用、大学院生の生活支援等の人件費となっている。 このように、拠点の形成とともに若手研究者の育成の重要な施策であるグローバルＣＯＥプログラムをさらに発展させるよう優先していただきたい。
4416	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	これは、我が国の研究を支える基盤的な研究費です。長期的な展望のもと、将来の我が国の科学技術創造立国の地位を危うくしない最も大切な保障であり、日本の長期的なSecurityです。時の政治情勢に左右されるべきでない重要な基盤的な施策です。科学研究費補助金をまず優先して、長期的な我が国の憂いなきものにすべきです。まず、確保する必要がある基盤的施策です。	日本の科学の基盤を支える重要な研究費です。すべてのなかで最も優先すべき基盤的な補助金です。配分方法もこれまでの長年の改善を重ね、諸外国からみても中間評価、事後評価においても信頼でき厳格なものとなってきています。長期的な視点にみてもあらゆるサイエンス分野をカバーしており、一時の時流に左右されない科学研究の保証として、最も重要なものです。米国NSFに相当するものであることから、我が国の科学技術の基盤をつくるものとして、優先することのぞみます。
4417	研究者	文部科学省	特別研究員事業	特別研究員事業は、我が国の研究者育成の根幹をにない、博士課程の研究者の生活のよりどころになっています。この事業がなくなれば、我が国における若手研究は育成と大学の博士課程が壊滅的な打撃を蒙ります。日本の将来の研究者の激減を避けるために特別研究員事業をますます発展されるべきです。将来の科学と技術を担う「人」への投資として、最優先されるべき事業です。短期的な費用対効果で測ってはいけな根幹の事業です。是非優先してほしい。	学術振興会の特別研究員事業は、大学院生の研究および生活支援としての基盤的役割をになっています。また特別研究員はその競争的性格のために内外において重要なキャリアとして定着し、特別研究員からすぐれた研究者、教育者が輩出されています。 この制度は、長年の現場の研究者の意見を取り入れて、改良を重ね現在に至っています。特に大学院博士課程に人材を確保するために、この特別研究員事業が果たしている役割は計り知れません。この事業が不十分であれば、日本の大学院における若手研究者育成に大きな支障を及ぼし、科学技術創造立国のもとに達成した成果を崩壊に導かねない事態に至ります。このように、特別研究員事業は、我が国の若手育成事業の根幹をなし、基盤的な重要性もつものであり、時のサイエンスの政策や時流に左右されないもっとも重要な施策として、優先すべきであると考えます。
4418	研究者	文部科学省	ポストドクター等の参画による研究支援体制の強化	研究者が忙殺されている現状に対する非常に重要な取り組みであると賛成致します。リサーチ・アドミニストレーターや高度技術専門人材の育成、そしてキャリアパスの明確化は、学生も研究者も全員が心配している事柄です。 そこで、この施策をさらに効果的にするため、大学や研究所や企業における「博士学位を持ったワンランク上の技術職員（ディスティンギッシュ・テクニシャン）」の設置を提案致します。研究現場に精通するポストドクターたちをこのキャリアに乗せることができれば、ポストク問題と研究者忙殺問題の両方に有効なアプローチとなるのではないのでしょうか。	現在、多くのポストドクターが技術職員への就職を希望しません。研究者を目指すポストドクターたちのプライドを傷つけてしまうからです。また、この施策は時限付きです。現状、研究者ポストは限られておりまして、一度乗り遅れたポストドクターが、時限付きポストで敗者復活できる可能性はほぼありません。 そこで、このような「ディスティンギッシュ・テクニシャン」的な聞こえの良いパーマナントポストの設置が有効な施策の一つではないかと考えます。
4419	その他	文部科学省	免疫・アレルギー科学総合研究事業	免疫、特にリュウマチに関する研究を進めて新規治療法を開発してほしい。	既存の治療法では効果がないリュウマチにかかり、困っています。新しい治療法開発を進めてもらいたい。
4420	会社員	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	本施策予算要求に対する削減案に反対します。	企業として大型放射光施設の本格利用を開始した現状において、施設運営にかかわる予算が削減され、施設利用に支障をきたすことは絶対に避けてほしい。
4421	研究者	文部科学省	競争的資金（ライフサイエンス分野）	感染症研究の国際ネットワークに関する予算削減に反対する。少なくとも現状維持をお願いしたい。	感染症研究の国際化はわが国だけで完結する問題ではなく、グローバルな視点から考慮すべき課題である。わが国は第2次大戦後感染症を軽視する時代が続き、先進諸国に遅れを取ってきた。私は現にバイオセキュリティに関して日米、日英の共同作業の枠組みを動かしているが、わが国の研究者の層の薄さは明白である。また、感染研は人材育成機能を有せず、大学とは根本的に果たすべき機能が違っている。感染研に今後を担う人材を育成しろというのは無理である。教育機能を有している大学が実地のフィールドで行ってこそ意義がある。感染症研究は各国の安全安心の基盤をなしている。この方面への長期的展望にたった投資を怠るべきではない。

4422	研究者	文部科学省	科学研究費補助金の削減	科学研究費（とりわけ、若手研究）を削減、一部廃止とする評価結果の撤廃を強く要求します。	少子化、および国立大学の法人化により、所属機関より得られる研究費は以前よりも格段に縮小傾向にある。そのうえ、科学研究費まで削減されては、日本の研究者は本国で研究を続ける希望を失い、海外へ流出する者も出てくると考える。優秀な研究者を国内に止めさせるためには、研究をできる環境を国が中心となって整備する必要があり、科学研究費はまさにそうした機能をこれまで担ってきたと考える。特に、将来を期待される若手研究者への研究費削減・一部廃止は深刻な問題であり、日本離れを一層促すことになると懸念する。
4423	研究者	文部科学省	競争的資金（若手研究者育成）	評価結果（科研費の縮小）の撤回を強く要求します。	地下資源の乏しい日本が経済大国たりえるのは、世界最高水準の技術力あってこそであり、高い技術力なしには、高い税収入も得られません。科研費は、科学技術立国日本の研究開発を支える研究費であり、これを縮小することは、日本の国際競争力を後退させ、将来の国益を著しく損ないます。したがって、科研費を縮小するという、この度の評価結果の撤回を強く要求します。
4424	その他	文部科学省	オーダーメイド医療の実現プログラム	22年度の予算額が、21年度予算額と比較して大幅に削減されているが、このオーダーメイド医療実現プログラムの重要性を考えると、7億円にもなる予算削減は妥当ではないと思われる。また、増減理由として「がん等に関する研究に重点化」があげられているが、がん等に関する研究にとどまらず、さまざまな疾患にも重点を置き、総合的な医療プログラムとして機能させていくことが重要であると考えられる。さらに、これらプロジェクトの核となるバイオバンクの存在は、国際的にも重要な事業であり、今後も力を入れていく必要があるの事業ではないだろうか。	近年、ゲノム研究が進むにつれて、さまざまな疾患に用いられている治療薬の効果や副作用の有無、疾患の原因となる遺伝子の研究等が分かりつつあり、これらの研究が進むことにより、投薬前の副作用の回避や適切な治療に大きく貢献すると期待されている。また、無駄な医療費も減少し、国の負担も軽減すると思われる。 また、重点的に推進すべき課題にあげられている「人の命を大切に健康長寿社会の実現」において、このオーダーメイド医療は重要なプログラムであると思われる。この研究は、人々の生活に密接に関連しており、これからますます研究発展していかなければならない分野であると思われる。そのためには、予算を削減するのではなく、今後さらに力を入れていかなければならないと考えたからである。
4425	その他	文部科学省	ゲノム医科学研究事業	ゲノム研究は、オーダーメイド医療の実現に向けて、重要な研究であると考えられる。今後も積極的に力を入れていくべきではないだろうか。	これからの医療には、オーダーメイド医療がとても重要になってくると考える。また、個人に合った診断により、無駄な医療費が抑えられ、結果的には国の予算にもプラスになると思われる。オーダーメイド医療の実現には、ゲノム研究が最も重要であり、研究が進むことにより得られる成果は多大なるものであると考える。そのため、今後も積極的に力を入れていくべき事業であると考えられる。
4426	研究者	文部科学省	気候変動適応戦略イニシアチブ	気候変動への取り組みは、すべての国民が影響を受ける大きな問題であり、今後も多くの分野からの研究を必要とする事項である。したがって積極的に推進していく必要があると考えている。ただし、多くの省庁で似たような事業が提案されており、事業の重複が指摘されかねない状況にもなっているのではないかと。その違いを整理して納得できる形で説明できるような横断的な情報源が必要であるように思える。	気候変動は地球規模の問題であるため、多角的な取り組みが必要であることは当然のことである。ただし、バラバラに取り組んでは研究内容に重複が生じたり、情報の共有によって進展すべき研究も進まなかったりすることがある。事業の重複が指摘されないよう、省庁横断的に各事業の役割を整理して、国民に向かって説明するための情報源も必要なのではないか。気候変動はそうした横断的な取り組みの一つのモデルケースにもなりうるという印象がある。
4427	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費	予算の維持・拡充、「仕分け」の再考を求めたい。	資源もなく、人口の割に国土も狭い日本が、世界の競争の中で勝ち残っていくためには、科学・技術が極めて重要な役割を果たす。特に、たかだか数年のスパンで考えるような目先の利益と直結する科学技術だけではなく、長期的な科学全体の発展が極めて重要である。その観点から、国が科学研究に継続的に資金援助をすることは必須であり、実際主要先進国はおろか、発展途上国も科学研究を国策として援助している。特に、長期を見据えると、次世代の科学研究を担うことになる若手の支援が重要であると考えられる。しかるに、仕分けでは、そのような支援は単なる生活補助であるなどの暴論が出て予算の縮減という扱いになった。一体、若手を支えずしてどうやって日本の科学の将来の展望を描くのであろうか。再考を求めたい。 私自身（科学者）の話をする、日本で教育・研究を行った際は、日本の科研費、若手支援の研究費が非常に支えとなってきた。その後、アメリカに渡り、ポスドクとして研究を行ってきた。ここでも、アメリカ政府の研究支援の予算があってこそ研究が出来たのである。

					先般、日本に戻ってきて共同研究をしないかというお誘いを受け、アメリカ側の、そのままアメリカに残って欲しいというオファーを蹴って日本に戻ってきたのである。しかし、このような日本で科学研究が軽視される様をみると、日本に戻ってきたのは失敗であったか、と思うほどである。周囲でも、このような国ではもう研究などやっていけない、海外に逃げるしかない、日本の科学が駄目になっても愚かな政府の自業自得だ、という憤懣の声を聞く。手遅れにならないうちに、長期的な科学支援の制度を確立していただきたい。
4428	研究者	経済産業省	グリーンITプロジェクト	予算を減らすべきではないと考える。 エネルギー消費量 1/10 かつ太陽電池駆動を可能とする 0.5VCMOS の LSI 回路・システムに関する研究は、今後の人間共生型デジタル家電（ウェアラブル IT システム）・スマートグリッドを実現するための基礎技術である。また、STARC（国内半導体メーカー）研究者と大学研究者との共同研究を担当しており、実用性を強く意識した産学官連携の教育プログラムでもあり、回路・システムの今後強化が必要な新しい人材育成システムとも位置づけられる。そのため、若手研究員育成も含めた研究資金は必要と考える。	半導体 LSI のデバイス製造技術は国際競争力ある程度維持しているが、回路・システム技術は大きく遅れをとっている。今後、最先端 LSI デバイス技術は世界共通化が進展し、回路・システム技術による差異化が重要となる。本プロジェクトの研究対象である、0.5VCMOS 回路によりチップ間通信を含む極低電力 LSI 回路技術が確立すれば、ウェアラブルコンピューティングなどが可能となり、デジタル家電と組み合わせた真の人間共生型 IT システム（安心・安全）が実現され则认为る。 しかしながら、0.5V 回路システム（特に、アナログ、電源）は半導体 p-n 接合参照電圧（0.65V）以下であり、高度な回路・システム技術の研究開発を必要とする。本プロジェクトは、回路・システムのシミュレーションによる性能検証でなく、最先端 LSI を用いた LSI デバイス検証までを実施することが謳われており、実用性のある研究成果が期待される。有効な人材育成・知的財産蓄積も期待される。
4429	その他	文部科学省	振興調整費 女性研究者支援システム改革	女性研究者支援事業の継続と 1/3 縮減に反対します。	理工系大学における女性研究者の処遇は一般的な社会の中での女性の処遇よりも更に悪い状況だと思います。多数派である男性考えが絶対的な決定権を持ち、変化をあまり好まず、常識も一般的な社会とは少し異なっているように見受けられます。その中で変革を求めるためにはこの事業は、縮小することなく継続されるべきだと考えます。
4430	団体職員	文部科学省	世界トップレベル研究拠点プログラム	S ランクでお願いします。	「優れた研究は、多くの研究者の切磋琢磨の中で生まれる。そのため世界のトップレベルの研究者が集う研究拠点を作ることは、我が国の未来にとって大変重要」ということでできたプログラムだったはずです。 日本の科学技術の発展のめには是非とも必要な研究です。
4431	団体職員	文部科学省	科学研究費補助金	S ランクでお願いします。	研究は単年度で、結果が出るものではありません。 日本の未来のため、将来のためにも絶対に削減してはいけない費用であると思います。
4432	団体職員	文部科学省	ナショナルバイオリソースプロジェクト	S ランクでお願いします。	iPS 細胞の重要性はみなさんご存じだと思います。それはヒト ES 細胞の研究も並行して進めていかなければならない事を忘れてはなりません。 質の高いライフサイエンス研究は、日本の将来のために必要不可欠です。
4433	研究者	文部科学省	特別研究員事業	この制度は、将来アカデミックポストにおける活躍が強く期待される若手研究者の育成プログラムである。是非、予算通り実現していただきたい。刷新会議事業仕分け評価コメント（博士政策失敗のつけ・ポストの生活保護のようなシステム等）には、この点に関する事業内容の理解に混乱が認められる。	現在ポストは 1 万 6 千人を超えるといわれるが、特別研究員事業(DC, PD, SPD, RPD)（研究員雇用制度）によるポストは全体の 1 - 2 割であり、現在問題とされているポスト増加の原因でもなく、ましてやポスト救済策でもない。長期的に見た場合、広い知識とそれらを統合し企画する能力を備えた博士は、社会を支える力である。広い意味の人的育成は大学の最大のテーマである。これを保証する一つの支援形態として、研究員雇用制度 DC・PD・SPD・RPD がある。研究プロジェクトによる雇用とはちがいが、自立的研究を進めることのできるものである。優秀な若手研究者に投資をすることは、これからの日本にとって極めて重要である。
4434	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費（若手研究者養成システム改革）	科学技術振興調整費（若手研究者養成システム改革）のテニュアトラック制は、将来アカデミックポストでの活躍が期待される若手研究者の重要なキャリアパスである。制度の充実・拡大を望む。しかし、テニュアトラック制の常勤ポストが 7 - 8 割などということは、制度	本制度は研究員雇用制度に引き続き、アカデミックポストに就く人材を育成するための事業であり、基本的には 5 年間で能力をさらに磨き、テニュア審査を経て、すでに用意されている常勤ポストにつくという制度である。科学技術創出立国を推進するためにも、本施策の「企業へのキャリアパス支援」のような基礎研究

				上ありえないことである。刷新会議事業仕分けでいうようなポスト救済策にはこの制度は相当しない。	分野での学位取得者の能力を産業界でもより有効に発揮できる取り組みが重要である。刷新会議事業仕分け評価コメントにもあるように、ポストなどの高度な科学技術人材が教育現場での科学教育に携わることにより、科学技術教育の高度化が期待され国全体としての利益につながる。ただし、大学や若手研究者本人の努力だけでなく社会全体の体制の変化も必要とし、時間を要する課題である。短期間の就職率だけを見て成果を評価することは、拙速であり非常に危険である。また、特に国立大学では、長期にわたる教員の定員削減や法人化に伴う予算削減の結果、この10年間に助手（現在の助教）のポストが半減している。正規雇用教員の業務も過重を極め、研究と教育の両立が困難を極める状況になっている。この制度を縮減することは、わが国の将来のアカデミックポストの研究者を失うこととなり、科学技術の発展と大学教育を著しく損なうことになる。また、平成21年度の「科学技術白書」は、我が国において基礎研究段階の人材が不足している可能性を指摘しているが、このままでは、問題はますます深刻化する恐れがある。より高度で多様な研究・教育を行うためには、それだけ多くの人材が必要であり、それに見合った任期の長い（無い）常勤職の増員が必要である。
4435	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金（若手研究（S）（A）（B））、特別研究員奨励費を維持・強化していただきたい。	ポストが自立した研究者になるためには、任期の無い常勤職を得るためのキャリアが必要である。各種の若手研究者向け科研費補助金が削減されると、その可能性も断たれてしまう。 この削減を行うことは、若手研究者のキャリア形成に支障を生じさせることになる。この事業は国の将来の科学技術の基盤に不可欠な事業である。
4436	研究者	文部科学省	特別研究員事業	日本の科学技術推進のために、特別研究員事業の存続を希望します。	科学技術はそれ自体が文化的価値を持つだけでなく、科学的発見を通じた人類の抱える諸問題の解決という大きな役割を持つものであり、その重要性は増す一方です。 その科学技術の推進の上で最重要なのは、担い手である研究者の育成です。若手研究者が経済面で不安を感じることなく研究に専念することで研究能力を飛躍的に伸ばすことを目的とした特別研究員事業は、優れた研究者を育成するために必要不可欠な事業です。また、現在既に世界的に活躍している研究者の中にもこれらの制度の支援を受けていた方も多く、この事業の有効性を示しています。
4437	研究者	経済産業省	エネルギーITS推進事業	エネルギーITS プロジェクトは自動車交通における省エネルギー化の推進だけでなく、安全性や交通円滑化による経済活動の活性化をも視野に入れた研究開発である。その成果は温室効果ガス排出量削減だけにとどまらず、国民生活の質の向上へもつながるため、本プロジェクトは国費を投じるに十分値するものであり、是非とも継続・推進を望む。	これまで日本が得意としてきた自動車産業も、中国をはじめとする国々が技術力を付けて台頭し、従来の欧米各国との技術開発競争も激化の一途をたどっていることから、現状のままでは日本が凋落してしまう可能性も否定できない。 本プロジェクトの推進は日本が世界に誇る自動車技術・関連技術をより強固なものにすることができ、同時に、プロジェクトの活性によって有能な研究者・技術者を多く輩出できる。現在、本プロジェクトは関連する研究者・技術者が結束して取り組んでいる最中であり、実証実験も進んでいる。また大学の研究者も多く参画しており、若手研究者・技術者の育成や学生の研究・教育指導にも役立っている。 高い技術力は多くの研究者・技術者の努力の結実によって培われる。自動車技術の向上と世界競争力の強化だけでなく、国民生活をも視野に入れ、人材育成にも役立つ本プロジェクトは世界現況を見ても国策・国費による推進が意味をなす。
4438	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	1. 限られた予算をいかすなら、共同研究利用ができる大型放射光施設の予算を削るべきではない。 2. これ以上、利用者負担を増やすべきではない。 3. 科学技術への予算は、将来への投資である。 4. 「世界2位ではだめか？」は愚問である。	1. 最近の実験装置は大型で高額なものが多い。個別の研究室で購入しても、遊んでいる装置もあると聞く。放射光施設では共同利用であるため、そのような無駄がない。申請して採択されれば、誰でも世界トップの施設が利用できる。実にフェアな制度である。 2. 東京から実験に行くためには、交通費と宿泊費がかかる。現状では、それに利用者負担の消耗品代がある。放射光施設の運営費からみれば、少ない額かも知れないが、若手の研究者からすると、交通費と宿泊費だけでも負担が大変なのに、これ以上、使用料が高くなると、非常に困る。お金のある研究者だけが

					実験できるような制度になってしまい、アンフェアである。 ３．現状での収益性よりも、将来を見越した戦略的な計画が必要である。わが国の科学技術の高さは急に生まれたものではなく、先人たちが培ってきた技術をもとにしている。今、科学技術の予算を削減したら、中国に抜かれ、国が傾いてしまうだろう。誰が責任をとるのか？ ４．オリンピックで「銀メダルを目指せ」というだろうか？技術での２番手は、特許の面でも不利どころか利益なし、である。 これは、予算カットの立場ならではの質問だろう。これにしっかりと応えられるようであってほしい。 本当の意味での「政治主導」であってほしい。
4439	会社員	文部科学省	元素戦略、都市鉱山の実現	民間、産業機器に多くの電子部品が使用されている。これらには多くの有用金属（レアメタルや貴金属・・・）が含まれている。これらの集積-リサイクル、有用金属の採取は個々の企業が取り組んでいるが、いわゆるいいところ取りとなり、経済的に見合わない物は破棄され、結果、有用資源の離散、希薄化につながってしまう。 産、官、学が協力し合って、例えば、非鉄金属資源の探索、製錬技術などを有する日本鉱業協会あるいはその傘下の企業などが中心になり共同の会社なりを創設して、 ・電子部品等の集積システム ・それらの破砕などを含む原料初期化のシステム ・有用金属を順序だてて製錬・採取するシステムなどを構築する。	昨今、レアメタルや有価金属の資源ナショナリズムが猛烈な勢いで進んでいる。これらの対抗措置を国家戦略として講じる必要がある。資源に乏しい日本としては、一つに、いわゆる都市鉱山の実現を図って、資源国による有価金属の価格コントロールに対抗する必要がある。
4440	その他	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	本施設の予算削減に強く反対いたします。	大型放射光施設は日本の科学技術発展に必要不可欠な施設であり、世界に誇れる重要な研究施設です。特に、新薬の開発や様々な病気の原因追求などに関わる蛋白質研究の分野においては、大型放射光施設（SPring-8）をなくしては研究の進展が大幅に遅れる可能性があります。多くの研究者が本施設を利用できるようにするためにも、予算削減には強く反対いたします。
4441	研究者	文部科学省	競争的資金(先端研究)	科学研究費は日本の研究者ひとりひとりの自由な発想に基づく研究の基盤であり、それを一時的にせよ削減することは、日本の科学技術力を将来に渡って大きく停滞させ、イノベーションの機会が大きく損なわれます。資金を縮減することによって研究全体が停止する場合も多くあります。評価結果の撤回を強く要求します。	諸外国との対等な関係及び産業技術において競争力を我が国が発展させるためには、基礎科学の研究は必須であり、そのための研究資金は節約できるものではない。 研究推進のための国家予算は我が国の文化・科学・教育に対する未来への投資である。
4442	研究者	文部科学省	競争的資金(若手研究育成)	科学研究費は日本の研究者ひとりひとりの自由な発想に基づく研究の基盤であり、それを一時的にせよ削減することは、日本の科学技術力を将来に渡って大きく停滞させ、イノベーションの機会が大きく損なわれます。資金を縮減することによって研究全体が停止する場合も多くあります。評価結果の撤回を強く要求します	諸外国との対等な関係及び産業技術において競争力を我が国が発展させるためには、基礎科学の研究は必須であり、そのための研究資金は節約できるものではない。 研究推進のための国家予算は我が国の文化・科学・教育に対する未来への投資である。
4443	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	自己収入の増収を前提にした施設運営費用の縮減に反対します	使用料の主な払い手である製造会社が業績低迷によって研究費削減を余儀なくされているなかで、使用料増収の目途を立てないままの運営費用縮減は、研究活動を自粛せよと言っているも同然です。これまでの15年以上にわたる関係者の努力によって、世界をリードする研究施設に成長し、大きな研究成果が上がりつつあるこの時期に、敢えて活動縮小へ転換する施策はこれまでの人的・経済的投資を無駄にすることになりかねません。縮減ありきではなく、研究活動を更に活発化し、国際的競争力のある魅力的な研究施設にする努力を促す施策をお願いしたいと思います。

4444	研究者	文部科学省	世界トップレベル研究拠点プログラム	本プログラムは少なくとも既存拠点に関しては計画通り5年間継続して、その成果を見極めるべきだと考える。	発足以来2年間で日本にはこれまでになかった研究機関として世界的に注目を集めている。また、拠点で採用されている人の人件費だけでなく、研究者の交流を支援する費用が充実しているために、様々な研究会などが開かれ、世界の多くの研究者が交流し、基礎科学のネットワーク形成に大きな役割を果たしつつある。
4445	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	これまで以上に拡充すべきと考える。	大学等の運営費交付金が毎年削減されている現状において、一般研究者にとって、科学研究費補助金は研究を進めるための唯一の資金源である。将来にわたっても継続的に予算計上されることで、日本の学術研究の裾野を支え、さらなる発展につながる。
4446	研究者	文部科学省	特別研究員事業	継続的に拡大していくべき。	日本の学術研究が継続的に発展していくためには若手研究者が継続的に学術研究を志すことが必要である。常勤の職が多くないために、優秀な人材が産業界や海外に流出し、日本の学術研究を担う人材が減少する恐れがある。
4447	会社員	文部科学省	オーダーメイド医療の実現プログラム	バイオバンクはグローバルな事業となるため、日本国も基盤を固めておくべき。	バイオバンクは今後の国民社会において、必要不可欠な存在。
4448	会社員	文部科学省	ゲノム医科学研究事業（一部）	ゲノム研究は、オーダーメイド医療を実現する上で不可欠。	オーダーメイド医療の実現は、高齢化社会にともなう医療費の高騰、医療の合理化に必要不可欠と思われる。
4449	その他	文部科学省	産学官民連携による地域イノベーション・クラスター創生事業（仮称）	上記施策を支持します。	地域活性化促進の意味で、上記施策は非常に有効であると考えます。
4450	研究者	文部科学省	ポストドクター等の参画による研究支援体制の強化	ポスドク及び助手は大学の研究に必要な人材です。 アメリカでは博士学生に対しても給料を払いますが、日本ではそれさえしていないのでポスドク、助手が研究の担い手となります。 ただでさえ海外と比べて研究者人口が少なく、さらに金銭的にも安い金額しかポスドク・助手に払われていないため有能な研究者は海外に逃げていきます。 研究環境だけでなく人に金をかけなければ日本の研究は終わります。	日本は高度な技術から製品を作り出して売る国です。 その日本から科学技術が無くなったら一気に三流国に落ちぶれます。 それが民主党の望む事でしたら選んだ我々国民が馬鹿でした。 しかしながらそうではない事を期待しつつ、科学技術に対する国の支援を希望します。 多角的に専門家が必要性を判断すべきです。
4451	その他	文部科学省	環境・エネルギー科学研究事業	昨今の、大幅なCO2削減のための研究事業は、目に見えない、地道な研究者の方々の努力によって少しずつ前進しているように感じています。 しかし、研究というものは地道な労力や優秀な頭脳が不可欠です。今すぐ、結果が出るものもあれば、将来の予想を加味して続ければならぬ研究もあります。 環境問題に関する研究は正に続けていかなければならないと思います。	現在の研究事業だけでは、将来に不安が残ります。 自国の環境問題改善のための経費を削減しても、将来他国の環境改善対策を導入しなくてはいけないのであれば、更なる経費が掛かるのではないのでしょうか。 無駄という概念をもう一度考え、研究者や科学者の声に耳を傾けるべきです。
4452	研究者	文部科学省	振興調整費 女性研究者支援システム改革	学内の保育機能の充実の必要性、およびこれを地域住民に開放すべき、との評価者コメントについて反論いたします。この支援事業で開設する保育施設は、学内の女性研究者の利用を優先させることに意義があると思っています。	東京大学では、2008年度に学内限定の事業所内保育園を4箇所開設しました。なぜ、わざわざ大学の費用負担が大きい事業所内保育園を開設したのか、評価者に十分に理解されていないと思います。 地域住民を対象とした認可保育所等は、福祉施設でありますから、当然、母子家庭や共働き家庭の子供を優先的に入園させます。 ところが大学院生やポスドク等の身分が不安定な若手研究者は、収入が少ないにも関わらず、入園申請しても「保育の優先度が低い」と見なされ、特に都市部、東京23区内や川崎、横浜等の大規模都市 においては、まったく入園許可されないことが多く、そ

					の結果ずるずると休学や休職を続け、結果的に研究者としてのキャリアを中断する、というケースが後を絶ちません。また年度内に出産した若手教員は、いくら希望しても保育所が確保できないために、早期の研究復帰が出来ず、最先端の研究から取り残されていくことが研究者生命にとって致命的となっています。 東京大学にて開設した保育園の利用者は、このような「認可保育所に入れてもらえず、育児を頼れる親戚が近くにいない」母親の子供であり、学内保育園は若手女性研究者が研究復帰をするための強力な推進力となっていることを主張したいと思います。 また、フルタイムの学内女性研究者に限定している現在も、応募者が定員を上回る状況で地域住民に開放する余裕は、今のところありません。 逆に地域の保育機能がもっと充実し、利用希望をする女性研究者がしかるべき時期にいつでも入園許可されるようになれば、このような環境整備は必要ではないかと思っています。
4453	研究者	文部科学省	振興調整費 女性研究者支援システム改革	カウンセラーの費用をカット、との評価者コメントについて、女性研究者支援相談室の相談員をしている立場から必要性をコメントさせていただきます。	私が日々受けている相談の多くは、妊娠、出産、子育てに関する悩みと研究との両立および身分不安定な状態のまま研究者を目指していくことへのキャリア不安が複合的に絡み合っており、一般的な就職等の進路に関わるキャリアカウンセラーや女性の生き方相談等の人生相談の類では対応できない性質の相談です。 子育てしながら研究者として成功した女性モデルは、日本ではあまりにも少ないために、これらの悩みを解決できずに研究をあきらめる女性は未だに多く、これらの相談に対応するためのカウンセリング手法を確立することは、女性研究者の増加という目的において喫急の課題と考えております。 私は、学内のカウンセラーとして、単に個別の不安や悩みに対応しているだけでなく、似たような境遇の女性研究者のセルフケアグループを作る、ロールモデルを囲む座談会を企画する、等、問題解決のためのシステム構築も行っています。 これらの地道な取り組みは、トップダウン的な女性研究者支援策と同時進行で、草の根的に大学内の意識改革やシステム改善につながっているものであり、実際に学内外の学生相談所のカウンセラーからも大変評価されております。 予算担当部局の指摘（事業の妥当性）にありますように、大学の意識改革やシステム改善取り組みを先にすべきというのではなく、その具体的な Action のひとつが、専門カウンセラーの配置であることを理解していただきたいと思います。 また、本施策の効果検証については、重要事項ですので支援事業終了時に「カウンセリングマニュアル」という形で公的に発表したいと考えております。
4454	公務員	文部科学省	地域イノベーション創出総合支援事業	研究課題を掲げ公募する方式を取っているものが多い中、標記施策は、研究者が研究課題・計画を提示し応募するものであり、全国地域からの革新的技術を開発することが可能である。 採択に当たっては、「H22年度の科学技術に関する予算等の資源配分の方針」にもあるように「効率的な優先度判定」をすることは必要と思われ、応募内容について厳正な審査がなされるべきであると考えているが、事業仕分けで切り捨てることのないように願いたい。 各省庁において、標記事業のように「競争的資金」として公募されているものがあり、対象分野の重複を避ける必要があるが、各省庁からの支援がなされることを望む。	全国地域から広く、課題を設けず、革新的技術を開発することが重要である。
4455	研究者	文部科学省	ポストドクター等の参画による研	先日の仕分け作業において、実態を反映しない理由でもって当該事業の優先度を低く査定	博士研究員が生活保護であるかの様に言われているが、実態は研究の最前線で活躍する者達である。日

			究支援体制の強化	した事に関して、再考を求める意見	本はこれらの人材に対する手当て（言わば総予算）が薄かった為に、手当てが厚い国、例えば米国に iPS 細胞研究などで遅れをとった。日本が先行して発見したにも係らずこの様な事態になるのは、博士研究員の人数や密度、手当てに大きな差があるのが一因である。このような短期的な例だけでなく、長期的な視点で見た場合も、若手育成予算の削減は、将来の日本の科学技術力を低下させる事が間違いない判断であり、産業の芽をつぶし、広範な科学技術に支えられた日本経済の実力を損なう。 また、短期的には日本の雇用問題を更に悪化させる。今回の仕分け結果は、若年層ほど失職しやすくなる構造を生み出すものになっている。これは雇用マインドを過度に萎縮させ、年齢構成をいびつなものにしてしまう。これはバブル期とその後の日本企業の問題を再現するものである。そして、教育に掛けた税金分の成果がこれから出るというところで若年層から失職させるのは、大いなる無駄である。 以上の理由をもって、ポストドクター等の参画による研究支援体制の強化は優先度を高くする事が、日本の施策として重要であると考えます。
4456	会社員	文部科学省	元素戦略	日本は資源に乏しい国であり、レアメタル等の希少元素の確保は国の命運を左右する国家戦略的な最重要課題の 1 つであります。レアメタル輸出国の多くが何らかの資源保護施策を講じつつある現在、将来的な供給不安は必至であると考えます。だからこそ、使用済みのレアメタルを回収し、再生する技術の開発は技術立国日本を支える最重要テーマであると思います。今回の事業仕分けの名の下に、国の支援が打ち切られるようなことになれば、国家百年の計を損じることとなることは自明であり、予算が無意味に削減されることがないように切望するものであります。	希少元素の再生技術確立は、国家戦略的な重要課題である。
4457	会社員	経済産業省	希少金属代替材料開発プロジェクト	日本は資源に乏しい国であり、レアメタル等の希少元素の確保は国の命運を左右する国家戦略的な最重要課題の 1 つであります。レアメタル輸出国の多くが何らかの資源保護施策を講じつつある現在、将来的な供給不安は必至であると考えます。だからこそ、使用済みのレアメタルを回収し、再生する技術の開発は技術立国日本を支える最重要テーマであると思います。今回の事業仕分けの名の下に、国の支援が打ち切られるようなことになれば、国家百年の計を損じることとなることは自明であり、予算が無意味に削減されることがないように切望するものであります。	希少元素の再生技術確立は、国家戦略的な重要課題である。
4458	会社員	環境省	循環型社会形成推進科学研究補助金	日本は資源に乏しい国であり、レアメタル等の希少元素の確保は国の命運を左右する国家戦略的な最重要課題の 1 つであります。レアメタル輸出国の多くが何らかの資源保護施策を講じつつある現在、将来的な供給不安は必至であると考えます。だからこそ、使用済みのレアメタルを回収し、再生する技術の開発は技術立国日本を支える最重要テーマであると思います。今回の事業仕分けの名の下に、国の支援が打ち切られるようなことになれば、国家百年の計を損じることとなることは自明であり、予算が無意味に削減されることがないように切望するものであります。	希少元素の再生技術確立は、国家戦略的な重要課題である。
4459	その他	厚生労働省	難治性疾患克服研究	私は遠位型ミオパチーという難病と約 9 年ほど付き合っています。 最初に診断されたときは、「治療法がない」という情報しかありませんでしたが、最近になって病気の原因がわかってきました。 なんと少しでも病気を治したいと思っています。 これ以上、家族や周囲の方々に負担をかけたくありません！ どうかお願いします。私たち患者を助けてくださ	私たち以外にもまだまだ原因が解明されていない病気が多々あります。 ですが、研究にかかる費用を十分に賄えないため、研究もなかなか進まないのが現状です。 どうか研究費をもっと国からだしていただき、一人でも患者が減ってほしいと思います。

				い。 よろしく願います。	
4460	研究者	文部科学省	特別研究員事業	この事業の減額は行うべきではない。 この事業への予算の減額は日本の科学事業に大きな損失をきたすものである。	この事業は若手研究者を育成する上で欠かせないものです。 特に DC 制度は大学院博士課程の3年間を学生として過ごす、若手研究者には欠かせないものとなっています。 経済的な理由で研究者になることを諦めるということがあってはなりません。 日本の科学産業にとっても大きな損失になります。 優れた能力を持った人間が、それを認められ、その能力を生かしていくためにこの事業は絶対必要です。
4461	会社員	文部科学省	次世代スーパーコンピューターの開発利用	当該事業に対する予算は満額了承とすべきである 本事業の直接的／経済的効果のみならず、本事業の伸展に伴い同時に成長をする周辺技術への波及効果、経済的効果についても考慮の上判断をすべきであり、また判断できる人材により事業評価されるべきである	本事業は単に世界一のコンピュータを作るというものではなく、そのことによる電子技術、通信技術の向上や人材育成の効果、また計算機利用による製薬や環境評価、国土治水や社会問題の解決など幅の広い分野でのシミュレーションが可能になることから、多くの波及効果が期待できるところである。この種の技術は非常に有用であることから、他の国においても国家機密的に扱われるところであり、最先端の技術を用意に得られる環境は存在せず、自国において研究開発を行う必要の高い分野である。さらに量産効果のある民生機器ではないことから一般企業の製品としての開発には適さず、国の施策として実施することが好ましいものであると考える。
4462	会社員	文部科学省	GX ロケット（LNG 推進系飛行実証プロジェクト）	本事業を継続し、十分な予算配分をすべき 周辺技術への波及効果も含め、正当に評価可能で、かつ政治的・経済的に中立な人材による再評価を行うべきである	日本のロケット開発は諸外国に対し非常に優位な位置にあるものであり、また各国とも宇宙産業への参入を目指し切磋琢磨している状況にある。そのような中で本計画を中止、あるいは縮小することはこのような国際競争の中からの離脱を意味することになり、ひいては将来の日本の宇宙分野における国益の放棄に他ならないと考えるものである。また、宇宙分野の技術はロケット本体に対する直接的な技術の進歩を得られるばかりではなく、精密加工技術や通信、運用などその他周辺技術となる分野の成長と人材育成を助長する効果もあり、例えば町工場の精密加工技術による部品の供給などはよく知られた事実である。このような状況を勘案し、本事業を重点事業と位置づけ、十分なサポートをすべきものであると考える
4463	会社員	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring8）の運営体制の構築	十分な予算配分をすべきである 本事業の意義と成果を正当に判断できる、政治的に中立な人材による再評価を行うべきである	本事業の対象となる設備は、分析化学とそれを利用する産業にとっては非常に有効な手法を提供するものであり、そのことは過去の運用事例から明らかである。しかしながらこのような設備は非常に大規模かつ高価なものであり、それに対して1利用者の利用頻度はそれほど高くないものであることから、企業などが個別に持つことは効率的でなく、また中小企業にとっては手の届かない設備である。そのため、共通利用できる社会のインフラとしての役割を認識し国策として運用を行うべきものであると考える。また、これまで述べたように本来経済性を求めるべきものではなく、単純に本事業の関連したことによる製品化や分析による社会貢献度などの指標で評価すべきものであるので、政治的・経済的な指標による今回の事業仕分けの手法／メンバでの評価は正当性を欠くものであると考える。
4464	会社員	国土交通省	地震動情報の高度化に対応した建築物の耐震性能評価技術の開発	大変重要だと思います。 もっと力を入れて研究を進めていただきたいと思います。	近い将来実家（静岡県）の建て替えを考えており、東海地震などの巨大地震が大変心配です。 個人では対応に限界がありますので、予算・性能のバランスのよい建物を建てたいのですが、よくわかりません。 ぜひとも国でお金を出していただいて、研究をすすめてください。 また、避難場所となる小学校なども耐震性が高いのか低いのかよくわかりません。自宅が住めない場合には避難場所が大変重要ですので、こちらについてはもっと

					と情報を集めることが可能だと思います。国で強制的にでも情報を集められる公共施設については観測をしていただきたいと思います。
4465	会社員	国土交通省	地震動情報の高度化に対応した建築物の耐震性能評価技術の開発	積極的に推進してもらいたい。 ただし、観測を伴う研究計画としては予算が過小ではないか。	以下に箇条書きで示す。 1)観測される地震動の大きさに比べて、建物の被害（特にRC系の建物で）が過小である場合が多いことは、多くの識者の共通認識となっている。 2)解析に基づく詳細な事例検討はあるが、多くの場合、観測による裏付けが不足している。 3)解析的には説明が困難と見られる事例も多数存在し、現象面からアプローチするために、観測記録の充実が切望されている。 4)仮に、現行の建築基準法により建物に付与されている耐震性能が過大であるとすれば、国力を浪費し続けていることになる。一方、現象が未解明である以上、耐震性能が不足している事例を見逃している可能性もある。 5)1)～4)に述べた事柄を総合すると、地震観測記録と建物損傷度の不一致は、現在の耐震工学における最も深刻かつ重要な問題の一つと考えられ、解決が強く望まれる。 6)本テーマは、民間会社が独力で取り組むテーマとしては広範に過ぎ、学会独力で取り組むには予算面で困難を伴うことから、国として取り組むのが最もふさわしい課題と考えられる。
4466	研究者	文部科学省	重粒子線がん治療研究	重粒子線がん治療研究への予算配分に要求通りの措置をはかるべきである。	がん撲滅は政治政策の重点であるべきである。特に重粒子線がん治療は国際的にも日本がその先端を行っており、注目をあびている。高価な装置が難点と言われているが、研究開発を重点的に進めることにより、普及をはかってこそ価格の面で改善も進むのである。そうした点を鑑みて重粒子線がん治療の開発研究への予算措置は重要である。
4467	研究者	文部科学省	大強度陽子加速器による実験研究に関わる施策	十分な予算措置の配慮をお願いしたい。	現在稼働を開始したばかりの大強度陽子加速器であるが、設計仕様の運転に到達するためにも、予算措置が不可欠である。設計しように到達してこそ、国際競争力を持った最先端の基礎科学研究の一大拠点となりうる。何も世界一であるとか、ノーベル賞級の云々とかではなく、国際的に見て欧米と肩を並べた研究拠点がアジア地区にも必要である。
4468	会社員	総務省	三次元映像技術による超臨場感コミュニケーション技術	この研究開発については是非、予算の削減はしないようにしてください。	「三次元映像技術による超臨場感コミュニケーション技術」は単に立体音響・立体映像技術を使って立体テレビを開発するというような、娯楽目的の研究ではなく、画期的にコミュニケーションを進化させることで、例えば遠隔医療システムにおいては、患者と医者とか、あたかも一緒にその場にいるようなコミュニケーションを実現し、適切な診断を下すことを可能にします。今後の少子高齢化社会において、一人暮らしの世帯にも安心安全を提供する基盤技術となりますので、是非とも予算を削ることのないようにお願いします。
4469	研究者	文部科学省	振興調整費 女性研究者支援システム改革	女性研究者支援事業の継続を望むとともに、1/3 予算削減に反対します	民間企業と比べ、大学組織及び研究者の男女共同参画に関する意識は非常に低い。この理由は多々あると思われるが、この状況を脱し、女性研究者（特に理系）を増やしていくには、実態としてそういう環境を作ってしまうのではないかと考える。 環境を定着させるには、ある程度の期間が必要であり、全国への普及には今ここで予算を削減し、事業の勢いをそぐのは逆効果となる可能性が大きい。 本事業は、研究者の柔軟性を増すことで新しい発見・開発・創造につながることを期待される
4470	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	予算縮減（1/3-1/2）の裁定に憂慮。	収益性の論点から今回の結論に至っていることには、あまりにも現状認識がずれており、驚く限りである。基礎研究を担うツールとしての放射光施設の重要性は世界的によく認識されており、先進国以外でも投資をする国が増えている。これまで世界をけん引してきた一極であるSPring-8のアクティビティをこのような安易

					な最低で大きく減速させることは、日本の科学技術の土台を崩れさせ、国際的な地位を失墜させてしまう。カレールー事件の分析のイメージがあって、SPRing-8 は分析センターのような存在であるとの印象が強いのかもしれないが、これはマスコミ受けする成果にすぎず、もっとほかに基礎科学の発展のために利用されてきていることを強調したい。 SPRing-8 は無駄を省く努力をすべきことには賛成である。しかし、なぜ予算縮減（1/3-1/2）なのか？ヒアリングでは仕訳人が数値的根拠を問いたずかもしれないが、それでは 1/3-1/2 の根拠は誰か仕訳人が説明できるのか？
4471	研究者	文部科学省	産学イノベーション加速事業（うち、先端計測分析技術・機器開発）	事業の意図に関する認識がずれている。	本事業は、計測技術分野において将来の芽となる優れたアイデアを発掘し、実用の視点を常に強く意識しながら育てることを目的としていると理解している。企業の研究開発的な視点に立つと、リスクが高いためどこも手をつけないことを大いに奨励してやらせるべきである。特に日本企業はリスクととらない（社会構造上とれない）と思うので、本事業の目論みは評価したい。 本事業内の個々の課題は個別に評価され、はかばかしくないものは中止となる。企業経営的視点に乗せられない段階の計測技術開発を助ける枠組みとしての事業意義はぜひ理解してほしい。
4472	研究者	文部科学省	バイオリソース事業	バイオリソースは科学研究の基礎のさらに基盤を支える、その国の科学施策の屋台骨といえるもので、公費をもって、収集、開発、保存、品質管理、そして、広い活用を円滑に進める提供事業までを一貫して整備すべきと考えます。研究材料のなかでも「生物」は、一旦失われると復元できないばかりでなく、散逸したり管理を怠ると、どういった「生物」かというその遺伝的背景がわからなくなります。本来、極めて利用価値が高く、日本独自のリソースであったものが（外来種や野生種、他の実検系統種などとの交雑によって）いとも簡単に永遠に失われてしまうものです。「失う」は容易で「得る」ためには多大な時間、労力を要するのがバイオリソースです。そして、なによりも専門家によるしっかりした管理運営のもので利用を広げることにより、世界に冠たるわが国独自のライフサイエンスにもとづく 21 世紀型近未来社会への発展が可能となります。そのために、中長期的展望に立って公費でしっかりと推進すべき重要な事業であるとおもいます。	サイエンスは、産業革命の例をまたずとも長年蓄積された「知」の融合によって、突然しかし起こりうるべく熟成して飛躍的に進歩します。21 世紀初頭はライフサイエンスによって科学革命が起こる時期に相当し、先進国はじめ中国、インド、シンガポールなども 21 世紀型社会への展望のためにライフサイエンスへの基礎研究投資が加速されています。飛躍的進歩は「発想」によって起こり、「発想」は「人材」によって、そして「人材」と「発想」が結びつく「おこりうるべく熟成された環境」は質の高い「実験材料」と「解析技術」によってもたらされることを歴史が示しています。とくにバイオリソースは近年の成果例をあげるまでもなく、開発当初はどういった役に立つかわからなかったものが何十年もあとになって全く違った形で大きな「知財」へと豹変する可能性が大きく、どれだけのバイオリソース事業を行うかがそれぞれの国の基盤を形成していくといっても過言ではないとおもいます。5 年～10 年といったスパンでの成果や産業化を視野にいれるのであれば民間でも可能でしょうが、50 年以上といったスパンでの飛躍的進歩を日本から発信していくためにはこの 10 年でもうやく基礎ができつつあるバイオリソース事業をさらに公費で進展させていくべきと考えます。参考文献 Nature Reviews Genetics 9: 803-810, 2008 (http://dx.doi.org/10.1038/nrg2431)。
4473	研究者	文部科学省	ナショナルバイオリソースプロジェクト	バイオリソースは科学研究の基礎のさらに基盤を支える、その国の科学施策の屋台骨といえるもので、公費をもって、収集、開発、保存、品質管理、そして、広い活用を円滑に進める提供事業までを一貫して整備すべきと考えます。研究材料のなかでも「生物」は、一旦失われると復元できないばかりでなく、散逸したり管理を怠ると、どういった「生物」かというその遺伝的背景がわからなくなります。本来、極めて利用価値が高く、日本独自のリソースであったものが（外来種や野生種、他の実検系統種などとの交雑によって）いとも簡単に永遠に失われてしまうものです。「失う」は容易で「得る」ためには多大な時間、労力を要するのがバイオリソースです。そして、なによりも専門家によるしっかりした管理運営のもので利用を広げることにより、世界に冠たるわが国独自のライフサイエンスにもとづく 21 世紀型近未来社会への発展が可能となります。そのために、中長期的展望に立って公費でしっかりと推進すべき重要な事業であるとおもいます。	サイエンスは、産業革命の例をまたずとも長年蓄積された「知」の融合によって、突然しかし起こりうるべく熟成して飛躍的に進歩します。21 世紀初頭はライフサイエンスによって科学革命が起こる時期に相当し、先進国はじめ中国、インド、シンガポールなども 21 世紀型社会への展望のためにライフサイエンスへの基礎研究投資が加速されています。飛躍的進歩は「発想」によって起こり、「発想」は「人材」によって、そして「人材」と「発想」が結びつく「おこりうるべく熟成された環境」は質の高い「実験材料」と「解析技術」によってもたらされることを歴史が示しています。とくにバイオリソースは近年の成果例をあげるまでもなく、開発当初はどういった役に立つかわからなかったものが何十年もあとになって全く違った形で大きな「知財」へと豹変する可能性が大きく、どれだけのバイオリソース事業を行うかがそれぞれの国の基盤を形成していくといっても過言ではないとおもいます。5 年～10 年といったスパンでの成果や産業化を視野にいれるのであれば民間でも可能でしょうが、50 年以上といったスパンでの飛躍的進歩を日本から発信していくためにはこの 10 年でもうやく基礎ができつつあるバイオリソース事業をさらに公費で進展させていくべきと考えます。参考文献 Nature Reviews Genetics 9: 803-810, 2008 (http://dx.doi.org/10.1038/nrg2431)。
4474	研究者	文部科学省	振興調整費 女性研究者支援シ	予算の減額に反対します。女性研究者支援事業の継続を希望します。	女性が男性と同等に研究を進めて行くためには社会的な支援が必須です。

			STEM改革		育児、介護は意識改革、制度改革によって将来的に男性が女性と同等に行うようにする事が出来ますが、出産は必ず女性が行わなければいけません。私自身、第一子の妊娠時は産休以外休む必要がありませんでした（それでも約3ヶ月の研究停止は研究者にとっては大きな痛手です）、第二子妊娠時は妊娠7ヶ月から切迫早産でほとんど出勤できず、半年間自分で手を動かす事がほぼできませんでした。また、二人の子供が小さいため、ポスドクという不安定な身分なのに一人で研究をしながら子育てをするのは無理だと判断し、会社員である夫の転職が決まった際は自分が退職して付いて行かざるを得ませんでした。新しい環境での職探し、保育園探しに非常にストレスを感じました。 現代の若手研究者は男性でさえ常勤職員になることが難しく、ポスドクを短いスパンで転々としながら続けて行くという事が増えています。独身男性でさえ大変な世の中なのに、育児や介護を行っている女性研究者は学会参加にも制限がかかり（保育を行ってくれる学会もありますが当然保育料は自己負担になります）、日常の研究にも時間の制約がかかっています。このような状況は常勤のポストに就きたいと思っても採用に不利となってしまいます。 そのため、1年単位の契約、次年度予算次第の採用予定（科研が通ったら雇えるなど）といった採用で雇われるケースが多くなります。しかし、研究、特に自然科学等の研究にとって1年は短すぎるため研究の見通しを立てる事ができず、良い研究もなかなか生み出す事ができません。それと同時に子育ての計画も立てることが難しく、せめて5年継続（単年契約を更新するのではなく）してもらえたら、子育ての見通しもつけられるのに、と思います。出産にはある程度年齢制限があり、仕事に集中したいと思う年齢と重なります。出産をしても安心して戻ってきて、研究を続けられるポストをもっと増やしてもらいたいと思います。予算が減額されると、ポストの拡充ができなくなる研究施設も増えるのではないかと心配です。 女性に限定した雇用は逆差別だという意見もあるかと思いますが、雇用された男性が（将来）結婚して、家事、育児、介護に女性と同等に参加する（出産のことを考えると家事、育児、介護は女性よりも男性が積極的でも良いくらいだと思います）ならば当てはまると思います。このような政策への予算でもよいと思います。 子育てはいつか落ち着きます。その時に研究に専念できる環境にいるために、どうか支援をお願いします。
4475	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	今回の事業仕分けでSPring-8の予算を1/3から1/2減らすべきという裁定がでたことを知りましたが、これには絶対に反対です。 使用料1時間で6万円という金額を大学に所属しているユーザーの多くは支払うことができません、今までのような成果が出なくなることは明らかです。 創薬のターゲットとして注目を集めるタンパク質等は世界でも精力的に研究が行われており、競争が激しく行われています。 そのような中、世界と日本の一大学の研究室が競い、新しいタンパク質の構造解析を行っていくには、SPring-8の存在は非常に重要で、必須になってきます。 現在までにSPring-8は生命科学研究の発展に多大なる貢献をしていることは、これまでに上げられた成果を見れば一目瞭然です。 このようなことをふまえ、予算の減額をもう一度見直していただきたいと思います。	研究の世界はとても長いスパンで物事を見る必要があります、もし目先のことだけを考えSPring-8の予算が減らされることになれば、5年後、10年後の生命科学研究成果に多大な影響を与えることになることは必至であるため。

4476	研究者	文部科学省	特別研究員事業	この事業のさらなる充実を求めます。	高いスキルを身につけた研究者層の増員は、科学技術立国を目指すわが国の根幹を支えるものです。各先進国では、大学院生は有給ないしは、少なくとも授業料分はサポートされることが常識で、この事業が充実されなければ、優秀な人材ほど海外に流出してしまうこととなり、わが国の若手研究者層が空洞化してしまいます。
4477	会社員	文部科学省	先導的 IT スペシャリスト等育成推進プログラム	IT 産業は近年成長している分野であるが、日本が IT の競争力を失ってしまうと、その産業が一気に海外の企業に奪われてしまう可能性がある。 また現在、IT に関しては人材不足が叫ばれているため、日本が国際競争力を高めるためには、IT に関する有能な人材を育成する必要がある。 大学による研究成果である先進的な IT 技術を、企業の現場に生かすためには、国による支援が必要であると考えます。	IT に関しては、大学における研究が盛んに行われているが、企業ではその研究結果を十分に活用しているとは言いがたい。 また、大学における研究についても、実際の企業の開発現場を十分に考慮した研究が行われているとは限らない。 従って、大学と企業が連携し、実際の開発に役立つ真の IT 研究を実施しつつ、その結果を企業側が十分に活用できるような仕組みが必要である。 一方、企業側としては研究要素が強い取り組みには率先して投資することができないため、国による支援が不可欠であると考えます。
4478	研究者	文部科学省	特別研究員事業	前日の事業仕分け作業において判断された来年度のからの学振特別研究員事業に関わる予算削減の見直しを要求します。	優秀な若手研究者に対する研究支援は、5 年、10 年後の日本の科学技術産業、教育を発展させる上で非常に重要なことであり、向こう 2.3 年の国家予算削減の為に彼らの能力を抑制することは未来の日本社会にとって大変不利益であると考えられます。 社会繁栄にとって一番必要なことである「人材を育てる」作業を惜しむべきではないです。
4479	研究者	文部科学省	特別研究員事業	前日の事業仕分け作業において判断された来年度のからの学振特別研究員事業に関わる予算削減の見直しを要求します。	優秀な若手研究者に対する研究支援は、5 年、10 年後の日本の科学技術産業、教育を発展させる上で非常に重要なことであり、向こう 2.3 年の国家予算削減の為に彼らの能力を抑制することは未来の日本社会にとって大変不利益であると考えられます。 社会繁栄にとって一番必要なことである「人材を育てる」作業を惜しむべきではないです。
4480	研究者	文部科学省	特別研究員事業	前日の事業仕分け作業において判断された来年度のからの学振特別研究員事業に関わる予算削減の見直しを要求します。	優秀な若手研究者に対する研究支援は、5 年、10 年後の日本の科学技術産業、教育を発展させる上で非常に重要なことであり、向こう 2.3 年の国家予算削減の為に彼らの能力を抑制することは未来の日本社会にとって大変不利益であると考えられます。 社会繁栄にとって一番必要なことである「人材を育てる」作業を惜しむべきではないです。
4481	会社員	文部科学省	オーダーメイド医療の実現プログラム	予算の削減をできればしないで頂きたいと思えます。	現在行われている画一化医療では、患者が薬漬けになってしまいます。個人の医療にあわせた投薬量を決めるオーダーメイド医療に関して重点的に投資をし、投薬量の削減を目指すことを望みます。
4482	会社員	文部科学省	ゲノム医科学研究事業	予算の削減をできればしないで頂きたいと思えます。	これまでのがん研究はたんぱく質の解明ばかりでした。現在のゲノム科学においては疾患、とくに癌との係わり合いが大きくなっています。またオバマ大統領も 8 年間で NIH の癌研究予算を倍増するというコミットメントを示しました。したがって、以前のたんぱく質研究ではなく、ゲノム医科学に研究費を集中化させてほしいと思います。
4483	会社員	文部科学省	重粒子線がん治療研究	重粒子線がん治療研究を実施して頂きたい。	放射線治療は副作用などの体への負担が少なく、術後の生活の質が高い治療法です。特に、重粒子線を用いた本放射線治療は、これまでの放射線治療に比べ、がんの殺傷効果が高く、かつ、正常な細胞へのダメージを少なくできます。癌による死亡は年々増加し、国民の二人に一人が癌になるとのデータも出されています。国民の健康と福祉を守ることは国の重要な責務ではないでしょうか。そのことから本研究の実施が是非とも必要と考えます。
4484	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費／科学研究費補助金	日本の将来を考えるなら、「若手研究者向けの研究費補助／ポストドク支援」の予算は削減すべきではないと考えます。	これまで、若手向け科学研究費補助金（科研費）である「若手研究(B)」を 2 度いただいている立場から意見を述べさせていただきます。 最近の若手研究者の殆どは数年単位の任期制のポ

					ジョンに就いてます。つまり研究成果が2-3年で出なければクビです。そういった先の見えない不安定な職業にもかかわらず、若手研究者の皆さんは情熱を持って日夜研究に打ち込んでいる訳です。 数年前まで、私もそういったポジションに就いてました。幸い、私は若手研究(B)で研究費の補助をしていただきました。この時得られた研究成果により今のポジションがあり、国際会議で口頭発表をすることによって国際的にも認められるようになりました。この若手向けの研究費補助がなければ、今の私はありません。 他の様々な研究費助成、運営交付金等の予算一律カットは、必ず発言権・決定権のない若手研究者（ポスドク）にしわ寄せがいきます。国の最先端研究を下支えしているポスドクにです。このまま、ポスドクを支援／またはそこから抜け出せるきっかけを作るの予算（若手研究者育成）が削られると、若手の研究者は転職もしくは海外に流出することになり、日本の科学が衰退し始めるきっかけになります（実際、私のまわりで流出は始まっております）。 日本という国が科学立国を目指しているというなら、それを下支えている若手研究者の支援または研究費補助を切るべきではないと考えます。
4485	研究者	文部科学省	環境・エネルギー科学研究事業	環境・エネルギー科学研究の基礎研究支援は非常に重要で優先的に推進すべき課題であると考えます。	環境・エネルギー問題はいうまでもなく、21世紀の最重要課題であり、解決すべき問題がいっぱいあります。このような数多くの未解決な問題にブレークスルーをもたらすには基礎研究の支援が大変重要であり、日本がこの分野で世界のリーダーシップをとりたいのなら、この事業に支援すべきと考えます。
4486	会社員	文部科学省	重粒子線がん治療研究	ガンは大半の方がなる病気なので国民のために治療施設が増やしてほしい。それにより、多くのガン患者を助け、社会復帰できる人が増えることを望みます。	親戚の伯父にガンが見つかりましたが、患部が大きすぎるということから粒子線治療することができませんでした。この治療ができなかったのは技術的要因によるもので、結局外科的手術をおこない延命することができました。そのような状況により、技術的要因によるものならば技術開発を行うことで新たな治療ができると考えます。より楽に治療でき、社会復帰も安心してできるようなガン治療ができることを望んでおります。
4487	会社員	文部科学省	オーダーメイド医療の実現プログラム	人の命を大切に健康長寿社会を実現するためには、病気をしない事が、なによりも大切です。遺伝子を調べることで、あらかじめ病気に罹患しやすいかどうかわかれば、毎日の健康に注意し生活することが可能になり、健康的な長寿社会を実現することができると考えます。このような社会を実現するためには、オーダーメイド医療の実現プログラムが必要と考えられます。	オーダーメイド医療の実現プログラムでは、すでに約20万人もの患者の皆さんが、このプログラムの賛同し、将来の健康長寿社会を実現するために、自分の血液サンプルを提供してくれました。このサンプルは、バイオバンクに大切に保管されています。すでに薬の効果や副作用の有無と関連する遺伝子があることなどが分かりつつあります。今後研究が発展することで、さらに新しい遺伝子が見つかり、人の命を大切に健康長寿社会が実現できると考えられます。
4488	会社員	文部科学省	ゲノム医科学研究事業（一部）	個人の遺伝情報に応じた医療が実現すれば、人の命を大切にする健康長寿社会が実現できると考えます。	ゲノム医科学研究事業は、疾患のリスク診断、薬剤の効果や副作用を予測することで、個人の遺伝情報に応じた医療を実現することが目的です。研究が進展することで、患者さんのQOL（生活の質）向上、健康長寿社会の実現、医療費の効率的利用に繋がると考えられます。
4489	研究者	厚生労働省	先端的基盤開発研究事業 創薬基盤推進研究	最も優先すべき事業	今後、高齢化社会を迎える中、国民が安心して生活でき、その生活の質を高める上で、健康は最も重要であり、そのためには薬というものは欠かせないものである。そのため、創薬基盤を推進する本事業は極めて重要であり、本事業の成果により、新規創薬による難病疾患の克服や薬品価格の低下、さらには創薬に要する期間・費用の短縮・低下による国民の健康・生活の質の増進・向上及び薬物価格の低下による医療費の抑制につながる。またこれらにおける最新技術の特許を他国にとられると、多額の特許料を支払うはめになるが、一方でその逆も真であり、外貨獲得による経済への貢献も期待できる。
4490	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	優先すべき、極めて重要な事業	我が国の発展には科学技術の向上が不可欠であり、常に世界の最先端を目指す必要性があり、もしそれに敗れば、他国に多額の特許料を支払うハメになり、資源の少ない日本の没落は目に見えている。新たな技術・手法はえてして基礎研究から生まれるが、それを支える上で本事業は欠かせないものである。また、他の先進国に比べてその予算は極めて少ないもので

					あり、さらなる重点化を行う必要がある。
4491	研究者	文部科学省	脳科学研究戦略推進プログラム	脳科学研究戦略推進プログラムは、日本の進める科学技術関係施策の中でも、特に高い優先度をもって進めるべき施策であると考えます。現状の予算額は、必要最小限ぎりぎりの額となっており、削減対象とすべきではないと考えられます。	脳科学研究戦略推進プログラムの特に課題 A は、ブレインマシンインタフェース研究を核とするものです。この技術は、人間の脳や神経の情報で直接、義手(ロボットハンド)などの機械をコントロールできるようにするための技術であり、それはそのまま、四肢に障害をもつ患者さんあるいは手足の弱った高齢者の方々の社会参加を支えるという意味で、「人の命を大切に健康長寿社会の実現」に役立つものとなるだけでなく、新しい身体環境への脳の適応能力を研究することは、リハビリテーションなどの分野や、より基礎的な脳科学への影響も大きく、「革新的技術の推進」の中でも特に高い優先度をもって、(一刻も早く)実現すべき技術であると考えられます。
4492	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金(特に基盤研究 A,B,C.挑戦的萌芽研究.若手研究)は、日本の科学研究を支える予算の中でも、最も公平に選抜がなされていること、および、研究者の自由な発想に基づく研究を支えることにより、今日までの日本の科学技術を支えてきた予算であることが、広く認められています。このため特に高い優先度をもって進めるべき施策であると考えられ、現状の額でも不足気味であり、削減対象とすべきではないと考えられます。	科学研究費補助金(特に基盤研究 A,B,C.挑戦的萌芽研究.若手研究)は、日本の科学研究を支える予算の中でも、最も公平に選抜がなされていること、および、研究者の自由な発想に基づく研究を支えることにより、今日までの日本の科学技術を支えてきた予算であることが、広く認められています。このため特に高い優先度をもって進めるべき施策であると考えられ、現状の額でも不足気味であり、削減対象とすべきではないと考えられます。
4493	研究者	厚生労働省	先端基盤開発研究事業再生医療実用化研究医療機器開発推進研究	先端基盤開発研究事業は、日本の進める科学技術関係施策の中でも、高い優先度をもって進めるべき施策であると考えます。現状の予算額は、必要最小限ぎりぎりの額となっており、削減対象とすべきではないと考えられます。	先端基盤開発研究事業は、日本がこれまでに分野的に弱いとされてきた医療機器開発を支えるものです。「人の命を大切に健康長寿社会の実現」と「革新的技術の推進」の両面で、高い優先度をもって進めるべき施策であると考えられます。
4494	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設 (SPRING-8) の運営体制の構築	最重要政策課題として重点的に推進するべき	SPRING-8 は大型放射光装置として国内外の研究者に使われている。各研究を進める上での高性能な分析装置としての役割が大きく、この装置を前提と指定したうえでの実験方針・計画を立てているものも多く、その分野も物理、化学はもとより生物分野と多岐にわたる。 それらの研究の根幹となすものとして SPRING-8 の整備・運営は他の課題よりも重点的に推進すべきである。
4495	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	重点的に資源を配分することで、着実に実施すべき	各研究者の自由な発想に基づき展開する研究のための競争的資金であり、比較的自由に使える運営交付金が少なくなる現状で、日々の研究費の中で科学研究費補助金の重要性は高まっている。 革新的な研究は大型のプロジェクトよりも個々の研究者の自由な研究の中で見つかることが多く、このような比較的自由な発想を具現化できる研究のための資金は重要である。 このような研究の衰退を招かないためにも、この課題は着実に実施すべきである。
4496	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設 (SPRING-8) の運営体制の構築	これまでの運営交付金を維持し、かつ十分な放射光利用を保障すること。	高エネルギー X 線を利用できる唯一の国内施設であり、現在でも十分に利用すらできていません。特に、高エネルギー放射光透過力を利用した内部の残留応力測定は、原子力発電設備から広範な構造物の安全を確保するために不可欠の施設です。しかし、その実験ですら十分なビームタイムを確保できません。欧州 ESRF や米国 APS の同様施設では応力評価の専用ビームラインが整備され、エアバスやベンツなどの企業の応力評価測定が流れ作業のように進みます。SPRING-8 では、申請しては採択・不採択を繰り返すばかりで、応力評価では大きく水をあけられています。 さらに、基礎的技術の開発に収益性を求めることは、自ら国際競争力を失う失敗にもつながりかねません。無駄の典型たる軍事費の削減をせずに、教育・研究の予算を圧迫することは許し難い限りです。
4497	会社員	経済産業省	企業・個人の情報セキュリティ対策事業	インターネットでの注文・代金支払いにおいて安心・安全で簡単な基盤作りをお願いしたい。なりすましや個人情報漏洩等で漏洩情報により被害者本人に影響が及ばない基盤作りをお願いしたい。	インターネットでの注文・代金支払いにおいて、クレジットカード番号は情報漏洩の危険があり昨今の状況から使いたくない、かといってコンビニ支払いも面倒である。自宅インターネット操作完結で、情報漏洩の心配のない標準となるセキュリティ基盤作りが急務である。

4498	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	先日の事業仕分け作業において、上記、施策に関して、「一元化も含めシンプル化、予算は整理して縮減」と言う結果が出ましたが、科学研究費への縮減は、国内研究者の技術進歩、イノベーションの機会、及び研究に対するやる気を損なうものと思いますので、評価結果の撤回を強く要求します。	科学研究費は日本の研究者ひとりひとりの自由な発想に基づく研究の基盤であり、それを一時的にせよ削減することは、日本の科学技術力を将来に渡って大きく停滞させ、イノベーションの機会が大きく損なわれます。資金を縮減することによって研究全体が停止する場合も多くあります。評価結果の撤回を強く要求します。
4499	会社員	総務省	革新的な三次元映像技術による超臨場感コミュニケーション技術の研究開発	今後注力していくべき分野である。	ネットワークインフラが整ってくると、次に重要なのはそこで何を送るかという、コミュニケーションの質が重要となってくる。 コミュニケーションの質を上げる上では、「臨場感」を上げることが、心を豊かにするコミュニケーションという意味で重要。 日本は「ハイコンテキスト社会」であり、「臨場感コミュニケーション」とは相性が良い。 単に、解像度を上げることや、正確な3次元情報を再現するだけではなく、臨場感を超越した、人間にとってコミュニケーションに本当に必要な情報を抽出して送るというのが、高臨場感の先にあって、研究課題。 遠隔地同士の超臨場感コミュニケーション技術で繋ぐことによって、離れたままでも豊かなコミュニケーションが可能になり、移動のコストやストレスが削減できて、環境問題の改善にも大きな寄与ができる。
4500	団体職員	文部科学省	重粒子線がん治療研究	重粒子線がん治療研究は減額せずに継続すべき施策である。	現在国内で7施設が粒子線がん治療を実施し高い治療成績を得ている。国内各地で粒子線がん治療施設が建設中・計画中であり、今後も増えていくことが予想される。しかしながら、まだまだ臨床研究すべき点は多く、文科省の研究事業として、積極的な研究開発環境の整備が必要とされる。
4501	研究者	文部科学省	振興調整費若手研究者養成；科研費若手S.A.B；特別研究員奨励費	科学研究費は日本の研究者ひとりひとりの自由な発想に基づく研究の基盤です。それを一時的にせよ削減することは、日本の科学技術力を将来にわたって大きく停滞させ、イノベーションの機会が大きく損なわれ、国際競争力の低下につながります。また、資金を縮減することによって、研究全体が停止する場合も多くあります。 評価結果の撤回を強く要求します。	科学研究費による成果は、私たち研究者だけではなく、日本の未来を託すべき子どもの知の探究のためにあります。教育立国日本というならば、教育予算の縮減は国益を無視した横暴といってもよいでしょう。たかが1時間程度の仕分け作業で判別できるほど、科学研究費は軽々しいものではないことをご理解ください。
4502	研究者	文部科学省	次世代スーパーコンピュータ戦略プログラム準備研究	本意見は、地球電磁気・地球惑星圏学会 太陽地球惑星系科学シミュレーション分科会によって議論された内容を、世話人代表から提出させていただいたものです。 11月13日に行われた行政刷新会議の事業仕分け作業にて、国家プロジェクトとして進められている次世代スーパーコンピュータ開発プロジェクトが凍結と結論されました。私達は、今回の結論が我が国の科学技術の発展に多大な負の影響を与えることを危惧し、今回の判断を見直していただくよう、次の2点を意見します。 ・次世代スーパーコンピュータ開発を凍結することは、我が国がこれまで独自に培ってきたスーパーコンピュータ関連技術の存亡にかかわる政治判断であり、大きく国益を損なう可能性があります。それゆえ、凍結の判断を見直していただくことを要望いたします。 ・次世代スーパーコンピュータの開発を凍結することなく、評価コメントを真摯に受け止めながら、この機会に中・長期的なスーパーコンピュータ整備の国家戦略について、国の科学技術政策に照らし合わせつつ、幅広い議論を開始することを要望いたします。	最先端テクノロジーによって支えられる高性能スーパーコンピュータの開発は、世界一の性能を目指すことではじめて、世界トップクラスの技術を維持することができますと言えます。世界トップクラスの国産スーパーコンピュータ開発を推進するのであれば、10ペタフロップス級の計算機を欧米諸国が稼働を計画する2011～2012年を目処にこの性能を達成できる技術力を確保する必要があります。2009年11月のTOP500リストでは、国内最速のシステムである地球シミュレータ2は31位にすぎません。そして、地球シミュレータ2の性能はアジアにおいて（中国・韓国・中国・インドのシステムについて）5位にしかすぎませんから、保有するハードウェア的な計算リソースの差は歴然としています。個別のアプリケーションの成果は置いておいても、計算パワーの確保の観点では、世界に対して急速に遅れつつあることがわかります。この状況において、日本のスーパーコンピュータの開発技術・利用技術の世界と対等に戦えるレベルを維持する為には、財政が厳しい今の時代でさえも、次世代スーパーコンピュータ開発プロジェクトを凍結するわけにはいきません。 一般論として、一旦システムの技術開発を凍結すると、遅れを取り返すにはその数倍の期間を必要するといえます。それゆえ、開発の凍結によって、世界最先端との技術格差が取り返しのつかないレベルに拡大することを強く憂慮します。 現代科学において計算機の果たす役割はますます大きくなっており、世界的な競争が激化している最先

					端科学技術研究においては、最先端スーパーコンピュータを持つことは大きなパワーとなることは明白です。それゆえ、我が国の科学技術研究の基盤を支えるという点でも、世界トップクラスのスーパーコンピュータの開発を継続することは重要な意義があり、科学技術立国を標榜する我が国にとって、世界での競争力を維持する為には必要不可欠なインフラストラクチャーと考えるべきものです。これまで国内メーカーと研究者が協力して進めてきた、日本独自のスーパーコンピュータのアプリケーション開発のノウハウの蓄積を活かすためには、海外メーカーの思惑に左右されない、スーパーコンピュータのシステムとしてのインテグレーションのできる国内メーカーがあることは、非常に大きな強みです。このようなスーパーコンピュータを開発できる国内企業を支援することは、我が国の独自の科学技術政策を推進するのに必要な独自計算機の確保につながります。 このような観点に立てば、次世代スーパーコンピュータ開発プロジェクトを凍結することなく推進しながら、我が国の科学技術政策を実現するために、次世代だけではなく、更に次々世代のスーパーコンピュータをどのように整備するか戦略的な議論を進める必要があると考えます。科学技術の基盤インフラストラクチャーとして継続的にハードウェア・ソフトウェアの両面にわたって整備をすすめる体制が我が国にも必要です。日進月歩で進歩する計算パワーをどのように維持し続けるのかどうか、長期的な視野にたったロードマップを持つことでこそ、はじめて効果的な財政判断も行うことができるのではないのでしょうか。 日本はこれまで、エネルギー開発、防災、地球環境変動予測、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、宇宙開発、ものづくり、など、様々な分野で世界最先端レベルのシミュレーションを活用した成果をあげてきました。これらの成果の裏には、必ずしも充実した技術サポートスタッフのいない、日本の大学の研究環境の中で、国内の計算機メーカーが研究者のスーパーコンピュータ利用をサポートしてきた部分は少なくないでしょう。表に見えないこのような重要な要素を評価せずに、表に見えている計算機導入のコストを単純に比較することで、海外計算機の方が安いという判断を安易に行ってはなりません。 これまでに蓄積された技術を有効に活用し、戦略的に世界トップレベルのスーパーコンピュータを国として整備するのであれば、日本独自の開発を進めることは国益に叶ったものであると考えます。我が国が独自の計算パワーを保有することの重要さは、諸外国が独自の計算結果を持っている中で、我が国だけ同等の計算すらできない状況に陥った場合を想定すれば明らかです。独自の計算パワーを自ら開発できる力は、独自のハードウェア開発には力を注いでいない欧州や中国、インドとは異なり、世界で唯一、米国に対抗できる立場の確保につながります。巨額な国費を投入した結果が、単に米国の計算機メーカーに流れる状況は好ましくなく、国内メーカーへの投資となり、欧州やアジア諸国への販売などへ繋げることができれば、日本の国際競争力の向上にとってこの上ないことではないでしょう。
4503	研究者	文部科学省	知的クラスター創成事業	東海広域知的クラスター創成事業」の事業廃止の見直しを強く希望いたします。	東海広域知的クラスター創成事業は、プラズマ技術をメインにしておりますが、プラズマ技術はULS I 製造過程の70%のプロセスを担っております。またLSIのみならず、プラズマディスプレイや太陽電池、その他のあらゆる電子デバイス製造になくはならない技術であります。これらの技術は、将来の日本の科学技術や産業を担っていくものであり、これらの技術を発展させ、引き続き世界をリードしなければ日本の繁栄はないと考えます。名古屋地域はこのプラズマ技術を持つ学と、世界をリードする企業（トヨタ、デンソー、ガイシ、東芝等）が良い関係を保っており、これらによって産官学連携のスキームと新しい科学拠点が形成されると信じております。資源のない日本にとって、教育すなわち優秀な人材を育て、科学技術

					を發展させること以外に世界に勝てる要素はないと考えます。しかしながら、これらはすぐに結果が出るものではなく、１０年、２０年単位の中長期的にしか成果が見えてこないものです。科学技術に関して知識を持たない数人のＷＧの判断によって、これらの科学技術事業の廃止が提言されることに、日本の将来が非常に危惧されます。 現在、東海広域知的クラスター創成事業では、名古屋地域の学の伝統を元に、世界中からモノ、人、知恵が集まるスキームを創り上げるべく、努力をしております。５ヵ年計画で進んでおりましたこの事業のために大学をはじめとする各機関の努力、すなわちいままで積み重ねて構築してきたものが全て消滅してしまう事態になってしまいます。特に、東海広域知的クラスター創成事業はクラスター事業の中でも評価が高く、本事業が有用であることは評価点からも明らかです。モノづくりの最重要科学技術であるプラズマノ科学拠点の形成は、プラズマ技術のメッカである本地域しか実現できず、その先進プラズマノ科学ベースにした環境調和型高度機能性部材産業の推進は、我国の科学・教育と産業の発展へ深く寄与するものと信じております。
4504	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	科学研究費補助金の予算削減の見直しを強く希望いたします。	資源のない日本にとって、教育すなわち優秀な人材を育て、科学技術を發展させること以外に世界に勝てる要素はないと考えます。しかしながら、これらはすぐに結果が出るものではなく、１０年、２０年単位の中長期的にしか成果が見えてこないものです。科学技術立国日本にとって、すぐには芽がでない教育・研究に関して、種をまいておく必要はあるのでしょうか。科学技術は、いくつかある研究テーマの中のただ一つが花開くものであって、決して効率等の評価で推し量れるものではないと思います。
4505	会社員	文部科学省	オーダーメイド医療の実現プログラム	減額するべきではない。	バイオバンク等を活用することはオーダーメイド医療を実現する上で必要不可欠な要素であるため。また、本施策で得られた知見は基礎研究レベルでの新たな科学的考察をもたらすことも期待できるため。 「健康長寿社会の実現」は重点的に推進すべき課題であるのだから減額することに矛盾を感じる。
4506	会社員	文部科学省	ゲノム医科学研究事業(一部)	予算は増額するべき。	全ゲノム解析で得られる情報の価値は非常に高い。遺伝子が関わる疾患においてメカニズムベースでの理解に伴う医薬品開発に重要な情報をもたらすことが期待できる。世界的に先行することは産業面での優位性にも運動し、国内の雇用にも大きな影響があると考えられるため。
4507	会社員	総務省	超高速光エッジノード技術の研究開発	本テーマはタイムリーな提案であり、積極的に推進すべきと考える。	通信事業者でのルータは、回線交換的な運用を行うMPLSを用いているケースも多く、回線交換的なスイッチを取り入れるほうが、ネットワーク全体の電力低減を実現できると考える。 また、最新のTDMの技術としてOTNがあり、ITU-Tで現在標準化されつつあり、本研究の成果を国際標準化できる可能性が高い。
4508	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPRING-8）の運営体制の構築	SPRING-8は、少なくとも国内大学関係者は無料あるいは数万円程度の出費で使う事が出来る必要がある。運営に費用がかかるのだから利用料を取れ、との指摘は完全に的外れである。	SPRING-8のユーザーの大部分は大学関係者である。利用料を支払う予算が大学に配分されていないため、メンテナンス経費まで含めて課金されると、実質的にSPRING-8を使う事が出来るユーザーはほぼ居なくなってしまう。 SPRING-8を使うかどうかわからない大学にまでSPRING-8利用料に該当する費目で予算をつけるよりも、最初からSPRING-8に予算を回した方が効率的であるのは明らかである。現に高エネルギー加速器研究機構の放射光施設はその形で運用されており、かなり古い装置であるにもかかわらず国際的な競争力を保っているのみならず、教育にも大きく寄与している。
4509	研究者	文部科学省	科学研究費補助金	研究テーマを絞らないタイプの研究費である科研費は重要。テーマを絞るタイプの助成よりこちらを優先すべきである。種類が分かれ過ぎているとの指摘はもっともであり、まとめ	現状で複雑すぎるので、どの区分に応募すべきか/できるのか、大学関係者でも相当の時間をかけて検討しないといけないほどである。

				るべきである。	テーマを絞ってはいけない理由は、下村先生のノーベル賞を見ても分かるように、何の研究が役に立つかは事前に予測することが不可能であるためである。大学の運営費交付金が
4510	研究者	文部科学省	環境・エネルギー科学研究事業	革新的機能材料と高効率反応系に関する新原理構築を目指した基礎研究は、理化学研究所でしかできない、しかしスケールの大きな研究だと思います。特に、新規に立ち上がる「グリーン未来物質創成研究」はこれまでに類を見ない、基礎科学と環境・エネルギー問題とを結びつけたブレイクスルーの研究であり、このような研究を進めてこそ、日本の今後の環境技術の技術革新の道が開けると考えます。	科学は短期的な展望のみでその価値を判断してはならないと思います。基礎研究の少しずつの積み上げがやがて花開く、ある意味、地味な世界です。しかし、企業ではどうしても利潤を追求せざるを得ないため、そのような長期的な展望に立った基礎研究を行うことは不可能です。経済性を求める企業が追うことが出来ない基礎研究こそが、理化学研究所が行うべき研究であり、また、そのような研究を行うために、理化学研究所が存在しているのだと思います。そのような意味で、理化学研究所が行う、環境・エネルギー科学研究事業に期待しています。
4511	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	SPring-8 の予算要求に対して「3 分の 1 以上の削減」という判定ですが、この判定は日本の科学技術の発展に大きな不の影響を与えていると思います。現状維持あるいは、むしろ拡充すべきかと思っています。	世界 3 大放射光施設のひとつとしての SPring-8 の存在は、先端的研究の推進のみならず、産業利用（トヨタの所有するビームラインもありますし、企業グループが運営しているビームラインもあります）、人材育成、あるいは国際交流（台湾のビームラインがありますし、多数の外国人研究者によって利用されています）といった観点からも非常に大きな影響を与えています。もしこれまでの科学技術の発展を重視し、科学技術立国を目指すという日本の方針が変わらないのであれば、SPring-8 は必要な施設のひとつであると思います。 すでに以前から収益性の向上をという要求にしたがって、研究者が SPring-8 に移動するための旅費の支給（おそらく、全国どこからでも使いやすくなるための措置だった）の停止、実験に使用する消耗品の課金などが行われていて、私の知っている大学の研究者の一部のかたは、以前よりも SPring-8 に来られなくなったという話をしておられました。 これ以上の運営費用の減少は、おそらく人員を削減する方向を目指すしかありませんが、この場合、削減した人材（高度な技能を持つ技術者あるいは博士、修士の研究員を多数含むため）はすぐには元に戻せません。放射光の専用施設(SOR-ring)が世界で始めて日本にできたという歴史的な経緯から、現在でも放射光を用いた研究は世界と肩を並べる先端的な研究が多数あります。一時的な財政難を理由に安易に予算を削減すると、数年のうちにこの研究分野で日本が後進国になってもおかしくないと思います。 ですので、SPring-8 の予算を「3 分の 1 以上の削減」という判定にかんしてぜひ再考いただければと思います。
4512	研究者	経済産業省	高出力多波長複合レーザー加工開発プロジェクト	ものづくり技術は我が国の産業基盤を支えているものであるが、アジア諸国の追い上げが厳しい現在、より付加価値の高い加工技術の開発と実用化は不可欠であり、当該施策に対する積極的な国の支援が必要不可欠と考えます。	機械加工： 炭素繊維材料は難加工材料であるが軽量・高強度といった従来にない素材であり、今後、自動車等の輸送手段に普及させて我が国の技術の優位性を確保するとともに、運送産業における炭酸ガス排出を低減させなければならない。 太陽電池パネル、大面積ディスプレイ： 炭酸ガス排出の抑制に有用な太陽電池を普及させるために、また、我が国の強みの 1 つである大面積ディスプレイの競争力を維持するには、さらなる大面積デバイスのアニール処理を高速・高品位で行う技術が不可欠である。 レーザーを用いることの特長： 従来の機械加工や熱処理に比べて、加工対象が金属、半導体、プラスチック、ガラス、複合材料等極めて幅広いこと、空間的な加工精度がミクロン程度と高いこと、処理速度が速いこと等、レーザー加工は極めて有用である。 欧米に遅れをとらないために： 欧米、特にドイツではレーザー加工の有用性に着目

					して、長年にわたり国主導のレーザー開発、加工技術の産業育成を行っており、高出力連続発振ファイバーレーザー等に成果が結実している。一方、我が国ではかつて活発であったレーザー開発は欧米に大きく遅れをとっており、学术界のみならず産業界でも外国製のレーザーに席巻されつつあるのが実情であり、故障時の対応に苦慮しているだけでなく、レーザー技術そのものを外国に頼っているために我が国独自の応用技術の進展に大きな障害となっている。 加工企業・加工研究者・レーザー開発者が一体となった研究開発の重要性： 我が国独自の技術を開発し、ものづくりにおける優位性を確保し続けるには、加工企業・加工研究者・レーザー開発者が一体となった研究開発が不可欠であり、その観点から、当該施策はこれまでに例を見ない開発の在り方であり、その成果が大いに期待される。
4513	会社員	文部科学省	重粒子線がん治療関連研究	重粒子線がん治療関連研究に限らず、スパコン事業を含む科学技術分野の予算削減をするべきではないと思います。 これから日本をどうしていくのかビジョンを明確にして慎重に判断して欲しいです。	上に書きました
4514	研究者	文部科学省	科学技術振興調整費	ポストドク等の人件費を減らさないで欲しい。特に任期途中で解雇するような事態はさけるべき。任期終了でも継続が予定されている場合には、継続できるようにする。	人件費の削減は雇用不安に直結します。これ以上失業率を増やすべきではないと考えます。
4515	研究者	文部科学省	特別研究員事業	能力による選抜だけでなく、女性に対する支援や経済的な理由による選抜等、多角的な選抜方法を考えるべき。	博士をとった女性に対する支援はありますが、大学院に在籍している女性の支援は現在ありません。多角的な選抜方法により、効率的な運用が可能だと考えられます。
4516	研究者	文部科学省	次世代スーパーコンピュータの開発・利用	ポストドク等の人件費を減らさないで欲しい。特に任期途中で解雇するような事態はさけるべき。任期終了でも継続が予定されている場合には、継続できるようにする。	人件費の削減は雇用不安に直結します。これ以上失業率を増やすべきではないと考えます。
4517	研究者	文部科学省	世界トップレベル研究拠点プログラム	WPI プログラムが発足して2年になりますが、その間既にIPMU が世界の果たした役割は目覚ましい物があります。未だ始まりではありませんが、この研究機関は今後間違いなくトップの研究機関として世界をリードする力をつけています。是非今後ともこの研究機関の発展を図りたく思います。	IPMU は既に世界の指導的研究機関のひとつとして確固たる地位をしめつつあります。これは日本が世界に誇れる重要な財産だと思います。このような基礎科学の研究成果は直ぐに表に見えませんが、非常に深いところで社会に影響を及ぼしています。逆にこの様な計画が中断されれば、それを復活させるにはそれに数倍する時間とエネルギーが必要になります。
4518	団体職員	文部科学省	世界トップレベル研究拠点プログラム	このプログラムは今回 CSTP の方針である「1. 基礎研究、2. 科学技術振興の基盤、3. 人材育成等を強化する方針を改めて堅持」にのっとった内容として、ぜひ重点的に推進していただきたい。	アメリカで16年間研究生活を過ごし、今日本で国際研究拠点作りに励んでいる人間として、日本の研究機関の一番の問題点は人材が停滞し、日本人に限られているためにイノベーションや新しい分野の創成に結びつく活力がないことだと感じている。アメリカでは明らかに外国から研究者を積極的に呼んでくることでこの活力を生んでいる。しかし国境を越えた人材流動を行うのは日本の地理的・文化的条件が障害になり、それを乗り越え上回るような制度上の整備が必要になる。 日本の研究機関が世界レベルでの人材交流を行い、優秀な研究者が日本のパーマナントな職を求めたり、また日本でしばらく研究することがキャリアアップにつながるような体制を作っていくのには、まだまだハードルが高い。特に欧米の研究者に取って「日本に埋もれてしまう」という危機は非常に大きなものである。世界トップレベル研究拠点プログラムではこのハードルを崩す先駆けとして外国人研究者を数多く採用し、日本の研究機関のシステム改革を狙っている。 世界トップレベル研究拠点プログラムは拠点長として仕事をして来て、既に専任の研究者の6割が米・欧・亜から2割ずつ集まって来ており、制度上も様々な工夫をした結果、外国人研究者は非常に満足して日々研究に没頭している。徐々に日本が世界的な人材流動の枠の中に入ってきていることをひしひしと感じている。このような拠点を日本で更に充実していくことで、ぜひ日本が世界の中で外国人研究者が「あたりまえ」

					のように就職先として考える場所になることを可能にし、日本を変えていきたい。 ぜひこのプログラムのご支援をお願いします。
4519	研究者	文部科学省	産学官民連携による地域イノベーションクラスタ創成事業（仮称）	事業仕分けで廃止となったが、復活するべき。	米国西海岸（サンフランシスコベイ）やハーバード・MIT 周辺のようなネットワークが日本にも必要
4520	研究者	文部科学省	オーダーメイド医療の実現プログラム	もっと力を入れるべき。	医療費高騰や副作用発生を鑑み、個人の体質に応じた治療・予防医学を推進させなければならない。
4521	会社員	文部科学省	オーダーメイド医療の実現プログラム	大切な事業であり、今後より一層国民の健康を保てるようにする為に、予算削減に反対です。	オーダーメイド医療実現化に向け、国がバックアップをし、世界規模で行っているこのプロジェクトが如何に重要であり、国民にとって如何に大切であるか理解して頂きたいです。 現在副作用で多くの患者さんが苦しんでいる中、オーダーメイド医療が実現化すれば、確実に副作用で亡くなる方、副作用の苦しみが軽減される方、多くの患者さんが今よりも苦しみから解放されます。 このプロジェクトは国民全員に関わるプロジェクトです。 予算を削減することにより、遅れることがあってはいけなプロジェクトです。 患者さんの苦しみを考えて下さい。
4522	会社員	文部科学省	ゲノム医科学研究事業（一部）	世界規模で行われているこの事業の今後更なる診断法・予防法の発展を願います。	長寿社会であるこの日本ですが、病にかかり多くの患者さんが苦しんでいます。 個の医療が実現することにより、副作用で亡くなる方、副作用で苦しむ方が軽減されるのは間違いありません。 この事業は国民全員に関わる事業であり、世界規模で重要であります。
4523	団体職員	文部科学省	重粒子線がん治療研究	わが国で開発された重粒子線がん治療は 15 年の臨床研究実績しかないが、当面のがん治療の救世主的存在である。救命効果の期待できない患者にいたずらに化学療法を施すよりは重粒子線治療を施せる環境整備・研究を継続し研究開発をとめるべきではない。	現在のがん治療において、手術、化学療法、放射線療法、免疫療法においてそれぞれの特徴をすべて合わせてもがんそのものを阻止することできない。 がんが局所にとどまり大きく進行し、広く浸潤する過程では中心に低酸素領域が形成される。がん細胞はこの低酸素の状態でも生き延びられるよう細胞に進化が起こる。 この低酸素細胞は化学療法、通常の放射線療法、免疫療法ではまったく歯が立たない。唯一重粒子線は低酸素のがん細胞を死滅させられる大きいがん殺傷力を持っている。 現在の抗がん剤の最先端の薬品でも、低酸素細胞を殺傷することはできない。 当面 50 年から 100 年の研究でも転移を引き起こす低酸素細胞を死滅できそうな抗がん剤は発見できそうにないと専門家は見ている。 早期診断により発見されたがん小さい内に手術なり放射線治療し、たとえ大きく成長したとしても、転移する前であれば抗がん剤ではなく重粒子線により中心部分にある低酸素領域にひそむ低酸素細胞を根絶やしにする治療方法を選択すべきである。
4524	研究者	経済産業省	エネルギーITS 推進事業	エネルギーITS プロジェクトは自動車交通における省エネルギー化の推進だけでなく、安全性や交通円滑化による経済活動の活性化をも視野に入れた研究開発である。その成果は温室効果ガス排出量削減だけにとどまらず、国民生活の質の向上へもつながる	これまで日本が得意としてきた自動車産業も、中国をはじめとする国々が技術力を付けて台頭し、従来の欧米各国との技術開発競争も激化の一途をたどっていることから、現状のままでは日本が凋落してしまう可能性も否定できない。

				め、本プロジェクトは国費を投じるに十分値するものであり、是非とも継続・推進を望む。	本プロジェクトの推進は日本が世界に誇る自動車技術・関連技術をより強固なものにすることができ、同時に、プロジェクトの活性によって有能な研究者・技術者を多く輩出できる。現在、本プロジェクトは関連する研究者・技術者が結束して取り組んでいる最中であり、実証実験も進んでいる。また大学の研究者も多く参画しており、若手研究者・技術者の育成や学生の研究・教育指導にも役立っている。 高い技術力は多くの研究者・技術者の努力の結実によって培われる。自動車技術の向上と世界競争力の強化だけでなく、国民生活をも視野に入れ、人材育成にも役立つ本プロジェクトは世界現況を見ても国策・国費による推進が意味をなす。
4525	その他	文部科学省	環境－エネルギー科学研究事業	現在の CO2 削減方法および、低消費電力化への流れは急速に進歩しているので、この先十数年はしのげそうであるが、数十年後を考えると先行き不安を感じる。画期的な CO2 削減方法や発電・蓄電方法などを実現できる基礎的な研究は重要であると思う。	将来性を見越して新たな技術による画期的な改善策を打ち立てられるようにして欲しい為。
4526	研究者	文部科学省	実践型研究リーダー養成事業	本事業は、過去の施策で多くのポストドクを生んできたが実業界の需要が少なく、大学院後期課程へすすむ学生が少ない現状を修正するものかと思う。しかしながら、選択的に選ばれた事業がうまくいっても需要向上につながるとは思えません。実業界が望むのは役に立つ研究者であり、少数の Best Practice を作っても効果がありません。	それは、本質的に大学院の研究者は独創性を競うもので、それを大学で教育しているからです。独創性と協調性は相反する傾向があり、博士取得者を実業界で役立つ独創且つ協調性のあるリーダーとするには、大学での教育の変革が必要です。つまり、チームで協調して研究する教育を大学で行うことが必要です。現状の大学のスタッフは独創性を磨いてきた方々なので、独創性の涵養は実践的に身につけています（論文での発表そのものが競争的で、独創性を要求されている）が、協調性に欠けるようです。
4527	研究者	文部科学省	世界トップレベルの研究拠点プログラム	限られた予算を数少ない研究拠点に集中するやり方は、会社経営の手法と同じですが、大学や国研では疑問があります。過度の集中で他の研究者を枯渇させることになる危険があるからです。	理由（１）上記１）で述べたとおり拠点に選ばれたところのリーダーが他人との協調性やコーディネートにたけた方であるか？その選定が重要です。EU の大統領にベルギーの方が選ばれたのは決して偶然ではなく、ベルギーは大国に挟まれた小国で歴史的に調整やコーディネートがうまい方が輩出している国で、過去の全欧州プロジェクトのリーダーに選ばれている例は多いです。 （２）花に例えると美しい１輪の花を作るのに、他の見劣りする枝花を剪定しているようなものです。且つ必要な花以外の根への栄養を断つやり方になっているかもしれませんが。特に基礎研究は多様なアイデアを大切に育てる我慢が必要です。焦っては一過性の成果しか得られないことが多いです。
4528	研究者	経済産業省	新エネルギーベンチャー技術革新事業	本事業に、多様な技術を海外展開するための育成事業とする性格も持たせてほしい。ベンチャーがもつ技術の中にそれにふさわしいものが多々あると思うので、国として支援をする価値があると思う。	日本が 25%削減することは大切だが、世界的に CO2 排出量を抑えることがより本質的で重要である。そのためには国は従来から行ってきた効率向上や製作コストの低減技術への研究投資を自国にするだけでなく エネルギー不足や貧困にあえぐ世界の国々や地域へ太陽電池を普及させることに投資する必要があると考える。「太陽電池の普及」とは単に太陽電池の完成品を支給するだけでなく、永続的に太陽電池をそれらの国や地域で作れるように「それらの国々や地域の事情に合った太陽電池製造技術を供与あるいは育成支援」することを意味している。これには次のような効果が期待できる。 １． CO2 の発生量は人類の文化・生活の向上に伴うエネルギー消費の増加を示す指標といえるが、これから貧困をなくし、文化生活水準を上げる努力が続けている発展途上国が同じような（エネルギー使用量の増加を CO2 の大量発生を招く発電方式にたよる）道を歩まないようにするには再生可能エネルギー、特に太陽電池が better な選択である。 ２． 太陽光は他のエネルギー源に比べて資源の局在が比較的にないので、地球の各地域で公平にかつ永続的に利用できるエネルギーである。そのため資源争奪紛争の起こる恐れが薄い。 ３． 上記活動は排出権取引の対象となりうる行為と思われる。あるいは技術移転によってその国で製造される太陽電池の製造量の一部を毎年我が国の貢献分として国際的に認めてもらうことができるかもしれない

					い。 4. この恩恵を受けた途上国・地域は生活水準の上昇により、貧困と人口増加の穏やかな抑制ができるようになり、かつまた将来の日本製品の顧客となる可能性が高い。 然しながら、発展途上国へ移転する技術としては、現在世界的な効率向上競争や大規模生産によるコスト削減競争の渦中にある高度な先端技術を集約した太陽電池製造技術では技術基盤のない途上国へそのまま移転しにくいと、技術基盤の脆弱な発展途上国でも少しの努力で生産可能になる、（現状の効率は高くはないが）簡便に安価に製造できる技術がふさわしいと考えている。例えば薄膜シリコン太陽電池を例にとれば、PECVDのような製造プロセスよりも熱CVDのような技術が有力と思われる。このような技術はおおざっぱに言って（選択と集中政策の結果）すでに国の研究投資が少なくなっているものが多いので、ベンチャによる水平展開がふさわしいものとする。 なお、これらの技術は対象となる国々や地域にあうようにカスタマイズする必要があるとともに、研究者や技術者育成を同時に行うプログラムが必要と考える。そのプログラムを実現可能な内容に詰めていくには今後より詳細な検討が必要であるが、政府レベルの合意のもとに、両国の大学等の研究機関、教育機関等の連携が必須であろう。
4529	研究者	文部科学省	特別研究員事業	予算削減には反対である。	我が国の科学技術のレベルはかなり高いところまで到達したのは事実だが、欧米よりも優れているとは必ずしも言えない。 しかしここで若手研究員の育成の重点の手を緩めてしまうことは、彼らの頭脳の国外流出を意味する。その結果近い将来、我が国は科学技術トップレベルから脱落し、他の国の活躍を指をくわえながら見ているしかなくなるだろう。私は日本という国に誇りを持っている。正直私の研究分野ではアジア勢の中で日本は頭一つ抜けていると思っている。その誇りを汚さないでほしい。
4530	研究者	文部科学省	大学院教育改革推進事業(うちグローバルCOEプログラム)	予算削減には反対である。	我が国の科学技術のレベルはかなり高いところまで到達したのは事実だが、欧米よりも優れているとは必ずしも言えない。 しかしここで若手研究員の育成の重点の手を緩めてしまうことは、彼らの頭脳の国外流出を意味する。その結果近い将来、我が国は科学技術トップレベルから脱落し、他の国の活躍を指をくわえながら見ているしかなくなるだろう。私は日本という国に誇りを持っている。正直私の研究分野ではアジア勢の中で日本は頭一つ抜けていると思っている。その誇りを汚さないでほしい。
4531	研究者	文部科学省	分子イメージング研究戦略推進プログラム	生体内分子を可視化する分子イメージング技術の向上は、今後の疾患診断や予後の予測に不可欠な技術となる可能性を秘めている。予算の削減は、研究の停止につながり、科学技術の分野で日本から世界トップと誇れるものが無くなってしまふ。	癌等、昔は不治の病と考えられて来た病気でも、現在では早期発見すれば治る病気になりつつある。分子イメージング分野は、早期発見にも直結する分野であり、また、非侵襲的な診断が可能な事から、患者のQOLを低下させる事無く診断が可能になる。 この、分子イメージング研究の分野は、医学、生物学、工学それぞれが融合して発展してゆくものであり、日本の科学技術を支える大きな柱となっている。 日本からも世界に誇れる進化や発見を発信していかなくては、世界から取り残される。2位では意味が大きく変わってしまう。トップを目指さなくてはこの国の科学がどんどん衰退してしまう。 日本は、先進国にも関わらず、国が教育や研究に掛ける予算が異常に少ない。教育や研究から予算を削減してしまえば、将来の発展が望めなくなる。
4532	研究者	文部科学省	本格的利用期に適した大型放射光施設（SPring-8）の運営体制の構築	「3分の1以上の削減」という判定の見直し、撤回を強く求めます。	大型放射光施設は基礎科学から応用に至る広い分野で大きな成果を上げている。産業利用の部分のみを取り上げて予算を大幅削減するのは、実質運転停止と同じである。大型放射光施設の日本の科学・技術に対する大きな貢献を考えると、日本の科学・技術の息の根を止めるような政策は日本の将来に大きな禍